

民間提案型官民連携モデリング事業

(グリーン社会の実現 調査テーマ 3-②)

グリーンインフラに関する官民連携の包括管理・運営サービス

報 告 書

令和8年2月

国土交通省総合政策局
株式会社建設技術研究所

民間提案型官民連携モデリング事業
(グリーン社会の実現 調査テーマ 3-②) 目次

1 章. 調査概要.....	1
1-1. 調査目的.....	1
1-2. 調査概要.....	1
1-3. 調査項目の概要.....	4
1-4. 検討ステップ（検討フロー）.....	6
2 章. 導入検討先自治体の概況.....	7
2-1. 導入検討先自治体の基礎情報.....	7
2-1.1 杉並区の概要.....	7
2-1.2 人口動態.....	8
2-1.3 財政状況.....	9
2-1.4 職員数の推移.....	9
2-2. 対象施設（インフラ）の基礎情報.....	11
2-3. 導入検討先自治体の現状及び抱えている課題.....	13
2-3.1 頻発する豪雨と浸水被害.....	13
2-3.2 合流式下水道.....	17
3 章. 導入検討先自治体での検討状況及び抱えている課題.....	0
3-1. 導入検討先自治体での検討状況.....	0
3-2. 導入検討先自治体で抱えている課題.....	5
4 章. 調査内容.....	6
4-1. GIに関する現状のデータ整理.....	7
4-1.1 現状のデータ整理.....	7
4-1.2 杉並区のグリーンインフラ.....	8
4-2. 中間支援組織の発掘.....	9
4-2.1 中間支援組織の定義.....	9
4-2.2 中間支援組織の発掘.....	11
4-3. 相談窓口の開設.....	20
4-3.1 すぎなみボイスの検証.....	21
4-3.2 相談窓口設置箇所の検討.....	23
4-3.3 窓口の運用方法の検討.....	24
4-3.4 窓口の構築（WEB）.....	26
4-3.5 窓口の運用（WEB）.....	31
4-3.6 フォロー・閲覧数の推移.....	36
4-3.7 対面の相談窓口.....	38
4-3.8 イベントでの対面相談窓口の試行.....	43
4-4. 専門家派遣制度.....	45

4-4.1	専門家派遣制度の検討の概要	46
4-4.2	専門家派遣検討に関する既往の状況	46
4-4.3	専門性の分類と候補者	46
4-4.4	専門家派遣のステップ	49
4-4.5	専門家派遣の試行企画	50
4-4.6	グリーンインフラ・カルテの検討	51
4-4.7	専門家派遣制度を横展開するにあたってのポイント	54
4-5.	MAP 作成・公開	55
4-5.1	実施概要	56
4-5.2	公開環境の選定	56
4-5.3	Google マイマップについて	57
4-5.4	公開データ	58
4-5.5	成果	62
4-5.6	マップの運用方法	62
4-6.	認証制度の作成	63
4-6.1	認証制度について	63
4-6.2	登録制度『あめにわのわ』（仮）の検討	63
4-7.	体験の場の提供	67
4-7.1	体験の場の設定方法	68
4-7.2	体験の場の実施企画・準備	68
4-7.3	体験の場 WS の実施	70
4-8.	資金確保の仕組みづくり	75
4-8.1	事例調査	75
4-8.2	杉並での仕組み検討	78
4-9.	中間支援組織による運営の試行	79
4-9.1	運営の試行	79
4-9.2	試行結果を踏まえた中間支援組織の運営体制の検討	80
4-10.	運営調整	83
4-11.	地方公共団体にとっての有効性	87
5章.	今後の進め方	89
5-1.	今後の事業化にあたっての検討事項・課題	89
5-2.	今後の事業化に向けたスケジュール	90
5-2.1	スケジュール	90
5-2.2	杉並区におけるグリーンインフラの展開	95

1章. 調査概要

1-1. 調査目的

本調査は、杉並区を対象に、モデル事業の構築に向けた事業手法・スキームの導入検討を行う。詳細は以下に示すとおりである。

グリーンインフラは複数の機能を有するため、様々な自治体の施策に関連するほか、推進、整備にあたっては関係機関が複数にまたがり、方針や整備に至るまでの調整事項が多く存在するため、本調査では、杉並区を対象としてグリーンインフラを推進するために一元的な情報基盤整備（場づくり）の仕組みや、官民連携の橋渡し役となる中間支援組織づくりを検討することを目的とする。

なお、本調査におけるグリーンインフラの推進とは、区民に、杉並区が抱える浸水被害や合流式下水道による河川への負荷の課題やグリーンインフラの定義、杉並区が目指すグリーンインフラのビジョンの理解を広げ、対策として雨庭の整備を公共空間と民有地にて広めていくこととする。

1-2. 調査概要

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| (1) 調査業務名称 | 民間提案型官民連携モデリング事業（調査テーマ番号 3-②） |
| (2) タイトル | グリーンインフラに関する官民連携の包括管理・運営サービス |
| (3) 調査テーマ | 分野：グリーン社会の実現
3-②官と民の共働 |
| (4) 履行期間 | 令和7年7月7日～令和8年2月19日 |
| (5) 調査委託先民間事業者 | 株式会社建設技術研究所 |
| (6) 導入検討先地方公共団体 | 東京都杉並区 |

【調査名】グリーンインフラに関する官民連携の包括管理・運営サービス

- 3-0 新技術の活用
- 3-2 官と民の共創

【実施主体】株式会社建設技術研究所/地方公共団体：東京都杉並区

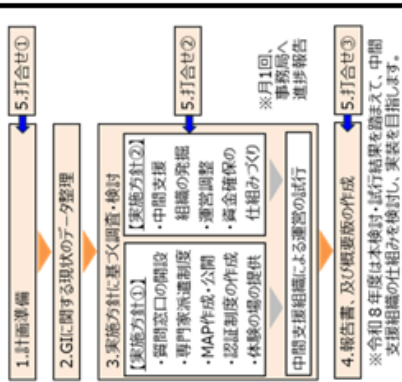
① 調査概要

【課題】宅地が大部分を占める杉並区でG1を推進するためには、区民の主体的な関わりや協働が必要である。また、区民が必要な情報を得ようとした場合、GIは関連情報が多岐に亘るため、すぐに入手できない課題がある。さらに杉並区が問い合わせを受けた場合、人員不足や公平性の観点から迅速・的確な回答ができない課題がある。

【目的】これらの状況を踏まえ、本調査では、一元的な情報基盤整備（場づくり）の仕組みや、官民連携の橋渡し役となる中間支援組織づくりを検討することを目的とした。

② 実施方針・フロー

【実施方針】
 実施方針①は『一元的な情報基盤整備（場づくり）』として、相談窓口、専門家派遣、事例MAP作成、認証制度の作成、体験の提供を検討した。
 また、実施方針②で『情報基盤を用いた包括管理・運営の提供』をめざした中間支援組織の発掘、資金確保の検討等を行い、運営を試行した。
 これにより杉並区においてG1の推進を図る検討を行った。



③ 自治体概要

【人口・面積・立地】人口約57万人、面積34.06km²、東京23区の西部に位置
 【自然の現状】緑被率約2割、神田川流域（神田川、善福寺川、妙正寺川）
 【区内団体】認証NPO法人数：305、認定特別認定NPO法人数：9、区登録環境団体：24、区立公園に係るボランティア団体：180ほか
 【自治体の抱える課題など】

杉並区の位置

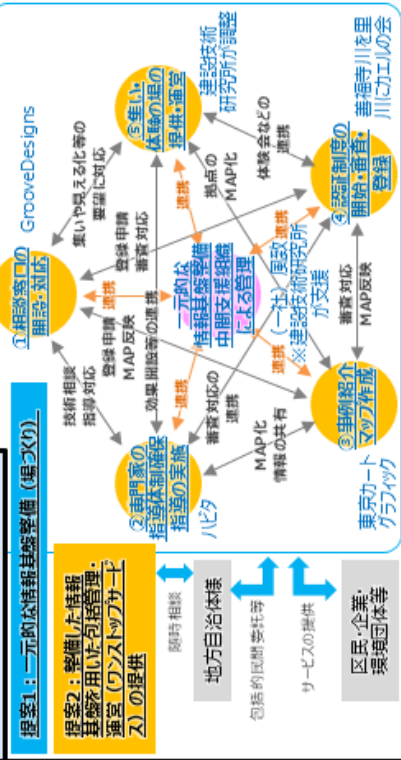


人口動態	財政状況	職員数
<p>令和6年1月1日の年齢構成は、10歳代以下が少なく、最も多い世代は25～29歳となっている。</p>	<p>近5年の予算は一般会計の増加に連れ、全体も増加傾向にある。</p>	<p>平成27年度以降である、29年度以降は増加傾向にある。年齢構成は、30歳代前半から20歳代の若手職員が多く、40歳代が他の年代に比べて少ない傾向にある。</p>

令和6年1月1日の年齢構成は、10歳代以下が少なく、最も多い世代は25～29歳となっている。近5年の予算は一般会計の増加に連れ、全体も増加傾向にある。平成27年度以降である、29年度以降は増加傾向にある。年齢構成は、30歳代前半から20歳代の若手職員が多く、40歳代が他の年代に比べて少ない傾向にある。

グリーンインフラの推進を実施する区民主体の持続可能な体制の在り方およびその方向性・方針を確定すること。
 関係者が情報共有するための情報基盤の在り方と活用方針について、既存のシステムを考慮したうえでユーザー目線で検討し構築していくこと。

④ スキームの概要



- 3-① 新技術の活用
- 3-② 官と民の役割

【調査名】グリーンインフラに関する官民連携の包括管理・運営サービス

【実施主体】株式会社建設技術研究所/地方公共団体：東京都杉並区

⑤ 調査結果

<p>【GIに関する現状のデータ整理】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図情報として基盤となる地形、地質、土地利用、緑地の分布、公共施設の位置、浸水実績、浸水想定などのデータを整理 ・令和6年度のGIAS会議の実施状況を把握・整理した地図情報から事例マップの基盤データへ活用
<p>① 実施方針 二元的な情報基盤整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月17日にすぎなみグラスに「地域のグリーンインフラの輪を広げよう」のページ開設 ・GIの紹介、体験の場の実施報告等の記事を投稿した結果、個別相談窓口への相談が5件あり、実際に対応を開始
<p>② 実施方針 包括管理・運営の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家は必ずしも派遣するものではないため、派遣制度については、派遣ではなく専門家との連携を定義することとした ・GIに必要な専門知識から、連携する専門家リストを作成、相談への対応を想定したとアラインメント、現場のカリテラを検討
<p>③ 実施方針 包括管理・運営の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Googlemapを活用して事例MAPを制作。 ・基盤情報として、地形、流域界、浸水実績、浸水想定ハザードマップの状況を掲載し、その上にGIの事例を解説付きで表示できるようにした。事例を追加していくことでGIの広がりを見える化する。
<p>④ 実施方針 包括管理・運営の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認証制度を行うには事例数が少ないため、GIを広げることが念頭に登録制度として検討 ・登録者への活動インセンティブとなるように、登録時にランクをつけ、ランクに応じた「なみすけ」のステッカーを配布する仕組みを検討
<p>⑤ 実施方針 包括管理・運営の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラを体験して理解してもらえらる場として、善福寺川や区立柏の宮公園にて体験会を企画、開催 ・浸水リスクや合流式下水道の課題、グリーンインフラの雨庭の解説して理解を広げた。浸透実験、雨庭メンテナンス体験を実施
<p>⑥ 実施方針 包括管理・運営の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・R7.3作成の杉並区グリーンインフラビジョンをもとに、中間支援組織に求められる役割や能力を整理し、中間支援組織として一般社団法人風致を確定 ・風致とともに杉並区のグリーンインフラの定義、キックオフを検討して設定
<p>⑦ 実施方針 包括管理・運営の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本検討全般の調整 ・相談窓口開設、体験の場、その他議論を重ねて中間支援の試行運営をサポートした
<p>⑧ 実施方針 包括管理・運営の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中間支援組織の役割を果たすための資金確保、今回連携している風致単体のビジネスプランについて議論 ・専門家派遣費用、相談窓口の対応などの報酬、研修会などの参加費、公的補助金、広告、物販販売等による可能性を整理
<p>⑨ 実施方針 包括管理・運営の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試行を踏まえ、中間支援組織の運営イメージを検討したほか、中間支援に求められる能力を見直した。中間支援組織は行政と区民のつなぎ役として、地域の核となる団体や人とのネットワークを築き、GIの推進を区の全域に展開していく役割を担う。行政と中間支援組織の役割分担を整理。

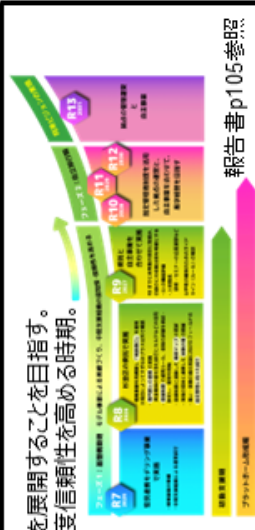


⑥ 事業化に向けた展望

中間支援組織が自立して杉並区内でのグリーンインフラの支援を展開することを旨とする。
 フェーズ1) 主たる事業による実績づくり、中間支援組織の認知度・信頼性を高める時期。
 フェーズ2) 委託により中間支援の業務を実施する。
 フェーズ3) 指定管理者制度を活用した拠点の運営と自主事業を合わせて黒字経営を目指す。
 フェーズ4) 拠点の運営管理と自主事業による自立。
 自走して、行政と対等なパートナーとして、ともに公共サービスを担う組織となる。

⑦ 自治体からのコメント

行政と区民の間のコミュニケーションを円滑にする翻訳者として中間支援組織が機能していた。各ケースに応じて区民にかみ砕いて情報を伝えることができる。中間支援組織の自立に向けて、今回の取組を踏まえつつ、今後も効果的なあり方について検討していきたい。



報告書 p105 参照

1-3. 調査項目の概要

住宅地が7割以上を占める杉並区内におけるグリーンインフラ（以下、GIと示す）の実装では、区民の主体的な関わりや協働のほか、企業との協働が欠かすことができない。

また、区民がGIに関する情報を得ようとした場合、関連情報が多岐に亘るため、現状ではすぐに入手できない。さらに杉並区が問い合わせを受けた場合に、人員不足や公平性の観点から迅速・的確な回答ができない課題がある。

これらを踏まえて、様々な立場の関係者が連携して取組を進めるため、一元的な情報基盤整備（場づくり）の仕組みの検討、情報基盤整備を用いた包括管理・運営の提供の試行による、グリーンインフラ（以降GIとする）の推進を検討した。

一元的な情報基盤整備（場づくり）は、次の5つの要素により構成した。

- ①相談窓口の開設
- ②専門家の指導體制確保・指導の実施
- ③事例紹介マップ作成
- ④認証制度の開始・審査・登録
- ⑤集い・体験の場の提供・運営

また、整備した情報基盤を用いた包括管理・運用（ワンストップサービス）を提供するために、中間支援組織の発掘、運営調整、資金確保の仕組みづくりの検討を行い、中間支援組織による試行的な運用を一定期間実施した。中間支援組織のスキーム概念図を図1-1に、各調査項目の概要を表1-1に示す。

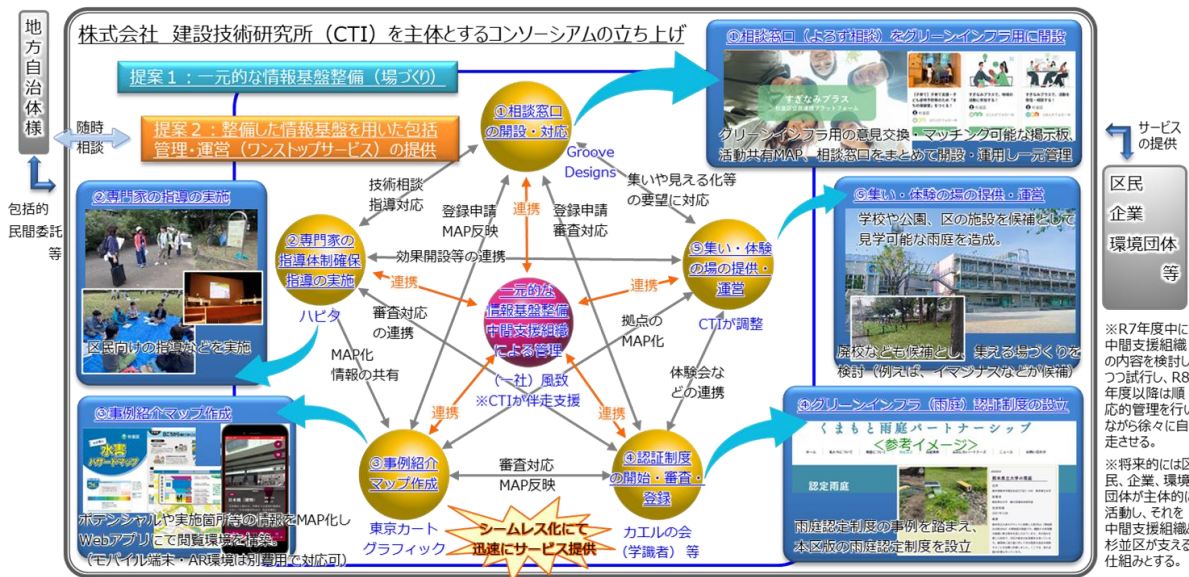


図 1-1 スキーム概念図

表 1-1 調査項目の概要

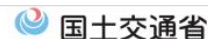
項目	概要
相談窓口の開設	グリーンインフラ用の意見交換・マッチング可能な掲示板、活動共有 MAP、相談窓口をまとめて開設・運用し一元管理できる WEB ページを既存のシステムであるすぎなみプラスに作成した。
専門家派遣制度の検討	相談窓口への問い合わせに対する技術相談や指導対応のほか、区民向けの指導などを実施する制度を検討した。
MAP 作成・公開	ポテンシャルや実施箇所等の情報を MAP 化して WEB で閲覧できるようにした。
認証制度の作成	雨庭認定制度の事例を踏まえ、杉並区版の雨庭認定制度を設立することを予定していたが、議論を経て現段階では登録制度が適しているとの結論にたり、その仕組みを検討した。
体験の場の提供	学校や公園、区の施設を候補として見学可能な雨庭のメンテナンス体験の場を企画し、開催した。

ここで、国土交通省によるグリーンインフラの定義を整理した。

グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。

これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。

第2章 グリーンインフラの定義・基本的な考え方
グリーンインフラの定義・効果



グリーンインフラの定義

グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。
これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。



図 1-2 グリーンインフラの定義

出典：グリーンインフラ推進戦略 2030 参考資料、

国土交通省総合政策局環境政策課 令和 8 年 1 月作成、<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001978316.pdf>

1-4. 検討ステップ（検討フロー）

本調査の検討ステップを図 1-3 に示した。

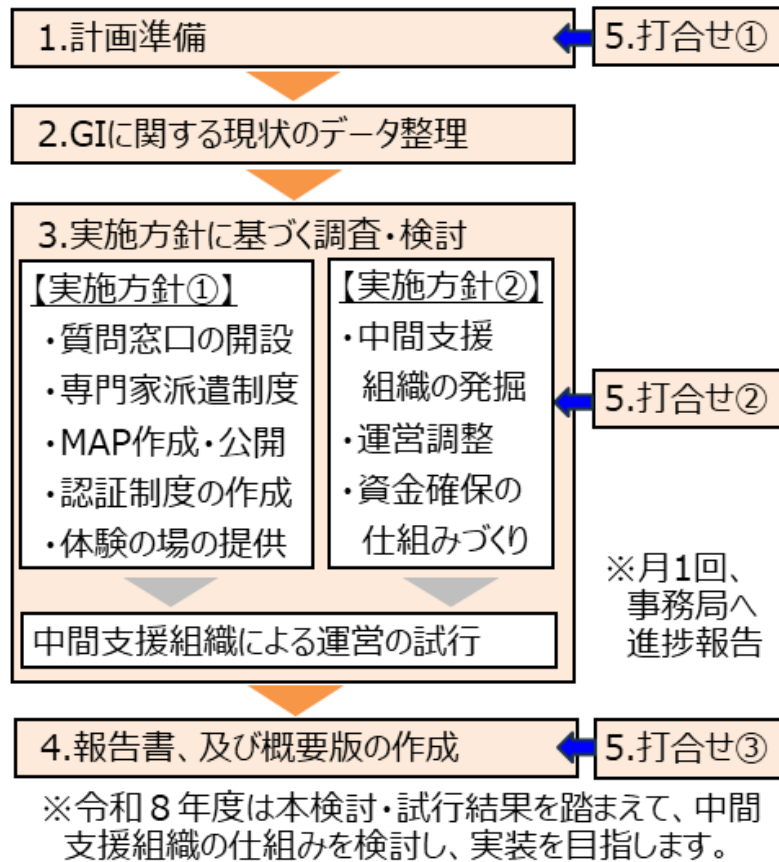


図 1-3 検討フロー

2章. 導入検討先自治体の概況

2-1. 導入検討先自治体の基礎情報

2-1.1 杉並区の概要

(1) 位置

杉並区は東京都 23 区の西側にあり、一般に「城西地区」と呼ばれ、東は中野区、渋谷区、西は三鷹市、武蔵野市、南は世田谷区、北は練馬区と隣り合っている。



(2) 杉並区の概要

武蔵野台地の上、東京 23 区の西端に位置し、おおむね方形で面積は 34.06 平方キロメートルと 23 区中 8 番目の広さである。

杉並区は東京の発展とともに、比較的自然に恵まれた住宅都市として成長してきた。

関東大震災（大正 12 年（1923 年））の後、都心から多くの人たちが移り住み、杉並区は昭和 7 年（1932 年）に誕生した。以来、牧歌的な農村のたたずまいから大きく変貌を遂げつつ連綿と発展を続け、人口は今や、57 万人を数えるに至っている。

宅地のうち住宅用地の割合が 80%を超える杉並区には、「良質な住宅都市」というイメージが区内外に定着しており、3つの河川に囲まれた、みどりと水辺のあふれる街並みと相まって、より良いまちをみんなで築いていく、という良き住民性を育む風土が形づくられていると考えられる。

引用：杉並区基本構想

(3) 人口と世帯

人口：582,636 人

男性：280,413 人

女性：302,223 人

世帯：339,208

(4) 区名の由来

杉並区の地名のおこりは、江戸時代の初め、成宗・田端両村の領主であった岡部氏が、領地の境界のしるしとして、青梅街道に沿って植えたと言われる杉並木があったことに始まる。この杉並木は明治前になくなったが、その後「杉並」の名は村名として採用され、町名、さらに区名となって現在に至る。

2-1.2 人口動態

杉並区統計白書から令和5年度の人口の増減を図2-1に示す。合計では2373人増加している。

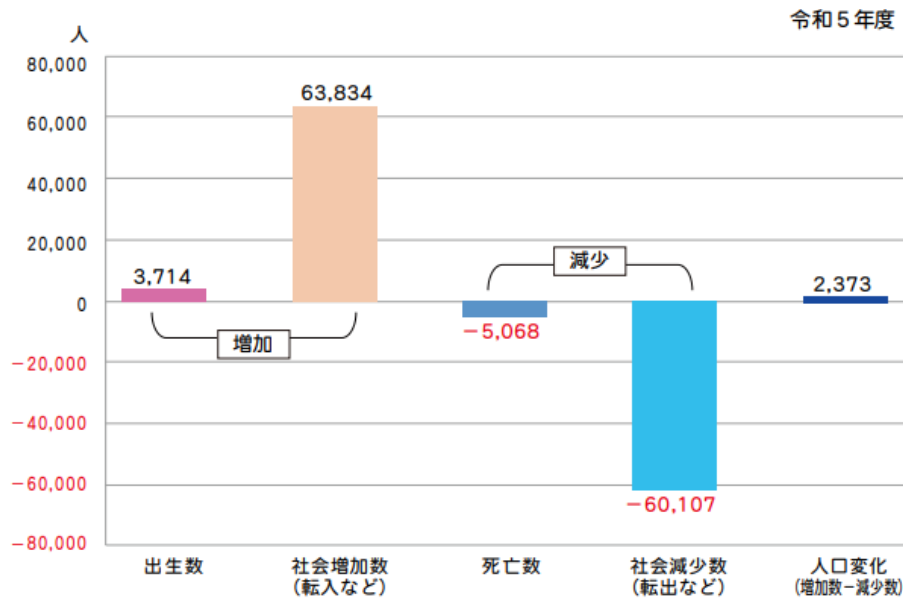


図 2-1 人口の増減

令和6年1月1日の年齢構成は、10歳代以下が少なく最も多い世代は20～24歳となっている。

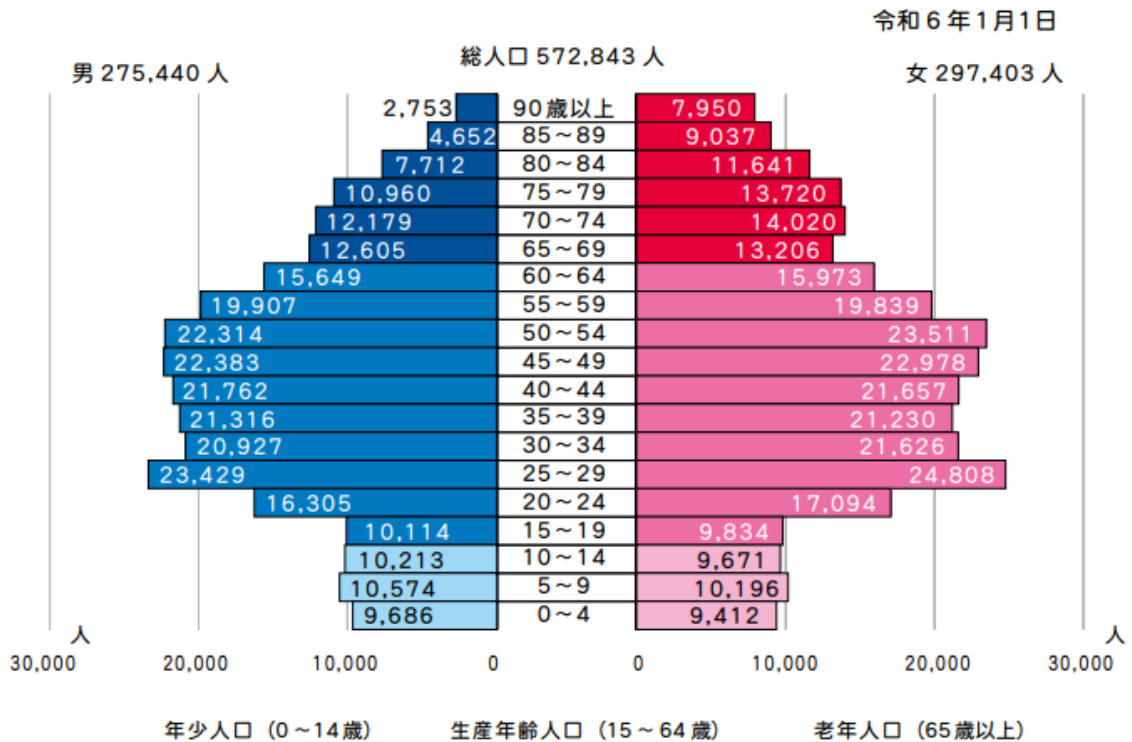
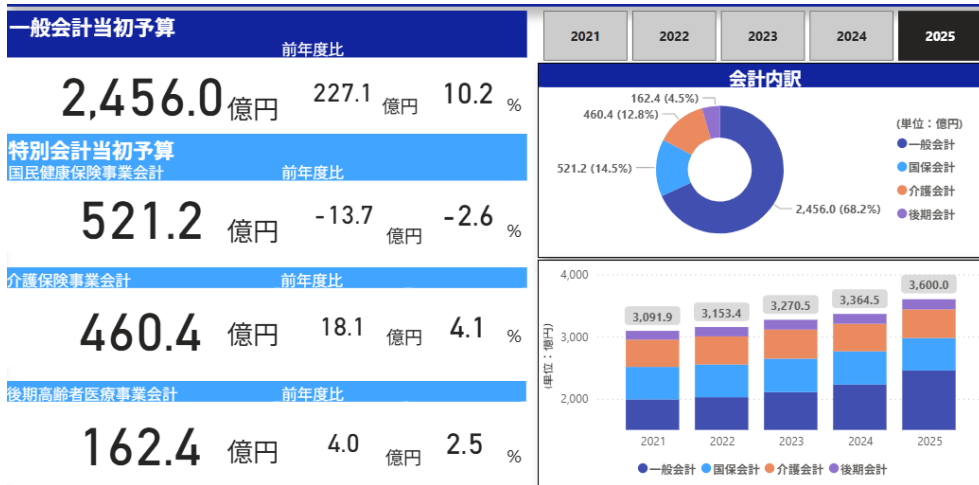


図 2-2 年齢構成

2-1.3 財政状況

杉並区財政ダッシュボードから令和7年度の予算の全体像を図2-3に示す。近5年の予算は一般会計の増加に従い、全体も増加傾向にある。



出典：杉並区財政ダッシュボード

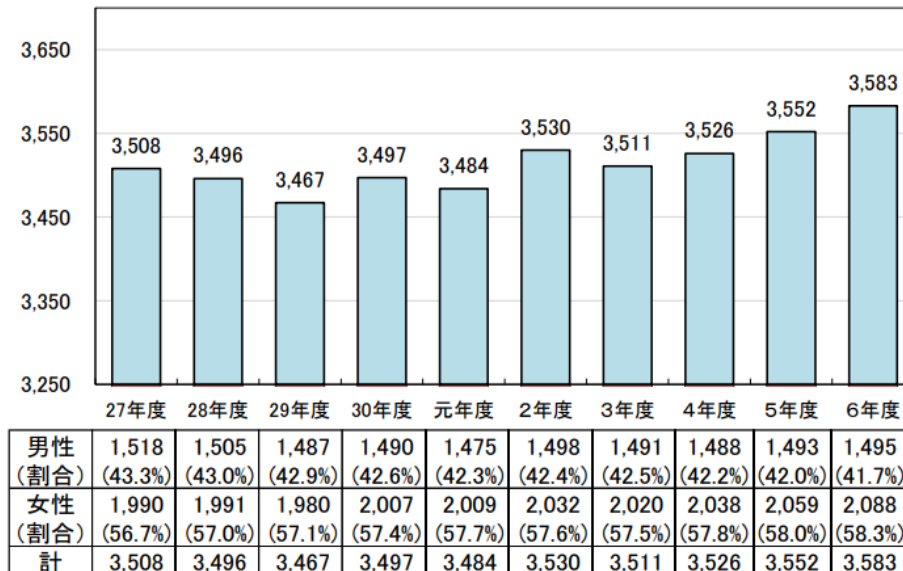
図 2-3 杉並区予算の全体像

2-1.4 職員数の推移

職員数を平成27年度以降で見ると、29年度以降は増加傾向にある。年齢構成は、30歳前半から20歳代の若手職員が多く、40歳代が他の年代に比べて少ない傾向にある。

杉並区職員数(人)

各年度4月1日現在

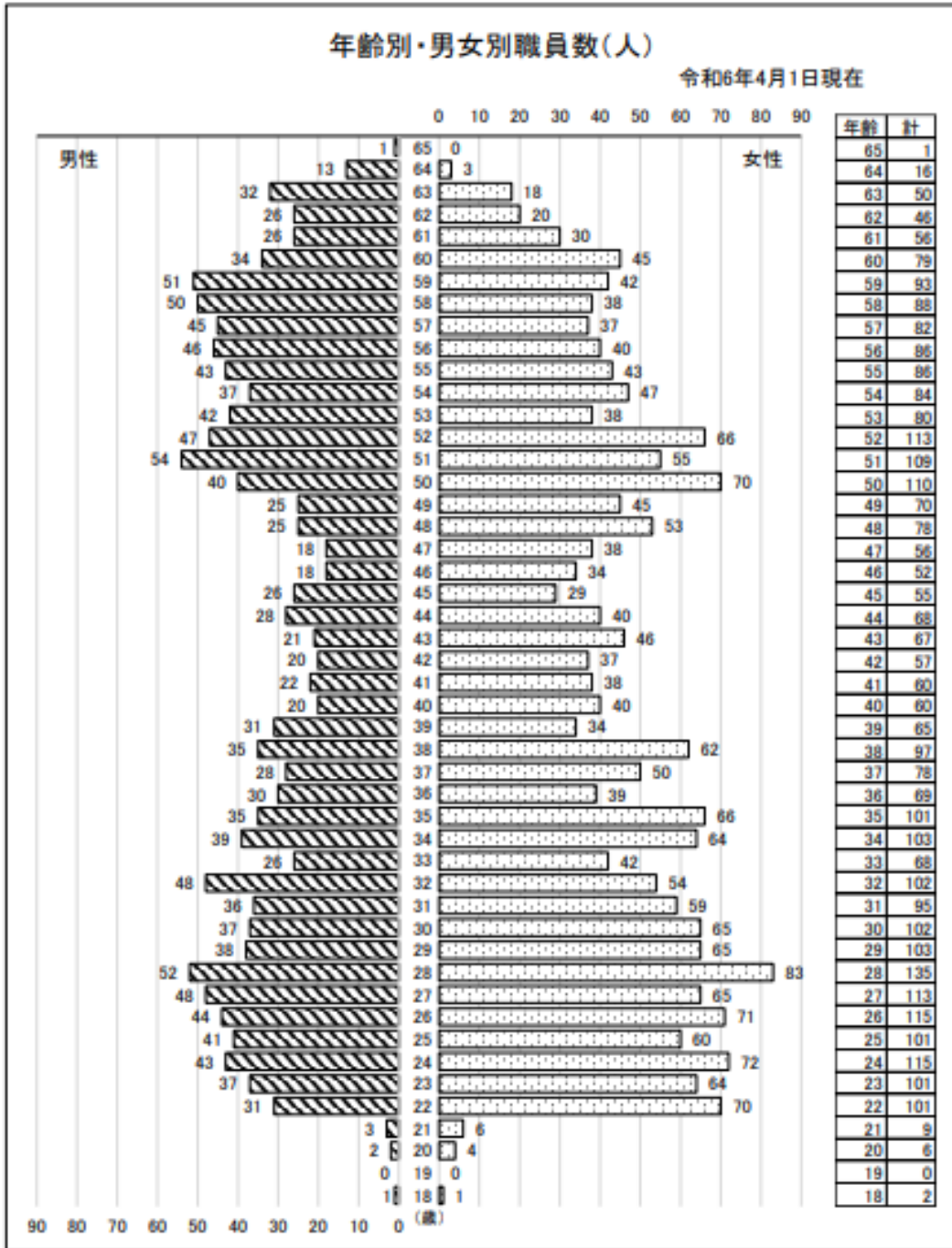


※特別職を除き、暫定再任用フルタイム勤務職員（令和4年度までは、再任用フルタイム勤務職員）を含む。

出典：杉並区職員白書 令和6年度（2024）、令和6年9月、杉並区

図 2-4 杉並区職員数

22歳以上32歳以下の職員と50歳以上59歳以下の職員は、それぞれ、100人前後であるのに対し、39歳以上47歳以下の職員は、60人前後となっています。



※特別職を除き、暫定再任用フルタイム勤務職員を含む。

出典：杉並区職員白書 令和6年度（2024）、令和6年9月、杉並区

図 2-5 年齢別・男女別職員数

2-2. 対象施設（インフラ）の基礎情報

グリーンインフラを展開する際の対象施設として、公共の空間としては河川、公園、学校等、図書館、プライベートな空間として住宅地の基礎情報を整理した。

表 2-1 対象施設の基礎情報

分類	対象施設	面積	箇所数	
—	区の面積	3,406 ha		
公共	河川	妙正寺川	1,150 m	
		善福寺川	10,120 m	
		神田川	7,900 m	
	公園	区立	669,144 m ²	336 カ所
		都立	637,593 m ²	5 カ所
	学校等	保育所 区立		29 カ所
		保育所 私立		158 カ所
		幼稚園 区立		6 園
		幼稚園 私立		36 園
		小学校 区立		40 校
		小学校 私立		2 校
		中学校 区立		23 校
		中学校 私立		8 校
		高等学校 都立		7 校
		高等学校 私立		12 校
特別支援学校			3 校	
専修学校・各種学校		15 校		
	図書館		13 館	
プライベート	住宅系用途地域	2,918.5 ha		
	うち 第一種低層住居専用地域	2,182.2 ha		
	経営耕作地面積(2,776a)	27,76 ha		

杉並区の土地利用

本区の用途地域の指定状況は表 2-1 および図 2-7 のとおり、第一種低層住居専用地域の占める割合が 64.1%と最も高い。また、住居系用途地域全体では 2,918.5ha で、本区全体の 85.8%を占めている。

本区の土地利用状況は、建物の建っている土地（宅地）の約 8 割が戸建住宅や共同住宅等の住宅用地であり、23 区中住宅地の比率が高く、住宅都市であることが分かる。

住宅地では戸建住宅からマンション等の集合住宅化が進んでおり、特に J R 中央線駅周辺や幹線道路沿道には多くの中高層の集合住宅が分布している。一方、環状八号線より西側では、比較的敷地面積が広い宅地が多く分布している。

商業用地は J R 中央線駅周辺や甲州街道、青梅街道、環状七号線、環状八号線等の幹線道路沿道に分布している。

大規模な公園やグラウンドは善福寺川、神田川沿いに多くが分布しており、農地は環状八号線西側の北部と南部に多く分布している。

表 2-1 用途地域の内訳

用途地域	面積(ha)	割合(%)
第一種低層住居地域	2,182.20	64.14
第二種低層住居地域	14.90	0.44
第一種中高層住居専用地域	414.90	12.20
第二種中高層住居専用地域	95.90	2.82
第一種住居地域	78.10	2.30
第二種住居地域	61.60	1.81
準住居地域	70.90	2.08
住居系	2,918.50	85.79
近隣商業地域	297.30	8.74
商業地域	133.30	3.92
商業系	430.60	12.66
準工業地域	52.90	1.55
合計	3,402.00	100.00

※ 第 36 回特別区の統計平成 28 年版（公益社団法人特別区協議会）によるため、区面積は国土地理院公表の面積（3,406ha）と異なる。

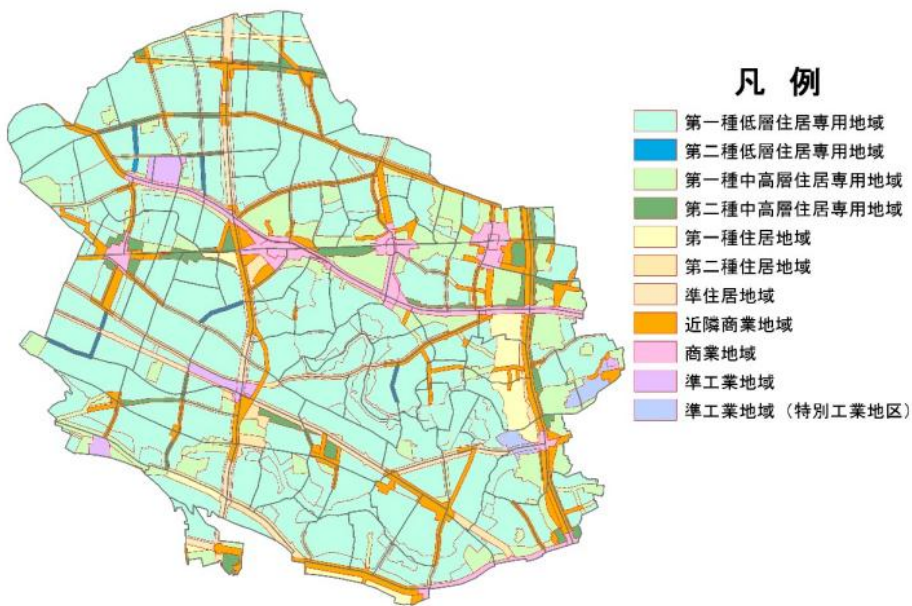


図 2-7 用途地域図（平成 29 年 3 月末現在）

旧版 杉並区緑の基本計画

2-3. 導入検討先自治体の現状及び抱えている課題

2-3.1 頻発する豪雨と浸水被害

都市部においては、例えば平成 15 年 7 月に博多駅前において都市型水害が発生している。その際の時間雨量は 99 mm、累加雨量は 361 mm を記録しており、車も半分以上浸かるほどの浸水や地下鉄ホームへ雨水が激しく流れ込むような被害が生じている。

都市型水害は、局地的大雨（ゲリラ豪雨）や集中豪雨によって引き起こされる。

なお、言葉の定義としては、以下のとおりである。

【ゲリラ豪雨】 局地的大雨の別名であり、狭い範囲に短時間で激しい雨が降ること。

【集中豪雨】 前線や台風の影響のほか、線状降水帯が数時間停滞することで、広い範囲に長時間、激しい雨が降ること。



図 2-6 都市型水害のイメージ

このような水害をもたらす大雨の年間発生回数は増加傾向を示しており、特に強い雨ほど増加率が大きくなっている。赤線は、長期的な傾向を示したものであるが、最初の 10 年間（1976～1985 年）と比べて、最近の 10 年間（2014～2023 年）の平均年間発生回数は約 2 倍に増加している。

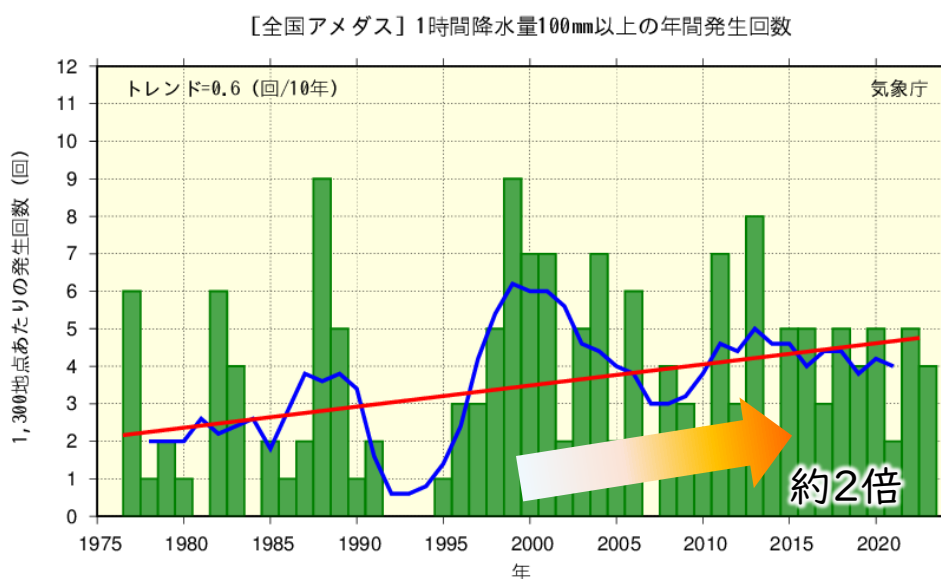


図 2-7 水害をもたらす大雨の発生回数の推移

都市型水害の発生メカニズムは、都市化によって家やビル、道路などが増えたことで、雨水が地中に浸み込み難くなったこと、更には雨水を集めて早く流下させることが求められてきたため、下流部では雨水が集まり易くなっていることが要因と考えられ、それらによって溢れやすくなっている状況である。

なお、杉並区においても他の都市と同様に都市化が進行しており、全体の約 75%は雨水が浸み込みにくい土地となっている。

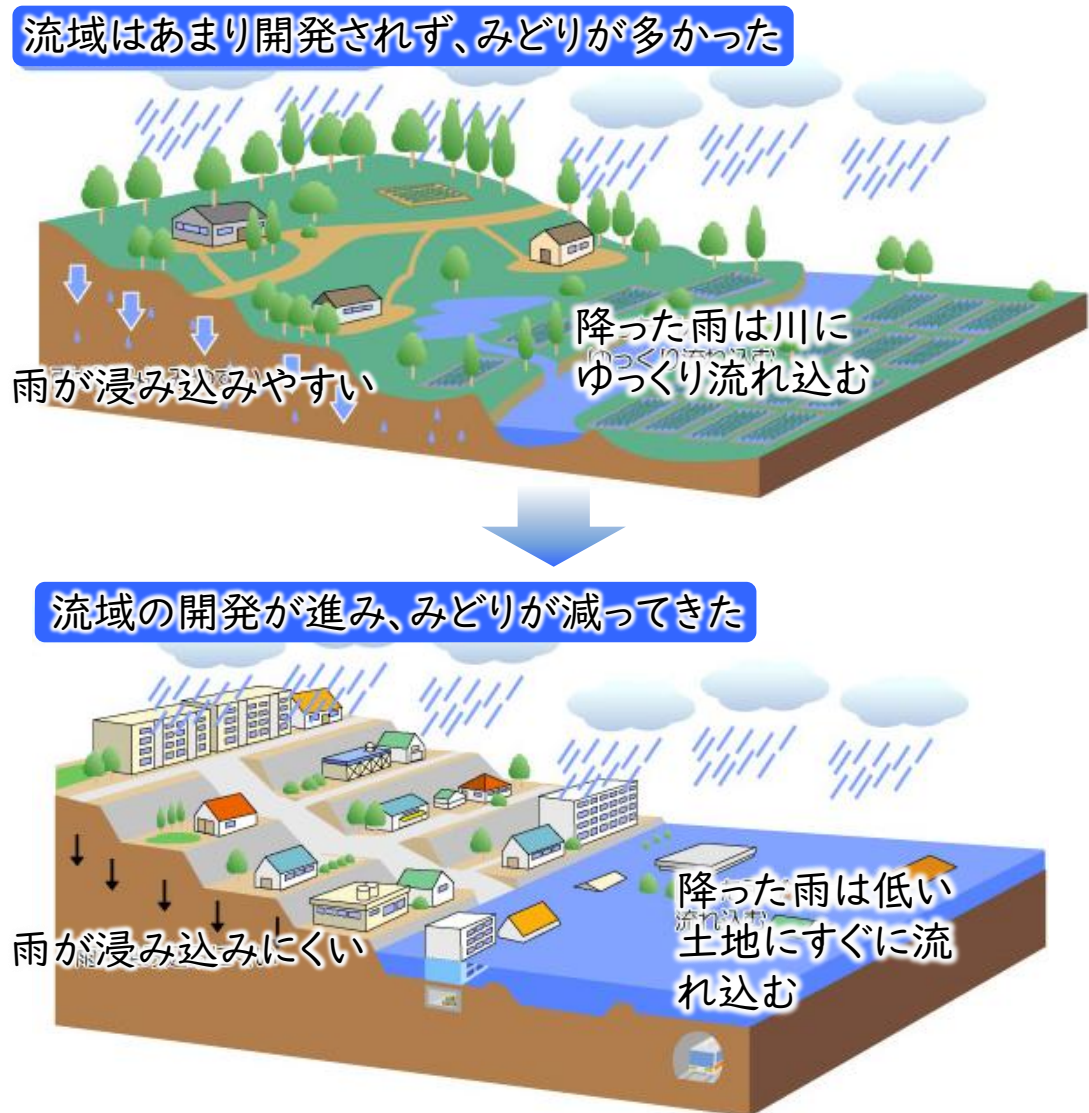
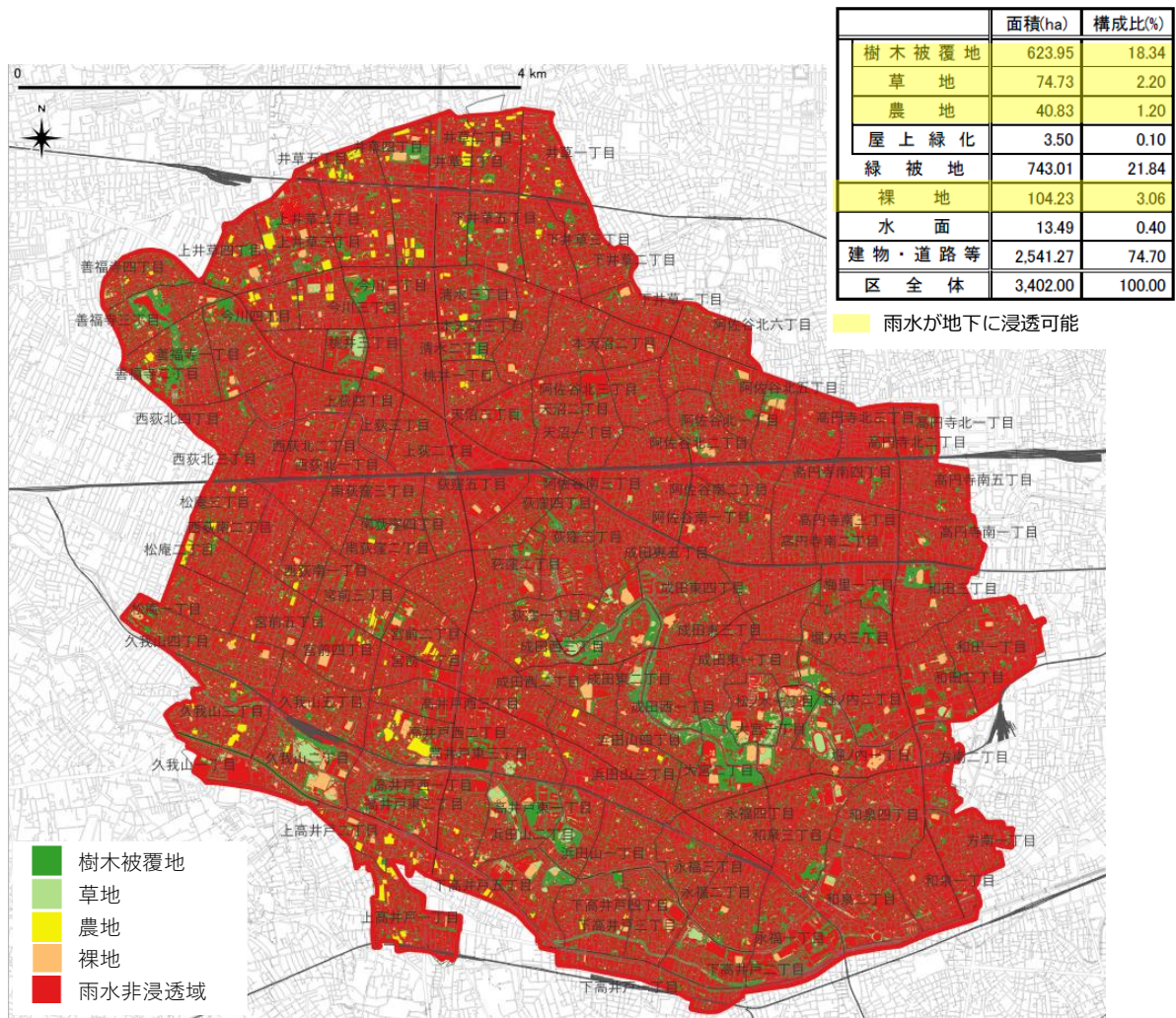


図 2-8 都市型水害の発生メカニズム



注：土地利用状況から雨水の浸透、非浸透域を色分けしたものである。詳細な土地の被覆状況をみれば雨水非浸透域として整理している「建物・道路等」においても、建物の建蔽率 60% であれば残り 40%の面積のうち土や植栽の範囲、道路脇では植栽帯等は雨水が浸透する。

図 2-9 杉並区の土地利用状況

実際に杉並区では、2005年（H17年）、2018年（H30年）に浸水被害が発生しており、以下のような痛ましい状況が生じている。



図 2-10 杉並区での実際の浸水被害状況

なお、浸水被害に関する雨の範囲（流域）については、例えば最近発生した阿佐ヶ谷駅前の浸水被害を例にとると、土地の高さとの関係から、主に西側（下図の黄色い範囲）に降った雨が集まって溢れたものと考えられる。このように直接関係ない離れた場所においても、雨が流れる下流側の浸水被害の発生の有無に関する可能性があり、それぞれの地域にて区全体の浸水被害軽減に貢献できる可能性がある。

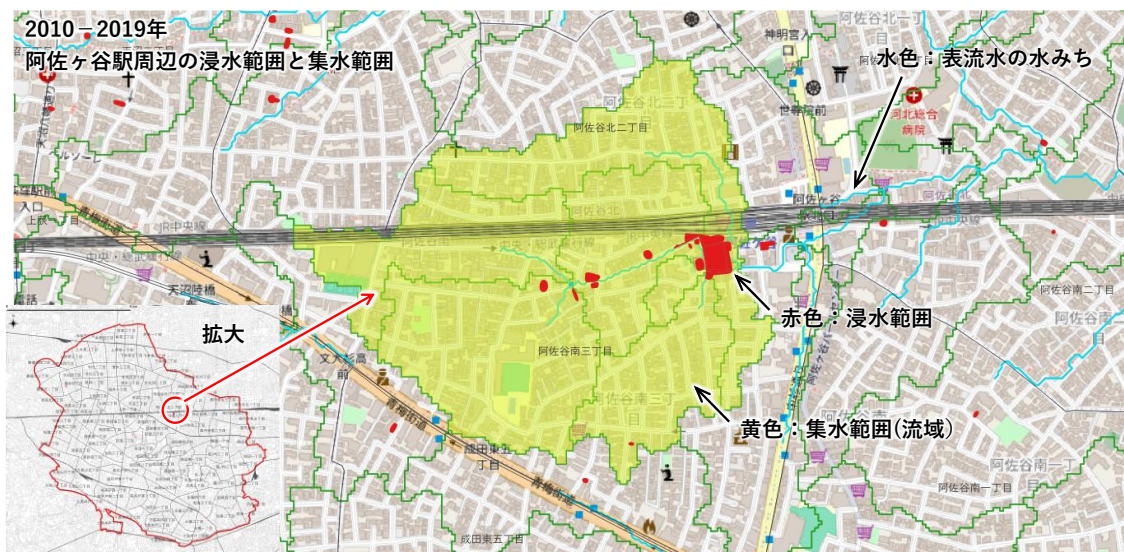


図 2-11 阿佐ヶ谷駅前の浸水被害箇所と流域との関係

2-3.2 合流式下水道

合流式下水道は、雨水と汚水が一つの下水道管に集まり、下水処理場への流れていくものである。そのため課題としては、大雨の時に下水処理場がパンクすることを防ぐために処理場で処理できる水量を超えた水は川へと放流され、それが原因で河川の水質が汚水によって悪化することがある。この放出水は、CSO（合流式下水道越流水）と呼ばれている。

この課題への改善案としては、大雨の際に下水に流れ込む雨水の量を減らす必要があり、それができれば下水処理場がパンクすることもなく河川へ CSO が放流されることもないため水質悪化を防ぐことができると考えられる。

なお、どこの下水がどこから CSO として河川に放流されるかについては、東京都水道局下水道台帳にて確認することが可能である。



図 2-12 合流式下水道の現状の課題と改善案のイラスト

3章. 導入検討先自治体での検討状況及び抱えている課題

3-1. 導入検討先自治体での検討状況

杉並区は昨年度から水害対策の視点からグリーンインフラを活用した取り組みを始めている。令和6年度の段階では、水害の視点から取り組み始めたが、次の段階では、本来のグリーンインフラがもつ多面的な機能を発揮していくことを目指して進めていく。具体的には、防災・減災や生物多様性、教育、にぎわいの創出など多面的な効果があるグリーンインフラについてあらゆる関係者が専門性を活かして連携し、企業や市民の活力による保全・整備・創出・維持管理を行い、自然が持つ機能を活用できる官民連携の体制構築を目指している。

令和6年度に開催された杉並区グリーンインフラ推進会議では、杉並区民を対象に募集して集まった一般参加者が杉並区の課題やグリーンインフラを学び、雨庭の整備体験をしたあとに、グリーンインフラのビジョンづくりのワークショップを行った。

ビジョンづくりのワークショップでは、中間支援組織の必要性や雨庭づくりのために専門家などに質問できる窓口の設置など具体的な意見が出され、リーフレットに整理されている。

開催状況を整理したニュースレターを図 3-2～図 3-4 に、ワークショップの成果である「杉並区のグリーンインフラビジョン」を図 3-1 に示す。なお、杉並区グリーンインフラ推進会議では途中段階で名称とロゴを投票により設定し、「グリーンインフラ杉並区民会議」通称G I A S（ジアス）（Green Infrastructure Assembly of Suginami）と変更している。

実現ステップ
グリーンインフラビジョンの実現に向けては、以下の3つのステップが考えられます。

STEP1 初動支援期
個別の取り組みに対する相談、支援を行い、拠点となるモデル地区での取り組みを開始。

STEP2 プラットフォーム形成期
市民、事業者、行政がGIに関する情報を共有し、連携・支援を組織的に進める体制を整備。

STEP3 区全体での展開・自定期
市民、事業者、行政がそれぞれの役割に応じて協力的にGIを推進する動きを区民発案に展開。

ビジョンの推進体制
区民をはじめとして、様々な団体・組織が連携して進めていきます。

GIAS グリーンインフラ 杉並区民会議

グリーンインフラ杉並区民会議
Green Infrastructure Assembly of Suginami

令和7年 3月

図 3-1 グリーンインフラビジョンのリーフレット(1)

区民でつくるあまみず社会 ～グリーンインフラで輝くすぎなみ～

杉並区のグリーンインフラビジョンとは、雨水流出や生活排水の流出抑制を、区民を含む流域のあらゆる関係者で取り組んでいく仕組みです。本ビジョンは、令和6年度に3回にわたって開催した「グリーンインフラ杉並区会議」のご意見を踏まえてとりまとめました。

- 1 杉並GI中間支援組織 ～GIが持続的に回る仕組みづくり～
- 2 子どもの健全な育成に向けて、雨水と人を集める「グリーンインフラ（雨庭）」
- 3 子どもから親へつなぐ「あまみず」を活かす知恵！
- 4 市民科学で水循環をとりもどす
- 5 善福寺川上流からグリーンインフラを発信！！

GIAS 杉並区のグリーンインフラビジョン

進めていく・広めていく・続けていくために

Aグループ 駅前グリーンストリートプロジェクト

Bグループ 子どもの健全な育成にむけて

Cグループ 子どもから親へつなぐ「あまみず」の活用知恵！

Dグループ 市民科学で水循環を取り戻す

Eグループ 善福寺川上流からグリーンインフラを発信！

どこで何を？ 実装場所

- ✓ 学校、車庫ビオトープ、屋上緑化、壁面など
- ✓ 善福寺川沿いの旧河川（内渠）の河原化
- ✓ 商店街のエコグリーンロード、ストリートプランツ
- ✓ 岡音橋前での植造、多自然川づくりの実施
- ✓ 公園で河原、バイオスウェル、ビオトープなど

鳥の赤刈笛（浸水エリア：ハザードマップの赤のエリアの対策）
グレイ公園のグリーン化
グリーン空間からの排水禁止

仕組み化

- ✓ 市民への窓口設置
- ✓ インセンティブの創出
- ✓ グリーンインフラの条例化
- ✓ 資金の多様化促進
- ✓ 責任、バンク、基金、銀行有未
- ✓ グリーンインフラの事業化
- ✓ ネットワークづくり
- ✓ 人材育成・作業化を見据えた仕組みづくり
- ✓ グリーンインフラの多面的評価
- ✓ 雨庭アワード

続けるために

- ✓ グリーンインフラの拠点確保
- ✓ 市民によるグリーンインフラの発見測定
- ✓ 地域観察情報共有プラットフォームの整備
- ✓ 駅前・公共空間のグリーン化によるPR
- ✓ 楽しんで取り組んで頂きたい取組の向上
- ✓ プロフェッショナルの活用
- ✓ 企業との連携
- ✓ グリーンインフラのEの制定
- ✓ 取組の自立

グリーンインフラは市民参加型で、グリーン化を進め、ビジョンやアイデアを可視化してよめたるのです。

図 3-1 グリーンインフラビジョンのリーフレット(2)

第1回グリーンインフラ推進会議

ニュースレターVol.1



気候変動などにより増加する豪雨被害を緩和するために、杉並区ではこれまでの河川、下水対策に加えて、自然の持つ多様な機能を利用した「グリーンインフラ」による流域治水対策に取り組みます。そこで、区民の皆さまと学び、体験し、行動していくためのワークショップを3回シリーズで開催しています。

◎ (仮称) 第1回グリーンインフラ推進会議を開催しました！

「第1回グリーンインフラ推進会議」を開催しました。杉並区の水の現状とグリーンインフラを学んだあとに、柏の宮公園をフィールドとした雨庭の整備についてグループごとにアイデアを話し合いました。



日時：令和6年10月27日(日) 13:30～16:30 参加者：25名
場所：高井戸中学校、柏の宮公園



第1回

杉並区の水の現状を知り、グリーンインフラについて考えよう！

第2回

グリーンインフラの事例雨庭をつくってみよう！

第3回

杉並区らしいグリーンインフラのビジョンを話し合おう！

◎ 主な内容

1. 学びの時間

杉並区の水の現状として浸水被害や下水道の状況を解説するとともに、世界で取り入れられているグリーンインフラの考え方や事例を紹介しました。合流式下水道の課題に雨庭が効果的なのか？など質問をいただきました。



2. 体感する時間

多くの人が歩いて締め固まった地面の土と、雨庭をつくる時と同じように土を軽く耕して改良したところにて、水が浸み込む量の違いを実際に体感しました。土壌改良箇所では、どんどん水が浸み込むのを確認でき、「こんなに違うんだ」と驚きの声があがりました。



3. 現地を調べる時間

柏の宮公園で見られる雨水の課題がみられる5か所を見て回り、課題とその対応策を確認しました。その後はそれぞれのグループが担当する課題箇所を重点的に確認し、具体的にどのような雨庭づくりができそうかを参加者一人ひとりが考えてアイデアを出し合いました。アイデア出では、杉並区で活動する環境団体のみなさんのご意見も参考にしました。



雨庭(あめにわ)とは・・・
土壌や植栽の改善によって、雨水が浸み込みやすく、また貯めやすくなります。これを活用して、個人宅の庭などに雨水を浸透させる場所をつくります。通常、屋根に降る水は雨樋をつたい下水に流れ込みますが、雨樋を切って浸み込みやすい場所に浸み込ませます。これを雨庭(あめにわ)とよびます。

4. 考える時間

考える時間では、グループごとに芝生広場にてビニールシートを広げ、各自が考えたアイデアを発表して、とりまとめました。皆さんのアイデアは具体的なところまで踏み込んだハイレベルなものでした！



参加者の皆さんのやる気を感じられる回答でした

グリーンインフラとは・・・

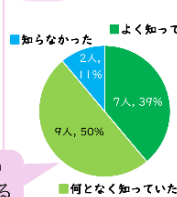
自然環境が持つ多様な機能を社会の様々な課題解決に活用するという考え方で。

自然が持つ機能とは、生物多様性、流出抑制、地域の魅力づくり、水循環の健全化、健康、コミュニティ活性化などがあります。

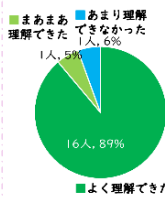


参加者アンケート

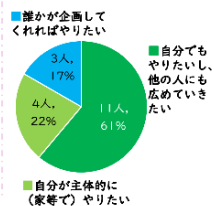
グリーンインフラの認知度



グリーンインフラの考え方の理解



グリーンインフラの活動のやる気度合い



◎ 今後の予定

12月14日(土)に参加者のみなさんのアイデアをもとに、柏の宮公園にて雨庭づくりを実践します。※雨天時は15日に順延



【お問合せ・ご意見】 皆さまのご意見もお待ちしています

◎ご意見 すきなみボイス

『みんなのグリーンインフラ 水害対策について考えよう！』(要登録)



すきなみボイス

◎お問合せ

杉並区 土木計画課 担当：中村・峰山・尾崎
TEL：03-3312-2111 (内線3422)
FAX：03-3312-2907



図 3-2 第1回会議ニュースレター

第2回グリーンインフラ杉並区民会議

Green Infrastructure Assembly of Suginami

ニュースレターVol.2



気候変動などにより増加する豪雨被害を緩和するために、これまでの河川、下水道整備などの対策に加えて、杉並区では自然の持つ多様な機能を活用した「グリーンインフラ」による流域治水対策に取り組めます。そこで、区民の皆さまと学び、体験し、行動していくためのワークショップを3回シリーズで開催しています。

◎第2回グリーンインフラ杉並区民会議（GIAS）を開催しました！

前回の会議で話し合った雨庭のアイデアをもとに、各グループで雨水が浸み込みやすい場所をつくることや、浸み込みやすい場所まで水が流れるようにする等の整備を行いました。

日時: 令和6年12月14日(土) 9:30~12:05 参加者: 34名
場所: 柏の宮公園



第1回

杉並区の水の現状を知り、グリーンインフラについて考えよう！

第2回

グリーンインフラの事例雨庭をつくってみよう！

第3回

杉並区らしいグリーンインフラのビジョンを話し合おう！

◎主な内容

1. イントロダクション

第1回の会議で考えたアイデアのうち、今回実践する整備内容を確認しました。



雨庭の作業位置



2. 体験する時間 (グループワーク)

雨庭づくりを実践しました。アイデアを現地に落とし込む意見を出し合いながら、地面を掘り、土を改良して雨水が浸み込みやすいエリアを作っていました。



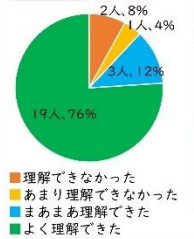
3. 成果発表

グループ毎に整備した5箇所を順番に回り、完成した雨庭を確認しました。水たまりを解消するなどの課題を解決する雨庭が1時間程度の作業で完成しました！

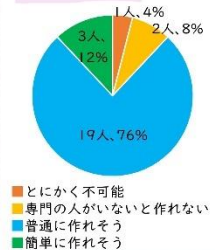


参加者アンケート

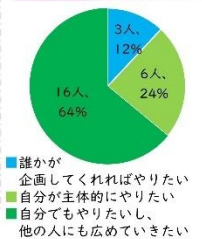
グリーンインフラの考え方について



雨庭の作り方について



グリーンインフラの活動のやる気度合い



チーム名&ロゴ投票

投票の結果、チーム名は「グリーンインフラ杉並区民会議 (GIAS: ジェアス) (Green Infrastructure Assembly of Suginami)」に決定しました！右のロゴも活用していきます。※ロゴは投票結果をもとに事務局にて再考しました。杉並区民会議



◎第3回会議の予定

2月2日(日)に第1回、第2回の学びと体験を踏まえ杉並区のグリーンインフラのビジョンを考えます。



【お問合せ・ご意見】 皆さまのご意見もお待ちしています

◎ご意見 すぎなみボイス

『みんなのグリーンインフラ

水害対策について考えよう！』(要登録)



◎お問合せ

杉並区 土木計画課 担当: 中村・峰山・尾崎

TEL: 03-3312-2111 (内線3422)

FAX: 03-3312-2907



図 3-3 第2回会議ニュースレター

第3回グリーンインフラ杉並区民会議

Green Infrastructure Assembly of Suginami ニュースレターVol.3



気候変動などにより増加する豪雨被害を軽減するために、これまでの河川、下水道整備などの対策に加えて、杉並区では自然の持つ多様な機能を活用した「グリーンインフラ」による治水対策に取り組みます。そのため、区民の皆さまと学び、体験し、行動していくためのワークショップを3回シリーズで開催しました。

◎第3回グリーンインフラ杉並区民会議を開催しました！

グリーンインフラの実践事例や杉並区のポテンシャルマップを確認して、杉並区のグリーンインフラのビジョンを話し合いました。

日時: 令和7年2月2日(日) 13:00~16:00 参加者: 28名
場所: 杉並区役所 中棟6階 第4会議室



第1回 杉並区の水の現状を知り、グリーンインフラについて考えよう！

第2回 グリーンインフラの事例雨庭をつくってみよう！

第3回 杉並区らしいグリーンインフラビジョンを話し合おう！

◎主な内容

1. 話題提供・座学

前回までの振り返りと本日の作業説明の後、島谷特別教授よりグリーンインフラの考え方や、先行して熊本で行われている学校や銀行など様々な主体による雨庭の事例をお話いただきました。また、杉並区のグリーンインフラの可能性の紹介として、実践事例やポテンシャルマップを紹介しました。



2. グループワーク

セッション1では、どこでどんなグリーンインフラができそうか意見を出し合い、“なぜ”やりたいと思ったのかも話合いました。セッション2では、これらを進めていくために必要なものや、キャッチコピーを考えました。

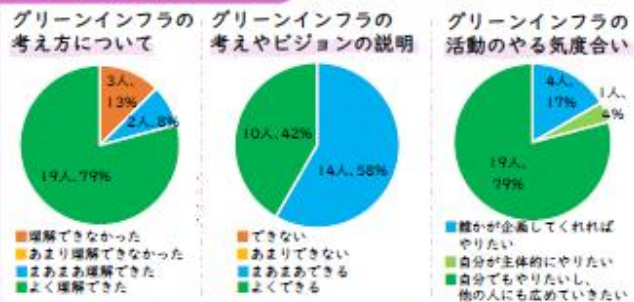


3. 成果発表

グループ毎にアイデアを発表しました。また、発表内容をその場でイラストにまとめました。



参加者アンケート



◎今後の予定 年度内に、いただいたアイデアを踏まえビジョンを作成し、メール配信及びすぎなみボイスにて公開していく予定です。

【お問合せ・ご意見】 皆さまのご意見もお待ちしています

◎ご意見 すぎなみボイス 『みんなのグリーンインフラ 水害対策について考えよう！』(要登録)



◎お問合せ 杉並区 土木計画課 担当: 中村・峰山・尾崎
TEL: 03-3312-2111 (内線3422)
FAX: 03-3312-2907



図 3-4 第3回会議ニュースレター

3-2. 導入検討先自治体で抱えている課題

杉並区民の意識調査における生活環境の評価では、みどりの豊かさをよいと評価している割合が全体の 8 割を超え、区民はみどりのある生活環境を重要視している。また、杉並区内の土地利用は、宅地が全体の 7 割をしめる住宅都市である。

GI を実装していくにあたり、区内の 7 割を占める宅地における実践が必要であり、宅地で GI を実装するためには区民との協働が欠かすことができない。

一方で、様々な活動をしている区民が多数存在しているが、これらの団体同士の連携がない状況である。

このため、GI の推進にあたり、区民主体の持続可能な体制と、あらゆる関係者が情報を共有するための情報基盤の構築が必要である。

持続可能な体制については、その体制の在り方およびその方向性・方針の確定、情報基盤についてもその在り方とその活用方針について、既存のシステムを考慮した上で、ユーザー目線で検討し、構築していくことが課題である。

なお、GI を実装するための区民との協働とは、区民が、杉並区の課題である豪雨による浸水被害や合流式下水道を理解し、解決策として雨水を貯留や浸透させることができる雨庭の整備等を各戸にて実践することにより、宅地における GI を展開していくものとする。さらに、区民からなる中間支援組織が区内で活動する団体や個人、企業、区役所とのコーディネート役を担い、GI の理解、解決策に関する技術指導などを推進する。

4章. 調査内容

住宅地が7割以上を占める杉並区内におけるグリーンインフラ（以下、GIと示す）の実装では、区民の主体的な関わりや協働のほか、企業との協働が欠かすことができない。

また、区民がGIに関する情報を得ようとした場合、関連情報が多岐に亘るため、現状ではすぐに入手できない。さらに杉並区が問い合わせを受けた場合に、人員不足や公平性の観点から迅速・的確な回答ができない課題がある。

図4-1に示した検討フローのとおり、様々な立場の関係者が連携して取組を進めるために「一元的な情報基盤整備（場づくり）の仕組みの検討（水色）」と、「情報基盤整備を用いた包括管理・運営（ワンストップサービス）の提供の試行（黄色）」を行った。

はじめに、4-1GIに関する現状のデータ整理として地形、地質、土地利用などの基礎的なデータを整理した。次に、全ての検討を中間支援に取り組む団体と議論をして進めていくため、4-2中間支援組織の発掘を行い検討に入っていた。

一元的な情報基盤整備の機能は、4-3相談窓口の開設、4-4専門家派遣制度、4-5MAP作成・公開、4-6認証制度の作成、4-7体験の場の提供の5つの機能を持たせるため、GIに関する質問や専門的な課題解決のための専門家の派遣、GIの事例を紹介するマップの作成、雨庭づくりなどのGIを体験し学ぶことができる体験の場の提供のあり方を検討し、検討を踏まえて4-9中間支援組織による運営の試行に移行した。また中間支援を持続的な取組とするために4-8資金確保の仕組みづくりを検討している。これらの検討を、各担当や中間支援組織と調整（4-10運営調整）を図りながら進めた。

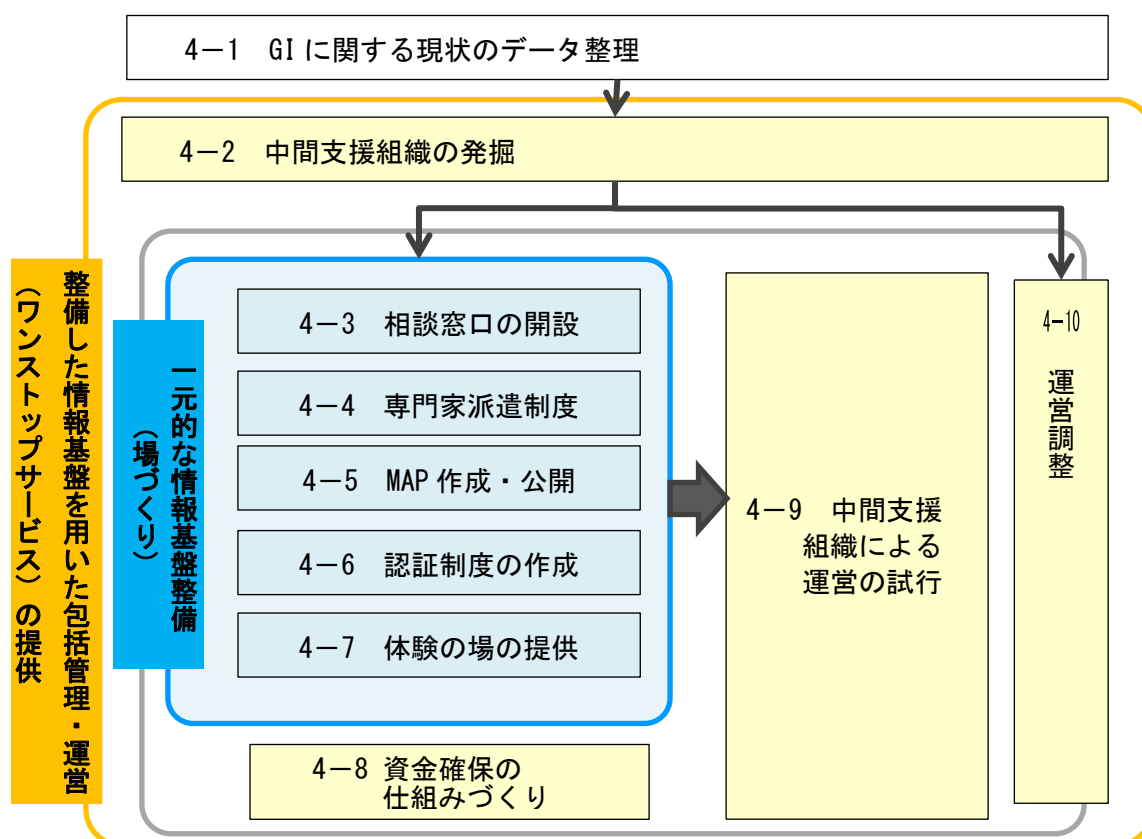


図 4-1 検討フロー

4-1. GI に関する現状のデータ整理

杉並区の GI の基礎情報として、地形や土地利用などの地理情報を整理したほか、本調査におけるグリーンインフラの定義とビジョンを中間支援の役割を果たす団体（風致）、杉並区とともに検討して設定した。

4-1.1 現状のデータ整理

現状を把握のデータとして、地形、地質、土地利用、緑被のほか、これまでの浸水実績、浸水予報を整理したほか、地形から GIS にて小流域を区分した。また、東京都の下水道台帳を用いて下水の吐口と排水区を整理した。

- ・ 航空写真
- ・ 緑被情報
- ・ 地質情報
- ・ 土地利用情報 公共施設、建ぺい率
- ・ 浸水実績
- ・ 浸水予想図
- ・ 小流域
- ・ 下水吐口、下水道排水区

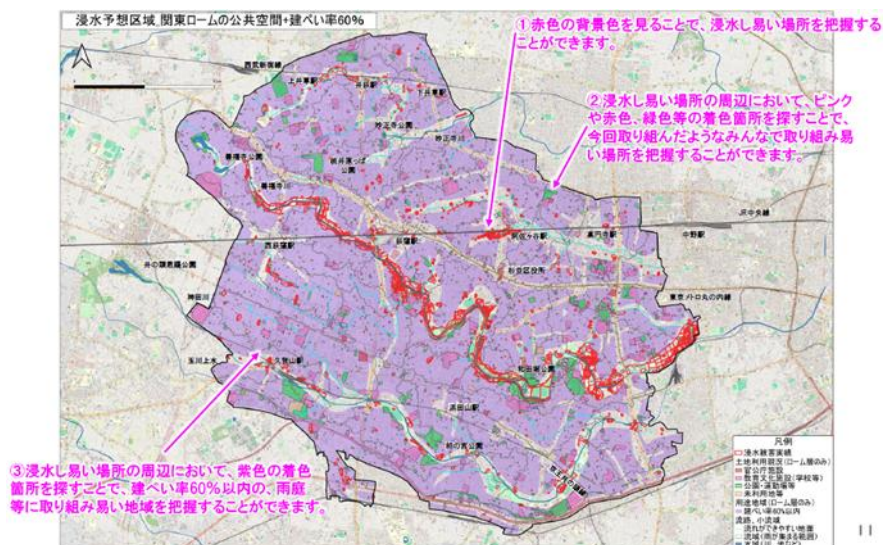


図 4-2 整理したデータの例

4-1.2 杉並区のグリーンインフラ

国土交通省のGIの定義を踏まえ、本調査の実施にあたり、杉並区と中間支援の役割を果たす風致と議論を重ねて、杉並区のグリーンインフラの定義とキャッチフレーズを設定した。

本調査では、杉並区のグリーンインフラの第一の目的を生物多様性の保全と創出に定めた。これは、かつて区内に広がっていた武蔵野の雑木林や善福寺川、神田川の豊かな流れに恵まれた地域の自然を回復させ、多様な生き物の生息地を増やす「ネイチャーポジティブ」の実現を目指すものである。

この考えに基づき、グリーンインフラは、昆虫、鳥、小動物などの多様な生き物に餌や隠れ家を提供し、都市の生態系ネットワークを豊かにする機能が最も重要だと考えている。

出典：風致提供

キャッチフレーズ

「すぎなみのGI 雨水がはぐくむ みどりといのちの共生」

- ・生物多様性の保全と創出

武蔵野の雑木林や、善福寺川、神田川の豊かな流れに育まれた豊かな自然を回復させ、多様な生き物の生息地を増やす「ネイチャーポジティブ」の実現を目指す。

- ・生物多様性の保全と創出による社会課題の解決

ネイチャーポジティブの実現により、杉並区の抱える洪水被害の軽減、河川の水質の改善、ヒートアイランド現象の緩和、大気汚染の浄化、ウェルビーイングを実現していく。このアプローチは、自然に根差した解決（NbS: Nature-based Solutions）と定義される。

なお、NbSには保全創出に加えて、持続可能な管理も含まれる。

NbSについて：<https://nbs-japan.com/wp-content/uploads/2022/02/58c32fe1e968d3f289f60d470d21cda7.pdf>

4-2. 中間支援組織の発掘

中間支援組織の発掘にあたり、本調査における中間支援組織の定義と果たすべき役割を明確にする必要があった。そのため、中間支援組織に必要な条件・能力を整理したほか、中間支援組織の定義と役割を設定した。次に、これに該当する団体・組織を発掘した。検討の手順を図 4-3 に示した。

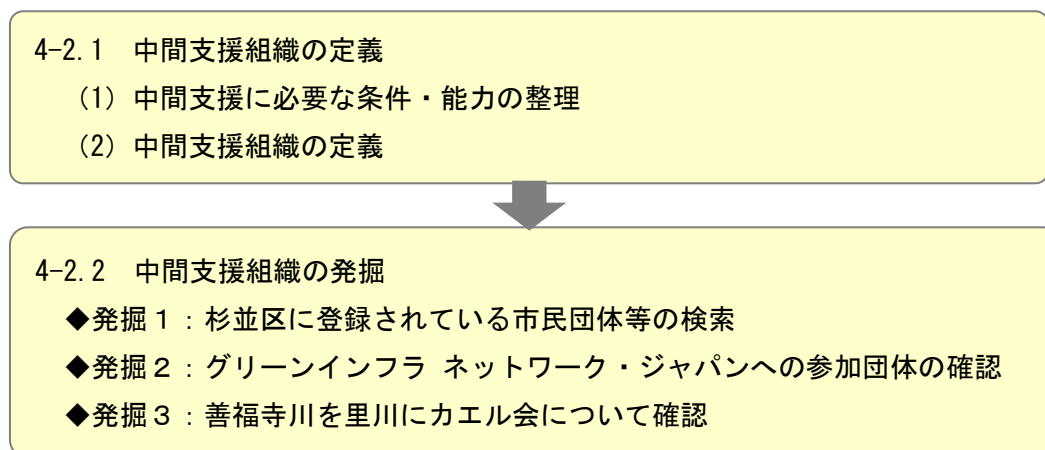


図 4-3 中間支援組織の発掘の手順

4-2.1 中間支援組織の定義

(1) 中間支援に必要な条件・能力の整理

R7.3 作成の杉並区グリーンインフラビジョンをもとに、中間支援組織に求められる役割や能力を整理した。求められる役割や能力は、現時点の仮設定として、今後の運用を踏まえて適宜定義を変更していくものとした。

区民から求められている役割から、必要条件を以下のように整理した。

なお、令和 6 年度のグリーンインフラビジョンの検討にあたっては、生物の多様性の維持・向上を前提として、本調査で取り上げている水害リスクを課題として取り上げ、グリーンインフラとして雨庭の検討と整備の体験を行い、それを踏まえてビジョンが議論されている。このため、相談事項や専門家は雨庭の整備と生物多様性に関連した情報である。

表 4-1 中間支援に必要な条件・能力

No.	求められる役割	条件・能力
1	区民から相談があったときに回答すること	・雨庭の整備や生物多様性に関する知識や専門性を有すること
2	専門家による指導や派遣を行うこと	・雨庭の整備について自ら指導に当たる専門性と機動力を有すること ・雨庭の整備にあたり、区内における雨庭や生物に詳しい人材のほか、学識者や先進的にグリーンインフラを導入している地域等の関係者を把握しており、これらを結びつける人材ネットワークを有すること
3	区内の優良事例を紹介すること	・雨庭やその他グリーンインフラの事例をMAPに整理・登録し、正確な場所を公開していくため、地域性を有すること
4	グリーンインフラの認証制度を立ち上げて審査すること	・杉並のグリーンインフラとして雨庭を判断するための専門性を有すること ここの専門性は、雨庭の雨水の浸透能、生物の生息場の創出等を評価できる能力とする。
5	目で見て体験して理解を促す場を提供すること	・管理している組織（施設管理者）との人材ネットワークを有すること ・体験する場所がどこにあるかを把握するなど、地域性を有すること



中間支援組織に求められる能力

- ・ **専門性**：雨庭の効果的な整備箇所、整備方法の知識、整備ができる
- ・ **機動力**：行政ではすぐに対応できない個別相談の対応ができる
- ・ **人材ネットワーク**：GIに関連する行政、市民団体、地域のキーマン、地域外を含めた学識者や専門家等との関係性を築いている
- ・ **地域性**：杉並区の歴史、地形、生物などを把握しており、かつての地形などから体験の場の立地特性、GIの展開を考えることができる
また上記と関連するが地域の人とのつながりを持っている

(2) 中間支援組織の定義

前項の中間支援に必要な条件・能力に加えてグリーンインフラを推進する特性を加えて中間支援組織の定義と役割を以下のように設定した。

中間支援組織の定義

グリーンインフラを推進するための関係者をつなぎ、杉並区のグリーンインフラのビジョンを推進していく組織

- ・関係者：行政、区民、市民団体、専門家、企業など
- ・杉並区のグリーンインフラのビジョン：『杉並の GI 雨水がはぐくむ、みずといのちの共生』

中間支援組織の役割

- ・「公・民・学」をつなぐワンストップサービスの提供
- ・区民・活動団体などへのわかりやすい情報発信・情報伝達
- ・個々の活動を連動させ、杉並区全体で同じ目標に向かい活動を展開していく
- ・区民・団体を先導するための先進的な専門知識などを得て関係者に共有する

4-2.2 中間支援組織の発掘

前項で整理した能力をもち、中間支援組織の定義に示した役割を果たせる人材、団体を探した。

発掘作業は、1つ目に杉並区に登録されている市民団体等の検索、2つ目にグリーンインフラネットワーク・ジャパンの参加団体の確認を行った。この結果から、善福寺川を里川にカエル会を抽出した。

また、善福寺川を里川にカエル会について調べると、別途一般社団法人風致を立ち上げていることを把握した。この2団体を候補として、今回は風致を対象とすることとした。

◆発掘1：杉並区に登録されている市民団体等の検索

『すぎなみ地域コム 杉並を拠点に活動する地域団体情報サイト』を活用して、グリーンインフラに関連する活動を行っている団体を抽出した。



<https://www.sugi-chiiki.com/>

検索結果 『該当なし』

検索①キーワード「グリーンインフラ」：該当団体なし

検索②活動分野「環境保全」：21 団体

21 団体の活動概要などを整理して表 4-2 に整理した。うちグリーンインフラに関連する内容の活動を杉並区全域で行っている団体は 5 団体であった。なお、活動内容、活動場所は登録内容から判断した。

しかし、雨庭に関する知識を有する団体は該当なしであった。

表 4-2 すぎなみ地域コム登録団体のうち活動分野に環境保全を含む全 21 団体

団体名	活動分野	活動概要	GIに関連	区全域
杉並野草の会	教育・学習 文化・芸術 地域づくり 環境保全	野草観察会(月1回)、講習会・展示などを通じて野草の保護・理解促進	○	○
まちなかコミュニケーション西荻みなみ	高齢者 子ども 障害者 若者 教育・学習 文化・芸術 地域づくり 環境保全 防犯・防災 情報化 健康・医療	地域コミュニティの活性化を目的に、環境保全活動や交流イベントを実施。		
特定非営利活動法人 すぎなみ環境ネットワーク	教育・学習 地域づくり 環境保全	環境講座、小中学校の学習支援、リサイクル事業、自然観察	○	○
特定非営利活動法人すぎなみムーサ	文化・芸術 環境保全	文化・芸術活動を通じて環境意識を高めるイベントやワークショップを開催。		○
すぎなみ 炭焼き塾 くらすけ	教育・学習 環境保全	炭焼き体験や竹林整備、落ち葉感謝祭参加など自然循環保全活動	○	○
特定非営利活動法人 普福寺水と緑の会	子ども 教育・学習 文化・芸術 スポーツ 地域づくり 環境保全	普福寺公園等での自然観察会、植生調査、樹木地図作成など	○	○
杉並区立桃井第一小学校支援本部	高齢者 子ども 若者 教育・学習 文化・芸術 環境保全	学校支援活動の一環として、校庭の緑化や環境学習を推進。		
特定非営利活動法人 日本渚の美術協会	高齢者 子ども 若者 教育・学習 文化・芸術 環境保全	漂着ゴミを使ったシーボーンアートや海岸美化活動		○
認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK	環境保全	森づくり・環境体験など、自然との共生を推進	○	○
特定非営利活動法人 すぎなみ学びの楽園	高齢者 子ども 教育・学習 文化・芸術 スポーツ 地域づくり 環境保全 情報化 健康・医療 その他(職能開発・雇用拡充、NPO支援)	シニア世代等に対して社会教育に関する事業展開	○	○
特定非営利活動法人ハート・ミニ・ダウン	子ども 教育・学習 地域づくり 環境保全	衣類や生活用品のリユースを通じて資源循環を促進。		
webヒトツナ	高齢者 子ども 障害者 若者 教育・学習 文化・芸術 スポーツ 地域づくり 環境保全 防犯・防災 健康・医療	地域の環境情報を発信し、オンラインで環境保全活動を支援。		○
日本ボーイスカウト東京連盟あすなろ地区	子ども 若者 教育・学習 文化・芸術 スポーツ 地域づくり 環境保全	青少年を対象に自然体験や環境保護活動を実施。		○
日本ボーイスカウト東京連盟あすなろ地区杉並第12団	子ども 若者 教育・学習 文化・芸術 スポーツ 地域づくり 環境保全	杉並地域での自然体験活動や環境保全イベントを開催。		
特定非営利活動法人防災コミュニケーションネットワーク	高齢者 子ども 若者 教育・学習 文化・芸術 スポーツ 地域づくり 環境保全 防犯・防災 情報化	防災と環境保全を組み合わせた地域活動を推進。		○
高井戸中学校学校支援本部	子ども 教育・学習 文化・芸術 地域づくり 環境保全	学校環境の整備や緑化活動を支援。		
杉並清掃工場 アンネ・ロザリアンの会	地域づくり 環境保全 人権・平和	清掃工場敷地内の花壇でバラを育成、職員とともに維持管理		
特定非営利活動法人 東京海難救助隊	環境保全	海洋漂着ゴミの回収・撤去などによる海岸環境保全・救助活動		○
未来の暮らし創造塾杉並	高齢者 子ども 障害者 若者 教育・学習 地域づくり 環境保全	省エネ・気候変動対応を意識した未来生活提案・啓発活動		○
杉並区立方南小学校 学校支援本部	子ども 教育・学習 文化・芸術 スポーツ 地域づくり 環境保全	校庭の緑化や環境学習を支援。		
杉並まちづくり交流協会	障害者 地域づくり 環境保全 防犯・防災	地域のまちづくりと連携し、環境保全に関する啓発活動を実施。		○

※GIに関連：グリーンインフラに関連する活動内容である

区全域：活動範囲が区全域、または区全域を含む広域である

■：GIに関連する活動分野であり、杉並区全域で活動する団体

◆発掘2：グリーンインフラ ネットワーク・ジャパンへの参加団体の確認

グリーンインフラに関して活動する団体の発表の場である『グリーンインフラネットワーク・ジャパン』のミーティングまたはポスター展示の発表者から杉並区の活動団体を抽出した。ポスターは非営利部門のエントリーを対象とした。

杉並区の参加団体を抽出して表 4-3 に整理した。これまで3回開催されている全てにおいて、『善福寺川を里川にカエル会』が発表していることを確認した。その他、『遅野井川 かつぱの会』が参加していた。

また、善福寺川を里川にカエル会は2025年にはポスター賞最優秀賞を受賞している。

表 4-3 GIJ ポスター展示/ミーティング 杉並区の参加団体

開催年/ 分類	タイトル	団体名	備考
2025/ ポスター	善福寺川とその流域はグリーンインフラだ！！	善福寺川を里川にカエル会	ポスター賞 非営利部門 最優秀賞受賞
2024/ ポスター	善福寺池周辺グリーンインフラ計画の提案	上智大学・善福寺川を里川にカエル会	
2024/ ポスター	遅野井川親水施設が「自然共生サイト」に認定されました	杉並区都市整備部 土木計画課/遅野井川かつぱの会	
2020/ ミーティング	公募ミーティング 市民力によって都市の川を里川にカエル	善福寺川を里川にカエル会	

善福寺川とその流域はグリーンインフラ！！の要旨には民家の雨庭という記載があるほか、2024年の発表でも雨水の貯留、浸透について触れており、2020年は合流式下水道の課題を取り上げてミーティングを企画していることを確認した。

以下にGIJのサイトからポスター発表の要旨とミーティングの趣旨を抜粋して示す。

非営利部門-4

善福寺川とその流域はグリーンインフラだ！！

発表者 渡辺 剛弘

所属 善福寺川を里川にカエル会

連名著者 菊地絵里子・善福寺川を里川にカエル会/鈴木律子・善福寺川を里川にカエル会/寺村淳・善福寺川を里川にカエル会/中谷理彩子・善福寺川を里川にカエル会/渡辺博重・善福寺川を里川にカエル会/渡辺剛弘・善福寺川を里川にカエル会、上智大学

要旨

東京都杉並区の善福寺川流域では、地域住民が中心となるグリーンインフラの取り組みが進められている。民家の雨庭や公園の水辺は、治水だけでなく、生態系の保全、地域の交流の場、教育の場としても重要な役割を担っている。また、これらの取り組みは、川に流れ込む下水の問題解決にも貢献している。このポスターでは、善福寺川を都会の里川として捉え、地域の日常生活の中での関わり方やその魅力、可能性を伝えることを目的に、具体的なGIの事例とその目的を、一般の方々にわかりやすく紹介する情報をまとめる。

図 4-4 2025/ポスター 善福寺川とその流域はグリーンインフラだ！！要旨

善福寺池周辺グリーンインフラ計画の提案

発表者 渡辺 剛弘

所属 上智大学・善福寺川を里川にカエル会

連名著者 中村晋一郎（名古屋大学・善福寺川を里川にカエル会）／中谷理沙子（善福寺川を里川にカエル会）／滝澤恭平（善福寺川を里川にカエル会）／境原達也（善福寺川を里川にカエル会）／鈴木律子（善福寺川を里川にカエル会）／長谷川まさや（善福寺川を里川にカエル会・お散歩の会（杉並））／中村小百合（善福寺川を里川にカエル会）／渡辺博重（善福寺川を里川にカエル会）

要旨

善福寺池周辺におけるグリーンインフラ計画の提案

① 善福寺池の環境改善

雨水の貯留や浸透を促進し、善福寺川の源流である池の水質向上を目指す。

② 合流式下水道越流水の改善

下水が善福寺川の水質を悪化させている。GIを実装し、汚水流出を減少させ、水質の改善を狙う。

③ 都市型洪水の緩和

雨水を蓄積し、浸透しやすいまちづくりを提案し、流域全体で水害対策に取り組む。

④ 都市内の水辺や緑地の整備

雨水を活用できる水辺や緑地を整備し、池周辺の自然を保ちつつ、水質改善に寄与する。

⑤ 流域内の生物多様性の向上

GIの導入によりエコトーンを増やし、生物多様性の増進を目指す。

図 4-5 2024/ポスター 善福寺池周辺グリーンインフラ計画の提案 要旨

遅野井川親水施設が「自然共生サイト」に認定されました

発表者 中村 篤史

所属 杉並区都市整備部土木計画課

連名著者 伊地知英信（遅野井川かっぱの会）／渡辺博重（遅野井川かっぱの会）／中谷理彩子（遅野井川かっぱの会）

要旨

「自由に川へ入って遊びたい」、子どもたちの夢が実現した遅野井川親水施設。計画段階から地域の方や地元小学生の意見を取り入れ進められました。施設の特徴は、生物が生息・生育できるエリアと人々が憩い安らげるエリアと分けたところです。区民が主体的に参加できる活動を取り入れられるように、区民団体「遅野井川かっぱの会」が作られ、区と協働して維持管理を行っています。

都市における貴重な水域生態系として評価をいただき、自然共生サイトへの認定につながりました。さらに、都市ならではの課題として親水エリアの利用自体を妨げることなく保護を図るエリアの拡大に期待されています。

図 4-6 2024/ポスター 遅野井川親水施設が「自然共生サイト」に認定されました 要旨

市民力によって都市の川を里川にカエル

企画者 中村晋一郎（善福寺川を里川にカエル会）

- 発表者
1. 中村晋一郎（善福寺川を里川にカエル会／名古屋大学）「ミーティングの主旨：善福寺川と善福蛙」（10分）
 2. 杉並区立井荻小学校「井荻小学校での善福寺川再生の実践」（10分）
 3. 杉並区立東田中学校善福寺川研究部「善福寺川研究部の研究活動」（10分）
 4. 渡辺博重（善福寺川を里川にカエル会／井の頭かいぼり隊／NPO法人すぎなみ環境ネットワーク）「遅野井川の再生まで道のり」（10分）
 5. 滝澤恭平（善福寺川を里川にカエル会／水辺総研）「善福寺川グリーンインフラプラン」（10分）
 6. 渡辺剛弘（善福寺川を里川にカエル会／上智大学）「今後の展開：善福寺川がつむぐ、世代を超えた協働—都市の水辺環境再生プロジェクト」（10分）
 7. 全体ディスカッション（30分）
- 司会：三田秀雄（善福寺川を里川にカエル会／杉並区立東田中学校）

趣旨

近年、新型コロナウイルスの問題と相まって、都市の水辺の価値は一段と高まっている。しかし、都市の水辺は人口が増大する中で、水質の悪化や洪水流量の増大などの課題が発生し、それらに対応するため、河川のコンクリート化や合流式下水道の敷設が進み、川の機能を十分に果たせなくなっている。これらの課題を克服し、人と生き物が共生する豊かな水辺空間を再生するためには、それを失った時間と同じくらい長い時間を要する。よって、都市の水辺を再生するためには、世代を超えた多様なステークホルダーが水辺の価値を共有し、その実現に向けて協働していく必要がある。

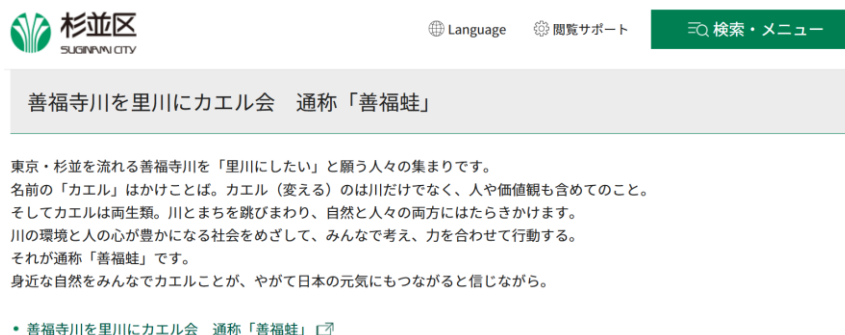
東京都を流れる善福寺川では、子どもたちや地域の大人、流域内外の専門家といった市民が集い、市民力によって都市の川を里川へと再生する取り組みが2011年から始まっている。善福寺川も他の都市の川と同様、河道はコンクリートで固められ、一定以上の降雨時には雨水とともに生活排水と一緒に川へと流れ出る合流式下水道越流水（CSO）が発生する典型的な都市河川である。

本ミーティングでは、東京・善福寺川で実践している都市の里川再生プロジェクトを通して得られた知見や経験をもとに、都市の水辺再生に向けた世代を超えたステークホルダーとの協働の可能性と課題について議論する。

図 4-7 2024/ミーティング 市民力によって都市の川を里川にカエル 趣旨

◆発掘3：善福寺川を里川にカエル会について確認

杉並区に登録環境団体として登録されている。なお、登録環境団体とは、登録環境団体とは、あらかじめ区長の登録を受け、区内の環境に関することを目的として活動する団体のことである。



善福寺川を里川にカエル会 通称「善福蛙」

東京・杉並を流れる善福寺川を「里川にしたい」と願う人々の集まりです。
 名前の「カエル」はかけこぼし。カエル（変える）のは川だけでなく、人や価値観も含めてのこと。
 そしてカエルは両生類。川とまちを跳びまわり、自然と人々の両方にはたらきかけます。
 川の環境と人の心が豊かになる社会をめざして、みんなで考え、力を合わせて行動する。
 それが通称「善福蛙」です。
 身近な自然をみんなでカエルことが、やがて日本の元気にもつながると信じながら。

• [善福寺川を里川にカエル会 通称「善福蛙」](#)

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s103/811.html>

図 4-8 杉並区 登録環境団体の WEB ページ

善福寺川を里川にカエル会（図 4-9）は、令和 7 年度民間提案型官民連携モデリング事業 シーズ提案書も提出している。公開されている提案書を図 4-10 に示す。提案は、本調査で目指している中間支援組織の役割を含んでいる内容である。

提案書の提案者は『善福寺川を里川にカエル会 & 一般社団法人 風致 FŪCHI（令和 7 年 4 月設立予定）』とされている。善福寺川を里川にカエル会の提案書の担当者に確認をして一般社団法人風致が立ち上がっていること、さらに中間支援の役割を担える組織であることを確認した。

「善福寺川を里川にカエル会」は市民活動やネットワーク形成の主体であり、「一般社団法人風致」は活動を社会実装し、事業継続性や責任能力（契約主体等）を担保するために設立された実務部隊である。

なお、一般社団法人風致は、善福寺川を里川にカエル会のメンバーを中心に立ち上げた団体であり、雨庭の知識、整備方法などの知見を有している。さらには、2011 年から善福寺川を里川にカエル会にて学識者との連携した活動を展開してきた経験をそのまま引き継いでいる。

これらを踏まえて、一般社団法人風致を本調査における中間支援組織として選定した。



<https://zempukukaeru.wixsite.com/zempukukaeru>
 図 4-9 『善福寺川を里川にカエル会』の WEB サイト

<p>令和7年度民間提案型官民連携モデリング事業 シーズ提案書 (民間事業者)</p> <p>【対応ニーズ番号】 GN-02 GS-09</p>	<p>【テーマ】 戦略的成長イノベーションを担う自治体の体制の確保 / スマートコンセンサスの推進 / グリーン社会の実現 / その他 (グリーン社会の実現 / その他)</p> <p>【対象施設】 道路 / 橋梁 / 公園 / 上下水道 / 河川 / 港湾 / 遊休施設 / その他 (都市・まちづくり)</p> <p>【事業方式】 コンセプション / その他のPFI / 包括的民間委託 / その他 (推進態勢の構築・運営)</p> <p>杉並区内全域での地域密着グリーンインフラプロジェクト</p> <p>グリーンインフラの推進に向けた情報基盤を整備し、GISツールの活用を促進するとともに、市民や企業等と連携した地域密着型の中間支援組織を企画・運営することで、官民学連携プラットフォームを構築し、防災・減災、生物多様性の保全、環境教育等の自治体が抱える様々な社会課題の解決に貢献する。</p>
<p>① 提案によって解決することができる課題のイメージ</p> <p>解決する課題のイメージ</p> <p>グリーンインフラの推進に向けた事例やノウハウ、団体等の情報が整理・共有されておらず、区民や企業等とつながりや協働の仕組みが整っていない。 → 雨庭等の整備事例や効果、活動団体等の情報を整理し、既存のGIS等のシステムを用いた実用的な提案を実施するとともに、活動団体のつながりや新規リーダーの発掘により、区民や企業との共創によるグリーンインフラ推進のプラットフォームを構築する。</p>	<p>② 提案内容</p> <p>グリーンインフラデータベースの作成</p> <p>導入推進・効果検証等の情報基盤を整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境活動団体や、まちづくり活動団体による、グリーンインフラの取り組み事例のデータベース作成。 雨庭等による雨水貯留浸透効果の測定、検証。 過去の杉並区の風景などの資料を保存、整理したアーカイブの作成・展示。
<p>グリーンインフラデータベースの作成</p> <p>導入推進・効果検証等の情報基盤を整備</p> <p>GISによる利用者間の交流促進</p> <p>ユーザー目線でシステムの改善策を提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存のGISツール(すぎナビ)をベースとし、グリーンインフラの推進を促す改善策の提案。 データベースの活用に加え、利用者間の交流や専門家による助言などを行うことによる、システム利便性の向上。 	<p>区民等との協働できる体制づくり</p> <p>中間支援組織として、官民学連携プラットフォームを構築・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域特性や課題を踏まえプラットフォーム創出の検討・提案。 教育機関との連携や企業研修等による、プラットフォーム運営人材の育成。 普及啓発イベントやWS等を通じ、市民や企業、団体等のキープレイヤーの発掘や、多様な主体の参加交流の促進。 グリーンインフラ推進拠点的設置による、上述の活動を促す環境の整備・提供。 研究機関との連携や企業研修の実施による人材育成。
<p>【先達性】</p> <p>既存GISツール向けのデータベース構築と改善策により、取組が可視化・共有され、利用者主体の課題解決を促す。プラットフォームにより多様なステークホルダーの連携を強化することで、地域全体の力を結集した取組が可能となる。</p> <p>【有効性】</p> <p>GISを活用した情報共有とデータ分析により、グリーンインフラの多面的な効果を最大限に引き出し、科学的根拠を基にした意思決定が可能になる。また、イベントや人材育成により、地域住民の理解促進・意識向上に貢献できる。</p> <p>【汎用性】</p> <p>同様の課題を有する他の地域や自治体に対して、解決策を提供するモデルケースとなる。他の自治体においても、同様のプラットフォームが適用可能であり、広く活用できる取組となる。</p>	
<p>団体名：善福寺川を里川にカエル会 担当者：渡辺博重</p> <p>担当部署：事務局 連絡先(電話番号)：090-9309-8844</p> <p>メールアドレス：zenpukuken@gmail.com</p>	

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanminrenkei/content/001868924.pdf
 図 4-10 善福寺川を里川にカエル会による令和7年度民間提案型官民連携モデリング事業 シーズ提案書



Message

人の暮らしと共にある、「風致」豊かな未来へ。

私たちはこれまで、善福寺川という身近な自然に寄り添い、その豊かさや課題に向き合ってきました。都市における自然は、単なる「残された緑」ではありません。それは、豪雨災害の軽減、ヒートアイランド現象の緩和、そして人々の心身の健康やコミュニティの醸成に寄与する、かけがえのない「インフラ」です。

社名には、私たちの強い想いが込められています。「風致」とは、おもむきや味わいのある景色のことで、人との生活と繋がるうつくしい自然状況を表す言葉です。

私たちはこの言葉の通り、単に手つかずの自然を守るのではなく、人の営みと関わり合いながら美しく調和する自然環境を、杉並の地に築いていきたいと考えています。

行政・区民・事業者の皆様と共に、緑あふれる「風致」豊かなまちづくりに貢献してまいります。

皆様の温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

一般社団法人風致 代表理事
渡辺 博重

<https://fuchi.or.jp/>

図 4-11 一般社団法人風致の WEB サイト

4-3. 相談窓口の開設

相談窓口の開設にあたり、杉並区が保有する既存の官民連携プラットフォームのシステム「すぎなみボイス」と「すぎなみプラス」の機能や使用方法など検証し、本調査における窓口の設置個所を検討した。

次に窓口の運用方法を検討し、ページと窓口を構築して、10月17日から運用を開始した。相談窓口の開設までの手順と運用を報告書の構成に沿って図4-12に示した。

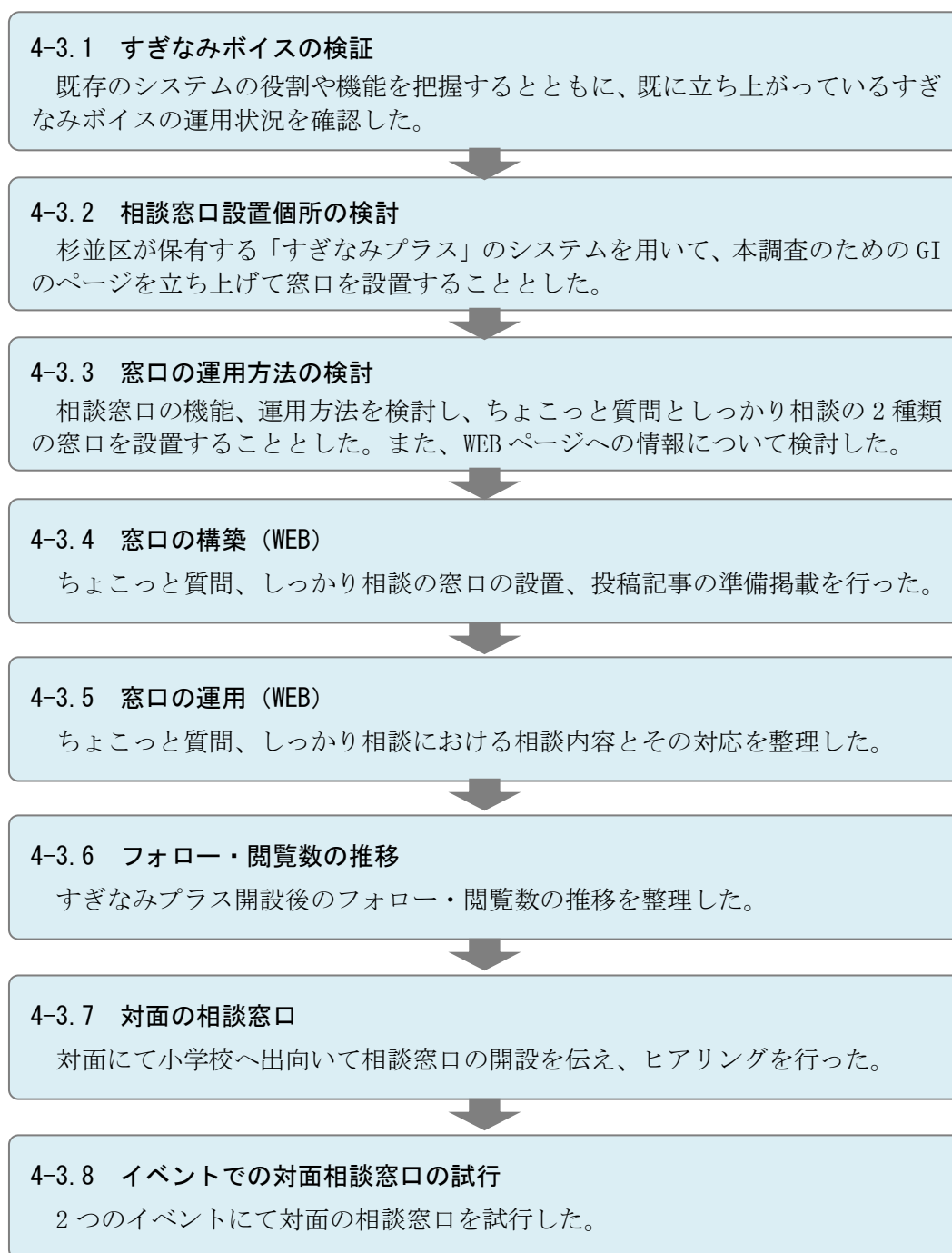


図 4-12 相談窓口の開設までの手順と運用

4-3.1 すぎなみボイスの検証

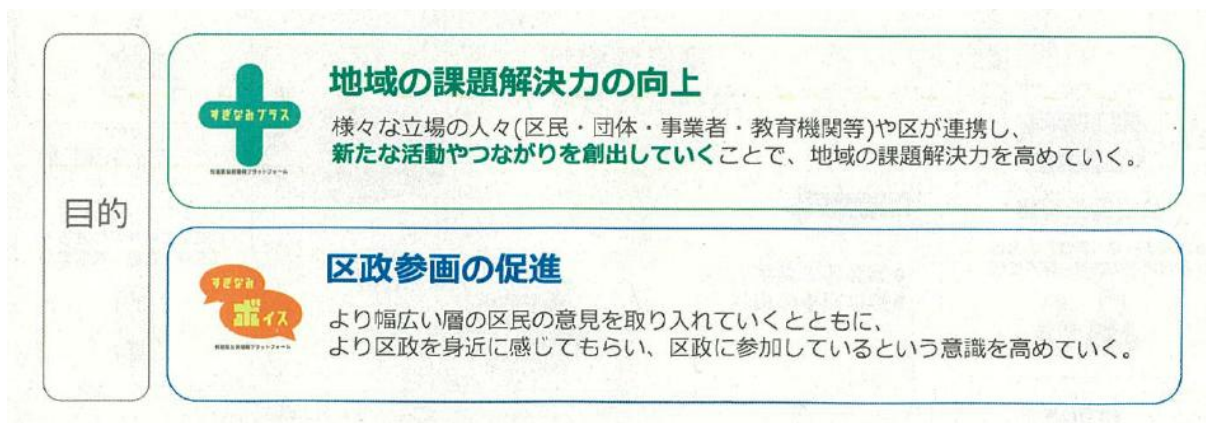
(1) すぎなみボイス・すぎなみプラスとは

杉並区が整備している公民連携プラットフォームは2種類ある(図4-13)。

すぎなみボイスは、区政参加を促進し、より幅広い層の区民の意見を区政に取り入れていくとともに、より区政を身近に感じてもらい区政に参加している意識を高めるものである(図4-14)。

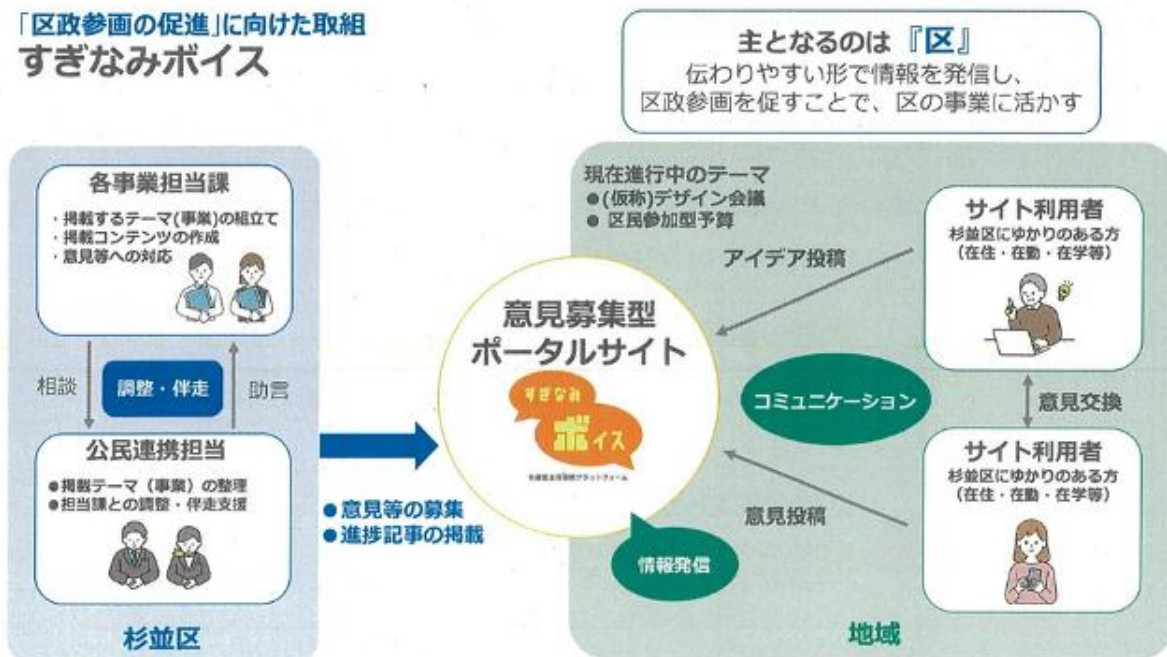
もう一つの、すぎなみプラスは、区民がもつ課題を連携により解決するもので、区民の相談を受けて作られるページである(図4-15)。

どちらも、課題やテーマごとにページが作成され、記事を登録することで内容を充実させていくことができる。また、意見聴取ができる機能を備えている。



出典：杉並区企画課

図4-13 2種類の公民連携プラットフォーム



出典：杉並区企画課

図4-14 すぎなみボイス概要

「地域の課題解決力の向上」に向けた取組
すぎなみプラス

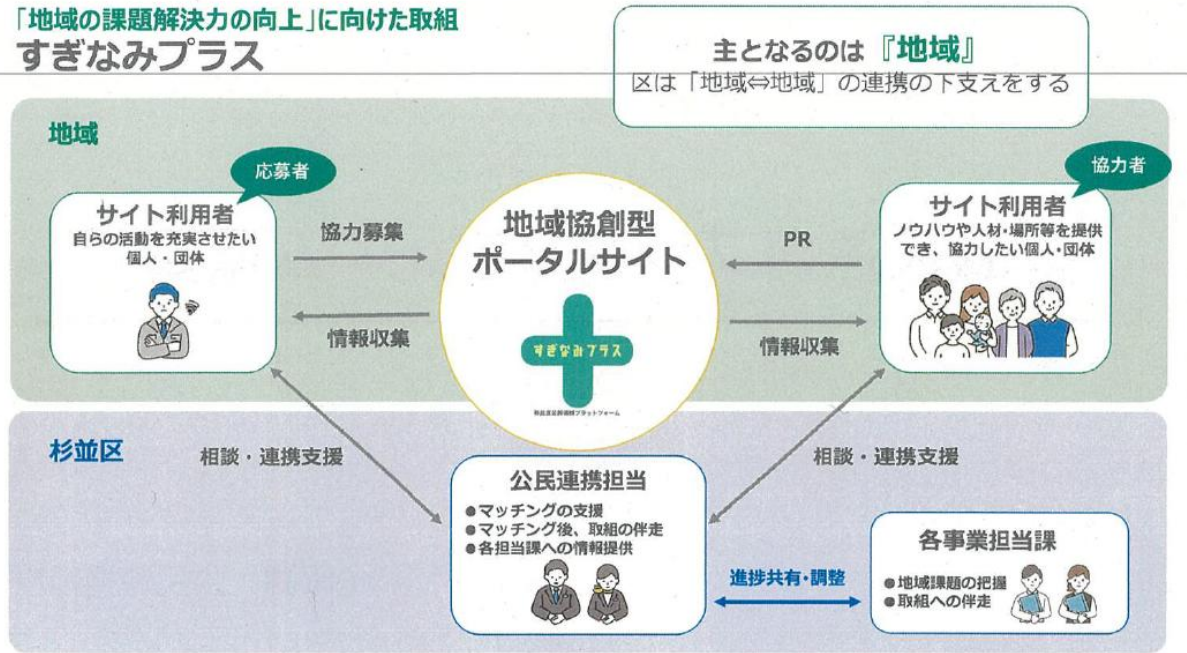


図 4-15 すぎなみプラスの概要

すぎなみボイスには、行政が主体のグリーンインフラに関するページが立ち上がり、2024年10月から運用されている。意見の書き込みをみると、グリーンインフラに賛成の意見や、効果に対して懐疑的な意見など様々な意見が投稿されている。

杉並区 > すぎなみボイス > みんなのグリーンインフラ 水害対策について考えよう! > みんなで考えてみましょう!



図 4-16 すぎなみボイスのグリーンインフラのページ

4-3.2 相談窓口設置箇所の検討

今回は、新しくグリーンインフラをポジティブなイメージで打ち出していきたいこと、官民連携であるが中間支援組織が主体となり運営することから、地域が主となる「すぎなみプラス」を活用することが適していると考えた。

すぎなみプラスを使わずに中間支援組織による WEB サイトを立ち上げて相談窓口の運用を開始した場合には、サイトの周知や中間支援組織の信頼度を区民との間に築くために、労力と時間を要することが容易に想像される。

WEB サイトの周知・広報については、すぎなみプラスを活用することで、すぎなみプラスの既往の登録者に向けた発信が可能であるほか、杉並区 LINE 公式アカウントですぎなみプラスの広報も可能である。信頼度については、区が運営するサイトであるため、区民は安心してサイトの閲覧と相談ができると思う。

以上を踏まえ、すぎなみプラスを活用することとした。

また、すぎなみプラスでは、プロジェクトマップの提示、情報発信、意見募集、ニュースレターの発行ができる機能がある。またダッシュボードで閲覧状況を把握することができる(図 4-17)。

機能の全体像

参加型まちづくりを双方向のある形で進めるための、様々な機能を有しています。また、高齢者(最高齢90代)の方の利用実績もあり、分かりやすく使いやすいデザインとなっています。



 <p>専用ページ構築 まちづくりプロジェクト・テーマごとに専用ページを立ち上げられます。</p>	 <p>プロジェクトマップ 進捗をフェーズに分けて整理でき、プロセス可視化・透明性向上につなげます。</p>	 <p>情報発信 情報発信用の記事作成ができます。投稿のみの権限も付与できます。</p>	
 <p>意見募集 設定した期に対して、意見募集を行うことができます。</p>	 <p>協力募集 「できる時に、できる形で」参加や協力を募ることが可能です。</p>	 <p>ダッシュボード 閲覧状況や参加状況をリアルタイムで把握できます。</p>	 <p>ニュースレター 継続的な参加を実現するため、自動/手動でのお知らせが可能です。</p>

2

出典：my groove 機能詳細紹介資料 株式会社 Groove Designs

図 4-17 すぎなみプラス (my groove) の機能

4-3.3 窓口の運用方法の検討

(1) 相談窓口に必要な機能

WEBでの相談窓口の開設にあたり、すぎなみプラスのページにグリーンインフラとは何かを解説する情報、ページ開設の目的、官民連携のプロジェクトの概要と杉並区との関係、運営する中間支援組織である風致の紹介を示すこととした。

また、何を相談したらよいかわからない人、軽く知りたいひとに向けた窓口と、深く相談したい人に向けた窓口を開設することで、広く相談や迷っていることなどを拾い上げることができるようにする方針とした。

深く相談したい人に向けては、連絡先を記入してもらい、折り返し連絡をして詳細をヒアリングできるような仕組みが必要になる。また、届く相談は中間支援組織と杉並区で確認できるようにする。

相談窓口の機能

- ・誰もがアクセスでき、区民に周知できるものであること
- ・相談の問い合わせフォーム、回答の機能
- ・相談だけでなく、GIに関する情報や事例を紹介する機能を付加する。
※WEBサイトのほか、実際に体験して知る機会を設けて情報発信をしていく。
- ・窓口は、区と連携して実施していることを示して運用する
- ・注意点：個人情報の取り扱い

相談窓口(ライトで気軽な相談)

意見募集機能を活用。
気になったことを聞いたり、情報を得る目的で見ってもらう。
⇒個人情報は入れないようにしてもらう必要あり。
⇒コメントへの対応など、ファシリテートは工夫が必要。
※意見募集機能を使う場合、写真投稿も対応可能。



相談窓口(しっかり具体的な相談)

個人情報も含めてもらいながら、個別に相談対応。
⇒協力募集機能の場合、簡易的なフォーム設定が可能だが、my groove登録が必要。
(申し込み管理・本人によるキャンセルも可能)
⇒いろいろと確認項目を作っておきたい場合は、Googleフォームを記事からリンク可能。

※協力募集機能で作れるフォーム項目

- ・団体・組織名を入れてもらう欄
 - ・電話番号入力欄
 - ・選択式アンケート(※1種類のみ。複数選択可)
 - ・コメント入力欄
- ⇒登録時に、メールアドレス、氏名、性別、年代、居住エリア(郵便番号)は取得済み。

※協力募集機能だと、申込時に任意のアカウントへメール通知も可能。

3

図 4-18 2種類の相談窓口

(2) ページのコンセプトなどの検討

すぎなみプラスのページ構築にあたり、ページのコンセプト、方向性を以下のフォーマット（図 4-19）で整理して杉並区、風致、弊社にて内容を確認した後に、記事などの作り込みに移った。フォーマットは、すぎなみプラスのサービスを提供する Groove Designs により、ページ作成用に準備されたものである。

1. 方向性整理シートを記入する

資料 2

プロジェクト：「X X」

<div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;">この事業を実施する目的は？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 杉並区内でグリーンインフラの考えを普及させて各自で取組めることを楽しみながら実施していくことをサポートする。 ・ X X 	<div style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;">この事業に必要なアウトプットは？ (いつまでに、何を)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月までに相談への対応 1 件以上を実施できること。 	<div style="background-color: #bbdefb; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;">特に巻き込みたい人たちはどんな人？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 杉並区民の自然環境に興味関心がある人から広げる ・ 小学校の関係者 ・ 公共施設管理者
<div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;">事業終了時、避けたい状態はどんなもの？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2025年10月中旬～2026年1月を終了予定とする ・ 試行で行う短期のもので、次につながらなくなる ・ 窓口がなくなるとGIの動きがなくなること。 	<div style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;">my grooveを使って実現したいことは？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ GIに関する相談を募ること ・ 相談者とのやりとり ・ GIに関連する情報の集約、発信 ・ 体験の場の実施の紹介 ・ 体験の場のイベントの告知 ・ 事例紹介 ・ 事例マップでの事例紹介 	<div style="background-color: #bbdefb; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;">事業ステップ別の目標は？</div> <p>例：</p> <p>定性面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談者がGIを理解して学び、GIの普及や指導者となっていくこと ・ GIについて前向きな理解を広げられること ・ 公共事業で実施するのではなく、中間支援組織、民間で実施することの意味、事業と捉えられないようにする <p>定量面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共、私有地ともに杉並区のGIの事例が増えること ・ 水害リスクの低減効果が得られること ・ 生活の質の向上を図る（アンケートなど？）

1

2-1. ポータルページ作業シート

<div style="border: 1px solid black; height: 100px; margin-bottom: 10px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">①カバー画像</div> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">③説明画像</div>	<div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">①カバー画像</div> <p>カバー画像として利用したい写真・画像があれば左に貼ってください</p> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">②キャッチコピー</div> <p>取り組みのキャッチコピーを記入ください(40文字以内。30～35文字推奨)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> 雨水がはぐくむ みどりといのちの共生 をめざして </div> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">③説明テキスト</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> グリーンインフラは、自然が持つ多様な機能を活用して社会や 函渠うの課題解決を図る考え方です。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 生物多様性の保全と創出、グリーンインフラに関する情報の提供と、困りごと・技術的な相談の窓口を設置しています。 なお、本サービスは試行のため2026年1月までの期間限定です。 </div> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">③説明画像</div> <p>③の各説明に併せて掲載できる写真・画像があれば左にはってください。</p> <div style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">④外部リンク情報</div> <p>こちらのページから外部サイトへのリンクやファイルへのリンク、動画掲載がある場合は、下記に記入ください(増やしても問題ありません)。 <small>※ファイルは別途お送りください。</small></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr style="background-color: #bbdefb;"> <th style="padding: 5px;">掲載テキスト</th> <th style="padding: 5px;">リンク先またはファイル名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">事例マップ（今回作成）</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">GIに関連するページ（入れるかどうか検討）</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"></td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> </tbody> </table>	掲載テキスト	リンク先またはファイル名	事例マップ（今回作成）		GIに関連するページ（入れるかどうか検討）			
掲載テキスト	リンク先またはファイル名								
事例マップ（今回作成）									
GIに関連するページ（入れるかどうか検討）									

2

図 4-19 ページのコンセプト等の整理 (1)

25

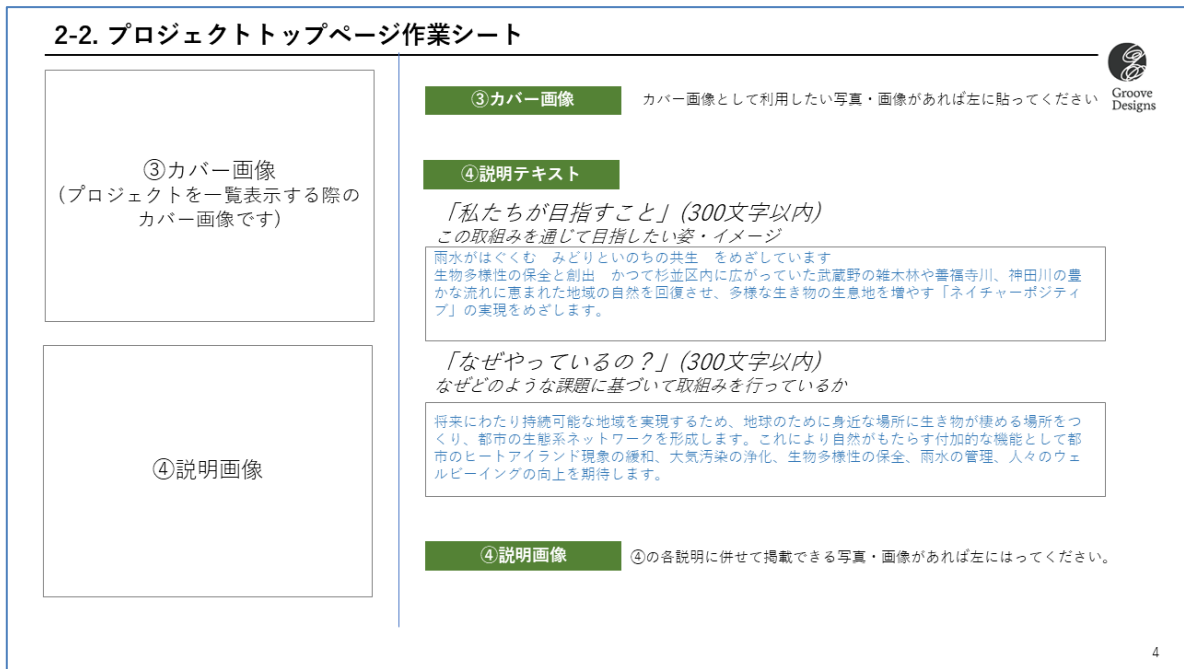


図 4-19 ページのコンセプト等の整理 (2)

(3) 運用方法

中間支援組織の風致にて相談内容を確認し、回答や個別の連絡を行うこととする。相談内容に応じて、公共に関する事項は杉並区と連携して相談への対応を行う。相談者に対する窓口は中間支援組織とする。

4-3.4 窓口の構築 (WEB)

中間支援組織である風致を中心としてページの記事を作成し、すぎなみプラスのシステムを提供している Groove Design にてページの構築を行った。

今回立ち上げたグリーンインフラのページ『地域のグリーンインフラの輪を広げよう』を、図 4-20 に示す。本ページは 2025 年 10 月 17 日に開設し、1 月 15 日時点のフォロー数は 176 人である。

杉並区 > [すぎなみプラス](#) > 地域のグリーンインフラの輪を広げよう！

フォローする



地域のグリーンインフラの輪を広げよう！

[すぎなみプラス](#)

水とみどりの力でまちを元気に！

自然の多様な機能を活かすグリーンインフラ 🌿

地域のグリーンインフラの広がりを目指して、地域の団体が主導するプロジェクトがスタートしま…

プロジェクトをフォローしている人



150人がフォロー中

このプロジェクトをフォローしませんか？

フォローすると最新情報を受け取ったり、活動に参加することができます。

フォローする

記事

記事 2025-11-07

Vol.4 柏の宮公園でグリーンインフラ体験ワークショップを開…



👁️ 閲覧数：26

❤️ 1

記事 2025-10-27

Vol.3【開催レポート】善福寺川発見2025を開催しました！



👁️ 閲覧数：72

❤️ 6

記事 2025-10-17

Vol.2「すぎなみグリーンインフラ相談ひろば」とは？



👁️ 閲覧数：85

❤️ 5

記事 2025-10-17

Vol.1 このプロジェクトについて



👁️ 閲覧数：120

❤️ 6

出典：杉並区ホームページ「すぎなみプラス」 <https://mygroove.city/organizations/11/projects/79>

図 4-20 すぎなみプラスに立ち上げたグリーンインフラのページ

地域のグリーンインフラの輪を広げよう!

♡ 6



【ちょこっと質問】グリーンインフラについて質問したいことはなんですか？

風致_渡辺

2025-10-17

杉並区で取り組みが進む雨庭（あめにわ）などのグリーンインフラ。
官民連携により、気軽に専門家へ質問や相談ができる窓口をはじめます！

このプロジェクトは、自然の力を借りて、暮らしやすく水害に強いまちを、みんなで目指すためのオンライン相談窓口です。

「雨水タンクって効果あるの？」
「メダカが住める小さな池をつくりたい」
「雨が降ると地面に水が溜まって困っている」
「庭がなくてもできることはあるの？」
などなど。
ちょっとした質問や生活の困りごとでも大丈夫です。

杉並区に関わりのある方なら、誰でも参加、質問ができます。
グリーンインフラに関する素朴な疑問やアイデアなど、気軽に質問や情報交換ができます。

あなたの聞きたいことに近い選択肢を選び、コメント欄に内容をお書きください。
画像のアップロードも可能です。

だれでも参加OK!

杉並区に関わりのある方なら、どなたでもご利用いただけます。
区民の方、事業者さん、団体・NPO、学生さんまで。
「ちょっと話してみたい」「他の事例を知りたい」そんな気持ちからの参加も大歓迎です。
グリーンインフラに関する素朴な疑問から専門的な質問まで、安心して話せる場所を目指しています。

安心してご利用いただくために

このコミュニティは、みんなでグリーンインフラについて学び・つながるオープンな質問の場です。

ご利用にあたって、次の点にご協力をお願いいたします。

- オープンコミュニティですので、意見を書き込む際などのご自身や他の方の個人情報の扱いには注意してください
- より詳細な相談を専門家にされたい方は、[こちらのフォーム](#)からお申し込みください
- 他人への誹謗中傷・グリーンインフラと関係ない宣伝・勧誘等は禁止としています

<https://mygroove.city/organizations/11/projects/79/questionnaires/294>

図 4-21 「ちょこっと質問」のページ (1)

選択肢

🌱 グリーンインフラ自体について知りたい

🏡 暮らし・生活の中で取り入れてみたい

🏢 事業や地域の活動で検討している

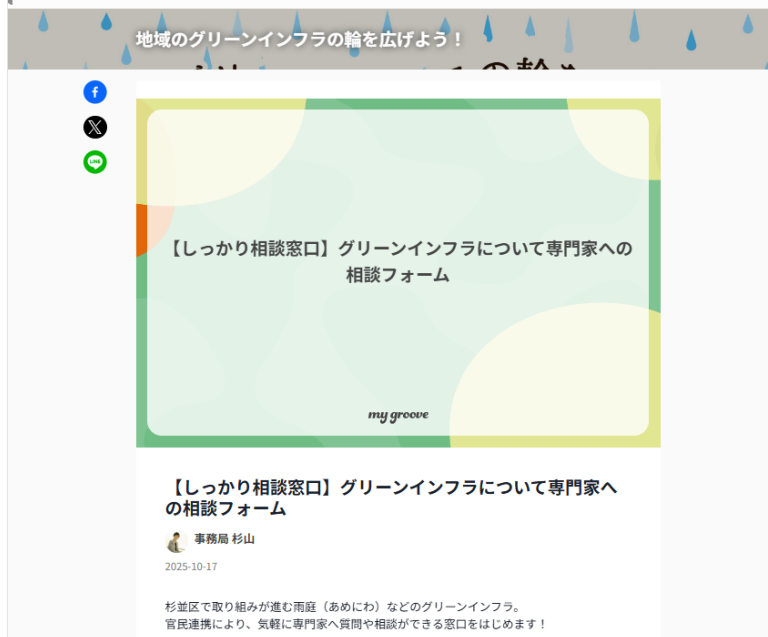
🗑️ すでに取り組んでいるが課題や相談がある

🤝 地域で協力・連携できることを探している

💬 その他(コメントでご記載ください)

回答結果を見る

図 4-21 「ちょこっと質問」のページ (2)



このフォームは、グリーンインフラに関して、個別に専門家へ相談したい方向けのフォームです！
ご相談いただいた内容は、相談窓口である「一般社団法人風致」に提供され、杉並区にも共有されます。

内容に応じて、専門家からのご案内や情報提供を行います。
※my groove上の登録アドレス、もしくはフォームに入力いただいた電話番号宛にご連絡します。

気軽に質問したい方は、[こちら](#)でもオープンな質問の場を用意しています👉

自然の力を活かしたまちづくりを、みんなで一緒に考えていきましょう！
みなさまのご意見をお待ちしています🌱

所属組織・団体があればご記入ください

所属団体名を入力 0/100

日中ご連絡可能な番号をお願いします。必要に応じて、ご連絡します

電話番号を入力

相談内容に近いものを選択してください

- グリーンインフラについて知りたい
- 暮らしや生活に取り入れてみたい
- 事業や地域の活動で検討している
- すでに取り組んでいるが課題や相談がある
- 地域で協力・連携できることを探している

相談内容について、ご自由にお書きください **必須**

活動への思いをコメントする

申し込む

提案団体：一般社団法人風致

本募集において登録された個人情報については、本プロジェクトを運営する杉並区及び、本募集を行っている一般社団法人風致にも提供します。登録された個人情報は、本プロジェクトの運営を目的として利用するものとします。

図 4-22 「しっかり相談」のフォーム

4-3.5 窓口の運用 (WEB)

10月17日にすぎなみプラスに「地域のグリーンインフラの輪を広げよう」を開設し、グリーンインフラを紹介する記事を投稿して運用を行った。

『ちょこっと質問』には1件の書き込み、アンケートの選択肢は8人の回答があった。

『しっかり相談』の窓口には5件の相談があり、そのうち4件について対応を行っている。

相談窓口の周知のためのフライヤーを中間支援組織の風致にて作成し、図書館や配架可能な店舗などに置いて、計500部程度を配布した。

このほか、杉並区の公式LINEにて表4-4に示す原稿内容で、相談窓口の開設のお知らせを投稿した。



図 4-23 相談窓口の開設を知らせるフライヤー

表 4-4 SNS での相談窓口開設のお知らせ 原稿

LINE 投稿日	10月31日（金） 8時30分	カテゴリ 環境・住まい・まちづくり
LINE 原稿	すぎなみグリーンインフラ相談ひろば 雨庭など、自然の力で暮らしやすく水害に強いまちづくりを。 グリーンインフラについて、専門家へ気軽に相談できるオンライン窓口を始めます！ 期間：2026年1月まで（試行） https://mygroove.city/organizations/11/projects/79	
画像		
ALT	「すぎなみグリーンインフラ相談ひろば」の画像	
開催場所	オンライン（すぎなみプラス）	
問合せ		

※10/31の投稿を予定していたが、実際は11/6となった。

(1) ちょこっと質問

ちょこっと質問は、普及啓発の第一歩として、住民の皆様からの素朴な疑問やアイデアを受け付ける窓口である。

書き込み状況を図 4-24、回答状況図 4-25 に示す。

選択肢の回答は全 8 件であった。回答は、「すでに取り組んでいるが課題や相談がある」、「地域で協力・連携できることを探している」がそれぞれ 2 人、「事業や地域の活動で検討している」、「暮らし生活のなかで取り入れてみたい」、「グリーンインフラ自体について知りたい」がそれぞれ 1 人と積極的に取組みたいという区民が存在することが読み取れる結果であった。

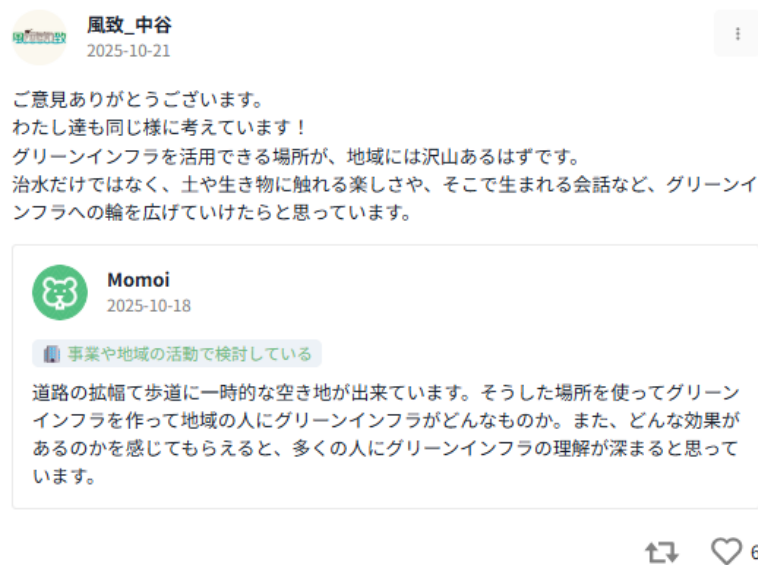


図 4-24 ちょこっと質問の運用状況

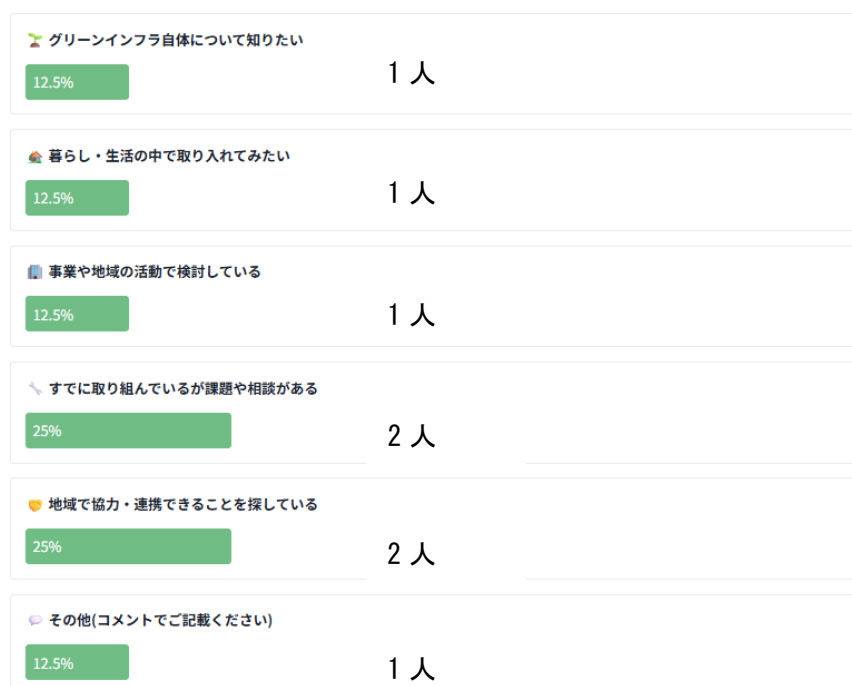


図 4-25 ちょこっと質問の選択肢への回答（回答数：8件）

(2) しっかり相談

1) 相談案件の対応状況一覧

「しっかり相談窓口」に寄せられた全6件の案件について、中間支援組織としての対応状況を整理した。

表 4-5 しっかり相談窓口への対応状況

連絡日	相談者	カテゴリー	相談内容の要旨	現在のステータス・主な対応
11月6日	A氏	個人住宅	玄関周りのアスファルト剥離と緑化相談	メール返信後、リアクションがなく保留中
11月20日	B氏	教育施設 (小学校)	和田小学校4年生の授業連動雨庭づくり	座学・製作を年度内に実施。次回打合せ調整中
11月22日	C氏	保育施設 (認可外)	託児施設にある前庭の雨庭改修、樹木管理	1/26 剪定実施予定。雨庭は5月以降施工
11月28日	D氏	公共空間 (空地)	西荻窪・関根橋北西側の空地雨庭化	1/13 区役所にて実務協議完了。2月WS開催予定
12月2日	E氏	公共空間 (公園)	妙正寺公園の樹種選定への住民意見反映	現在のステータス・主な対応
2月12日	F氏	集合住宅	保有するマンションを活用したGIの実施・啓蒙	2/12 に現地視察と打合せを実施

2) 各案件の詳細と進捗状況

① A氏（個人住宅：玄関周りの緑化・浸透相談）

- 相談内容：自宅（母屋＋アパート）の舗装された玄関・駐輪場周りのアスファルトを剥離し、緑化・雨水浸透させたい。素人では基礎工事等の判断が難しいため、区の調査・協力を希望。
- 経過：11月下旬に風致（中間支援組織）より返信。行政判断が必要なため区職員同行を提案し、日程調整を依頼。
- 現状：その後リアクションがなく、現在はコンタクトが途絶えているため保留中。

② B氏（和田小学校支援本部：学校教育連動型GI）

- 相談内容：4年生の「水害」学習と連動し、校庭や学級園に雨庭を設置したい。持続的な学習環境を希望。
- 経過：12月19日に風致（中間支援組織）と大正大学の教授が現地視察・打合せを実施。1月中旬に次回打合せの日程調整に入った。
- 計画：「ビオトープと雨庭の違い」等の座学を実施後、今年度内（3月末まで）に製作を完了させる予定。

③ C氏（託児施設を運営する株式会社：託児施設GI）

- 相談内容：認可外託児施設にある前庭の雨庭づくりと、子供たちの参画。
- 経過：11/28の第1回打合せで雨庭改修と収納用「納屋」の設置を風致より提案。12/5に施設設計者と配置を協議。納屋設置時期に合わせ、雨庭施工は5月以降に決定。

- 深化：並行して園内の樹木管理（剪定等）も受託し、1月26日に第1回目の剪定作業を実施予定。
- ④ D氏（西荻窪・関根橋北西側：公共空地利活用）
 - 相談内容：道路予定地の空地を、景観悪化防止と地域交流のために住民の手で雨庭化したい。
 - 経過：12/11に三者協議（住民・風致・区）、12/17に「試し掘り」を実施。1/13に区役所にて土木事務所・GI担当と実務協議（段差解消、資材提供、導線確保）を行った。
 - 計画：2/14の報告会でのミニ講習会を経て、2月下旬にワークショップ第1弾を開催予定。
- ⑤ E氏（妙正寺公園：既存公園への住民意見反映）
 - 相談内容：柳伐採後の再植樹における樹種選定（イイギリの推奨）と、住民投票の仕組みを要望。
 - 経過：内容が区の直接事業（みどり公園課）案件であるため、要望を伝達の上、久保様へ直接の行政窓口を案内しクローズした。
- ⑤ F氏（集合住宅を保有するハウスメーカー：地域と連携したGIの啓蒙活動の実施）
 - 相談内容：保有するマンションを活用し、地域と協力・連携しながらGIの啓蒙活動を進めたい。外構、植栽などのGIの視点での調査、専門家の助言を求めている。このマンションをモデルケースとしてGIを地域へ広げるための地域との連携の具体的な方法もアドバイスを求めている。
 - 経過：2月12日に現地確認と打合せを予定する。

3) 中間支援組織としての分析と提言

今回の相談対応を通じ、杉並区におけるグリーンインフラ普及に向けた中間支援の役割と課題を以下のように整理した。

中間支援の役割

- 1. 行政窓口のハブ機能**：道路（土木事務所）、学校（教育委員会・学校）、公園（みどり公園課）など、多岐にわたる行政窓口と住民の間に入り、実務的な調整を一手に引き受けた。
- 2. 専門知のトータルコーディネーター**：単なるGI設置に留まらず、学校の学習カリキュラム化（和田小）や、建築設計・維持管理（C氏相談案件）まで含めた多角的な提案を行った。
- 3. 実働への橋渡し**：西荻窪の事例では、行政側の懸念事項（安全面や将来の道路整備）に対し、具体的な施工方法や役割分担を提案することでプロジェクトを前進させた。

課題と提言

- **個人・民間へのフォローアップ**：相談者A氏の事例のように、個人の熱意を実行動に結びつけるには、初期相談後の伴走支援や、小規模施工に対する具体的なパッケージ

(補助金情報やモデルケース提示)の充実が必要である。

- ・「出口」としての維持管理支援：C氏の相談事例のように、GI設置と「樹木管理・剪定」をセットで支援することは、民間施設がGIを導入する際の大きなインセンティブとなる。
- ・学校モデルの展開：和田小の「座学+製作」の取り組みは、他校への横展開が可能なGI教育の標準モデルとなり得るため、区としての継続的な支援体制が望まれる。

4-3.6 フォロー・閲覧数の推移

『地域のグリーンインフラの輪を広げよう』のページのフォロー数や閲覧数の推移を図4-26、図4-27に示す。

10/17の開設日とLINEで発出した日のページビューが伸びている。その他、記事が投稿された日や、杉並区が主催するグリーンインフラのイベントにてフライヤーを配布した日などにページビューが高くなっていた。

LINEや対面のイベントによる広報の効果が確認できる結果であった。

my groove運用状況サマリー



ユニークユーザー数：一定期間内にWEBサイトを訪れた「重複を除いた」訪問者数

図4-26 運用状況サマリー12/8時点(プロジェクトステータス、ページビュー、ユニークユーザー数)

プロジェクトステータス

ビュー数① 2,297	ユニークユーザー数① 726	フォロワー数① 173	意欲アンケート回答数① 3
いいね数① 37	アンケート回答数① 8	コメント数① 2	協力募集参加者数① 5

図 4-27 運用状況サマリー1/16 時点（プロジェクトステータス、ページビュー、ユニークユーザー数）

フォロワーの属性を図 4-28 に示す。性別、年代に関して大きな偏りなくフォローいただいている。

フォロワーの居住エリアは、若干偏りが見られる。

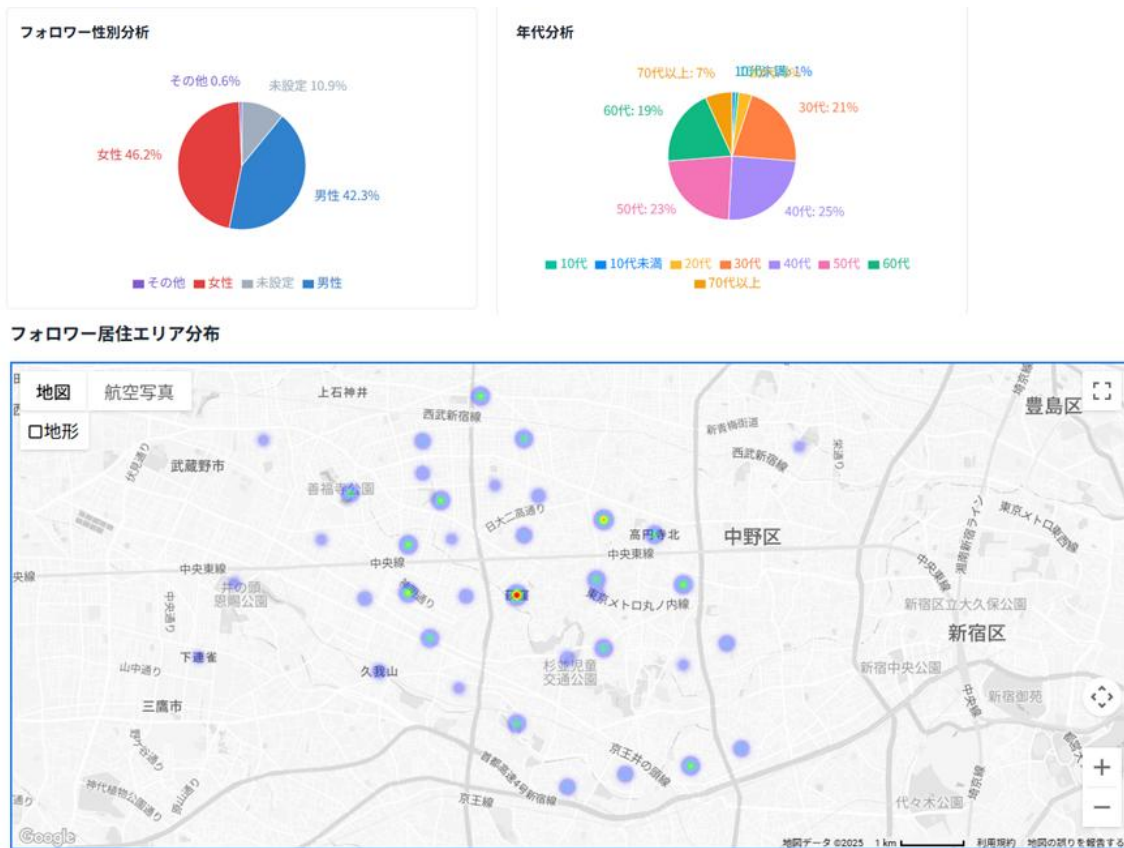


図 4-28 フォロワーの属性

4-3.7 対面の相談窓口

対面の相談窓口の一環として、学校ビオトープや植栽などがあり雨庭の整備や GI の教育の場になる可能性が高い小学校へのヒアリングを行った。

(1) 目的

杉並区におけるグリーンインフラの推進のため、小学校でのグリーンインフラの導入を図るにあたり学校で困っていることなど、実情を踏まえたうえでの導入提案を目指していく。

現状を把握するため、小学校の副校長先生に対してビオトープ、植栽などの自然、敷地の管理に関するヒアリングを行うこととした。

(2) 対象とする学校

都市整備部管理課にて実施した既存アンケートで「困りごとについて専門家に聞きたいこと」を回答した 2 校を対象として、ヒアリングを依頼し、協力が得られた済美小学校を対象に実施した。

表 4-6 対象校と困りごと

No.	学校名	困りごとについて専門家に聞きたいこと
1	久我山小	学校樹木の維持管理について
2	済美小	森を維持管理しているが、落ち葉や蚊の発生など、いわれのない苦情を受けて困っている。

(3) 想定するヒアリング事項

- ✓ 困りごとの詳細について
 - ・(久我山小) 樹木の維持管理でどのようなことに困っているのか。(剪定、落ち葉の処理等)
 - ・(済美小) 森を維持管理しているが、落ち葉や蚊の発生など、いわれのない苦情を受けて困っているのは、どこの場所についてのことなのか。
- ✓ 困りごとの内容に応じたヒアリング事項
 - ・対応策の提案
 - ・すぐに対応できない場合
 - 解決にあたり、専門家の派遣、アドバイスを受けることができるとしたら活用したいか。
 - 解決にあたり、生徒も参加したワークショップなどをご提案したら協力いただけるか。
- ✓ (久我山小) 雨庭を作りたくないという回答だが、理由に記載いただいた維持管理、人出が確保できれば検討してみたいと思うか。

- ✓ (済美小学校) 雨庭を知らないという回答であるが、すでに雨庭の機能をもつビオトープがあると伺っています。既存のビオトープについて、生徒や教職員の方には雨庭としては認識されていないのでしょうか。
- ✓ 学校での総合学習・環境学習では、どのようなことに取り組まれているのか。
- ✓ グリーンインフラの相談窓口を開設している。今回対面で伺ったことを WEB でも相談できる窓口になるが、使ってみたいと思うか。どのような機能を求めるか。

(4) 済美小学校のヒアリング結果

ヒアリング内容を座談会風にとりまとめた。

先生から事例の公開について了解が得られたため、すぎなみプラスの記事として公開を行った。また本ヒアリング内容を公開することで、維持管理体制のための地域のボランティアの発掘ができればとのご意見をいただいた。

【今後の取組】

①済美小学校の内容の公開

- ・整理した座談会風のとりまとめ内容を副校長先生に送付し、確認を得てから、事例の GIS マップからリンクで飛べるようにして、ビオトープの紹介とともに座談会の内容を公開する。

②他の小学校の成功・失敗事例の収集

- ・事例を積み上げることを目的として、済美小学校の座談会風のとりまとめ資料をもって類似小学校へのヒアリングを実施し、どのような情報が収集できるかを確認する。
- ・具体的には、以下を候補として実施し、結果を踏まえて今後の対応を再検討する。
 - ⇒永福小学校：体制がしっかりしていて困っていないと思われるが、なぜうまくいっているかという観点も含めてヒアリングする。
 - ⇒方南小学校：ホタルの飼育なども独自に実施している。体制メンバーに知り合いもいるため、そこを起点としてヒアリングする。

※結果として、令和6年度の小学校へのヒアリングは済美小1校となった。



【メンバー】

- 副校長先生（済美小学校）
- 杉並区担当者 2 名
- 一社 風致担当者（中間支援組織） 2 名
- 建設技術研究所 1 名

■ グリーンインフラやビオトープの維持管理の課題

建設技術研究所

「グリーンインフラを進める中で、区民や先生方からの疑問や課題にどう対応していくか、仕組みづくりを考えている。杉並区の『杉並プラス』でも相談窓口を設ける予定である。済美小学校からもご相談をいただいているので、今日は具体的な課題を教えてもらいたい。」

杉並区

「ビオトープの維持管理で、周辺住民からの苦情が多いと聞いている。どんな内容か？」

副校長

「この 1 年は何とか抑えているが、木の剪定や落葉の掃除も要求され、前任者の時は家まで入って掃除していたこともある。ビオトープを作る時も『カエルが増えたらどうする』と反対された。」

「東京都もカスタマーハラスメント対策のポスターを作ってくれたので掲示し、根拠のない苦情には対応しない方針に変えた。例えば『池ができると蚊が増える』と言われても、メダカを放しているし、蚊は水たまりから発生するので森が原因ではないと説明している。」

「屋上緑化でも『草が飛んでクリーニング代を払え』と言われ、シートを張るなど対策したが、今は業者に直接説明してもらっている。学校が標的にされている印象である。」

■ 苦情対応の工夫と地域との関係

副校長

「苦情には科学的根拠がある場合のみ対応し、そうでない場合ははっきりとお断りするようしたら、かなり減った。」

「ただ、雨どいに木の葉が詰まるなど、実際に迷惑をかけている部分は対応している。学校の都合だけで押し切るつもりはない。」

■ ビオトープや森の活動・子どもたちの反応

副校長

「済美小学校は緑が豊かで、子どもたちに自然体験をさせたいと考えている。ビオトープ作りも、子どもたちと一緒にスコップで掘り、地域や PTA、支援委員会の協力で資金も集まった。カブトムシの幼虫を育てたり、落ち葉を集めて腐葉土を作ったり、子どもたちが楽しんで参加している。」

「森や池は、私がいる間は休み時間に解放していたが、後任が同じようにできるかは分からない。地域のリタイアした方などがボランティアで見守る体制ができれば理想である。」

■ 維持管理の課題と今後の展望

一社 風致

「ビオトープは維持が大変で、どこの学校も苦労している。専門的なアドバイスや、地域の協力が不可欠である。」

副校長

「私が理科好きですが、後任が同じとは限らない。地域で自然が好きな方が関わってくれる仕組みができれば、持続可能になると思う。」

■ 情報発信とネットワークづくり

杉並区

「学校の取り組みを発信することも大事である。困りごとや成功事例を共有すれば、地域の理解や協力も得やすくなる。」

建設技術研究所

「優良事例の発信や、相談窓口の活用も進めていく。ビオトープの工夫や雨水利用のアイデアも

紹介したい。」

■ まとめ・今後の課題

副校長

「好きでやってきたことだが、持続可能なサポート体制が必要である。学校運営協議会や地域のネットワーク、卒業生や地域の方の協力があれば、今後も森やビオトープを守っていけると思う。」

建設技術研究所、一社風致、杉並区

「先生の経験やエピソードは他の先生方にも参考になるはず。今後はネットワークや情報発信を強化し、地域や他校との連携も進めていきたい。」

【参考：現地で確認した技術メモ】

1. ビオトープの植物や維持管理の現状

● 植物の入手方法

購入したものもあれば、他校で増えすぎたものを分けてもらったものもある。在来種はほとんど手に入らず、水系に近いものを選んでいく。

● 須田先生の植物について

須田先生の持っている植物は地域の固有種の観点から貴重すぎて、他の地域の種などと混ざると困るため、増えすぎて捨てるレベルになったものだけもらうことがある。

● 水生植物の管理

イトトンボが卵を産むためには水生植物が必要だが、今は多すぎるので水面の3分の2は開けた方がよい。

学校の養務員や先生は「取ったら無くなってしまわないのでは」と怖がって手入れできず、放置されてしまうことが多い。

実際は水生植物は回復力が強いので、思い切って取っても大丈夫。取ったものはバケツやタライに保管し、他校のビオトープに使うこともできる。

2. ビオトープの施工・維持管理の工夫とコスト

● 施工の工夫

済美小のビオトープは、破れないベントナイトシートを敷き、その上に玉石を全面に敷き、土をかぶせて転圧している。これにより人が中に入っても大丈夫な構造になっている。

ビニールシートだけだと劣化しやすく、踏み込むと穴が開いてしまうため、長期的な維持には向かない。

● コストと協力体制

材料費や運搬費は地域の石屋さんや関係者の協力で無料になった部分が多い。

実際には120万円では足りず、ボランティアや関係者の協力があってこそ実現できた。他校（井草のビオトープ）は350万円かかった例もあり、業者によって価格は大きく異なる。

3. ビオトープの本来の役割と今後の展望

● 子どもの居場所としてのビオトープ

もともとビオトープは、学校が荒れた時に子どもたちの逃げ場として地域の大人が作った場所。

「好きな子だけ来ればいい」「子どもの居場所を作る」という発想が大切。

4. 維持管理の人材・体制と課題

- **専門家・資格について**
ビオトープ管理士などの資格を持つ人もいるが、実際に現場経験が少ない人も多い。造園業者やガーデナーが施工することが多いが、現場のノウハウは資格だけでは補えない。
- **人材確保と報酬の課題**
杉並区のボランティア報酬は1日2200円と低く、これでは担い手が増えない。維持管理を仕事として回す体制や、複数の現場をまとめて委託する仕組みが必要ではないか。
- **維持管理の現実**
雨庭やビオトープが増えると、草刈りや管理の負担も増える。協力業者を増やし、元請けが下請けを指導する形も検討されている。

5. 維持管理と普及啓発・生物調査

- **普及啓発の重要性**
維持管理だけでなく、普及啓発や生物調査も同時に行うことで、OECM (Other Effective area-based Conservation Measures) への登録も進めたい。
- **調査費用や予算の壁**
学校ビオトープの調査費用を申請しても、現状ではなかなか通らない。現場の困りごとを可視化し、ボトムアップで声を上げていく必要がある。

6. ノウハウの共有と情報の見える化を含む今後の展開

- **ノウハウの記録**
現場でのやり方や維持管理の方法を、身近な人の話として記録・共有していくことが重要。
その場で聞いて納得しても、記録がなければ他の人に伝わらない。
- **情報プラットフォームの構想**
GISマップにストーリーやノウハウ、維持管理のコツ、動植物の情報などを落とし込むことで、誰でもアクセスできるプラットフォームとなるだろう。

7. 成功事例・失敗事例の収集とネットワークづくり

- **今後の展開**
今回のインタビュー記事を持って他校に話を聞きに行き事例を積み上げる。
- **他校の事例**
永福小学校は体制がしっかりしていて困っていない。なぜうまくいっているのかを聞きに行くのも有効。
方南小学校はホタルの飼育など独自の取り組みをしている。
- **ストーリーの蓄積**
各校の成功・失敗事例や、現場での苦労話をインタビューして記録し、プラットフォームに載せていくことで、課題やネットワークづくりのヒントになる。
- **地域密着の中間支援組織**
地域での人材発掘ができれば、外部から来るだけでなく、地域に根ざした人材やネットワークが中間支援組織には必要だという一つの方向性を示せる。

4-3.8 イベントでの対面相談窓口の試行

対面の相談窓口を、10月19日の「善福寺川発見！」のイベントと12月6日の体験の場の提供「あおぞらワークショップ」にて実施した。準備したヒアリング用紙を表4-7に示す。

善福寺川発見の日は雨天のため、相談窓口の利用者はいなかった。12月6日のあおぞらワークショップでは、テントブースにてグリーンインフラの1つである雨庭についてや、合流式下水道の課題などを伝える機会となった。

昨年度のグリーンインフラ杉並市民会議の参加者があおぞらワークショップにも参加し、運営側になりえる人を対象とした研修の要望、提案があった。この相談を受けて、「4-4.5 専門家派遣の試行企画」を検討した。

図 4-29 リアル相談窓口を開設したイベント

表 4-7 対面相談窓口のヒアリングシート

すぎなみグリーンインフラ相談ひろば

対面相談窓口ヒアリングシート

No.2025-

日にち	2025年10月19日(日)	ヒアリング場所	善福寺川発見!
お名前			
連絡先	メール： 電 話： 住 所： *個人情報は、相談窓口の対応のみに使用し適切に取り扱います。		
相談内容	<input type="checkbox"/> グリーンインフラについて知りたい		
	<input type="checkbox"/> 暮らしや生活にとりいれてみたい		
	<input type="checkbox"/> 事業や地域の活動で検討している		
	<input type="checkbox"/> すでに取り組んでいるが課題や相談がある		
	<input type="checkbox"/> 地域で協力・連携できることを探している		
詳細	<input type="checkbox"/> 個人宅の庭	<input type="checkbox"/> 集合住宅：	
	<input type="checkbox"/> 学校：	<input type="checkbox"/> 公園・公共施設：	
	<input type="checkbox"/> 道路：	<input type="checkbox"/> まち：	
	<input type="checkbox"/> その他：		
対応	窓口にて解決 / 現地確認 / 専門家派遣希望 / その他：		
担当者/ 専門家	必要な技術： _____ ⇒担当者 _____ _____ 専門家 _____		

4-4. 専門家派遣制度

雨庭の整備を行う場合には、土木や造園の知識のほか、生物の知識など様々な分野の知識が必要となる。このため、雨庭の整備経験や生物生息環境の創出方法などの知識がある専門家に相談しながら各家庭や企業の敷地にて雨庭の整備を展開できるように、専門家派遣の制度を検討した。また、検討項目を図 4-30 に示した。

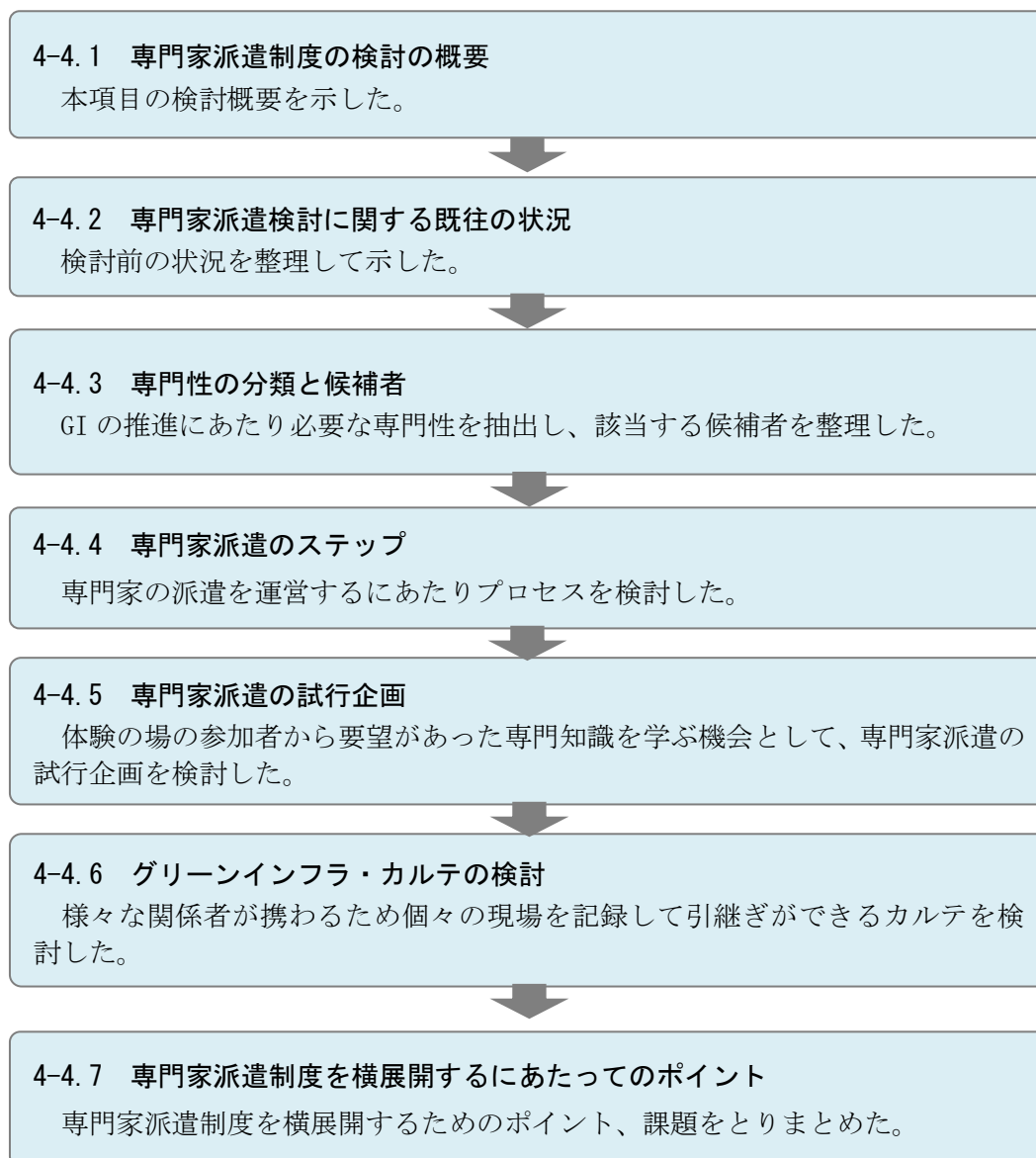


図 4-30 専門家派遣制度の検討

4-4.1 専門家派遣制度の検討の概要

杉並区においてグリーンインフラを推進するにあたり必要な専門家派遣制度を検討する手順として以下の流れで検討を行った。第一に区内のグリーンインフラ推進に必要な専門性を検討し、区担当者、中間支援組織候補団体である一般社団法人風致にヒアリングを行い、不足項目を補足したうえで、求められる専門性の分類、その条件、候補者について整理を行った。第二に専門家を派遣する上で必要となるプロセスについてステップの検討を行った。第三に、実際に専門家派遣の試行企画を検討した。第四に専門家が一般市民や行政と区内で推進するグリーンインフラについての情報や仕様を共有することが可能になるためのツールとしての「グリーンインフラ・カルテ」について検討し、整理を行った。

4-4.2 専門家派遣検討に関する既往の状況

区内でグリーンインフラを区民協働で普及・推進するための中間支援組織となる候補団体である一般社団法人風致の人材の専門性はおおよそ把握されていたが、その他の団体、個人でどのような専門性があるかは不明であった。また、グリーンインフラ推進に必要な専門性についての定義や整理は不明確な状態であった。

4-4.3 専門性の分類と候補者

区域でグリーンインフラを推進するにあたり必要と考えられる専門性に関して、グリーンインフラの計画・設計、施工、メンテナンス、事務手続き、地域の自然環境・生物多様性等に該当すると考えられる専門性を抽出、分類し表 4-8 に整理した。

表 4-8 専門性の分類と候補者 (1/2)

番号	専門性	内容	要件・資格等	候補者 (案)
1	雨庭の計画・デザイン	現地の表流水や植生、土壌等の状況を把握した上で、雨庭の設置位置、集水方法、構造、表面仕上、植栽等について、景観や人および生物の利用にも配慮しながら、適切な計画とデザインが実施できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・雨庭の計画・施工の実績が4件以上 ・参考資格：雨水デザイナー（特定非営利活動法人 雨水まちづくりサポート）、RLA（造園コンサルタント協会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・（風致） ・（ハビタ）
2	雨庭の施工	雨庭の計画案を踏まえて、道具類、材料を用意し（必要に応じて重機等手配も含む）、施工を実施することができる。また、市民との協働の施工を実施することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・雨庭の施工の実績が3件以上 ・参考資格：造園技能士、造園施工管理技士 ・講習会を受講 	<ul style="list-style-type: none"> ・（古山庭苑） ・箱根植木 ・大場造園
3	雨庭の施工の市民協働コーディネーター	雨庭を市民と協働で施工するための、プログラム企画・運営が実施できる。作業のガイダンスやサポート、告知等も含む。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然再生、環境教育、公園づくり等のコーディネート実績が5件以上 ・地域における市民組織での実績 	<ul style="list-style-type: none"> ・（風致） ・（善福寺川を里川にカエル会）
4	土中環境・生物生息環境づくりアドバイザー	土中環境や生物多様性のための環境づくりについてアドバイスができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・土中環境、生物生息環境づくりに関する実績5年以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・（生物多様性ローカルアソシエーション代表）
5	植栽管理	植物をセレクトして植え付け、メンテナンスができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーデナーとしての5年以上の活動実績 	
6	建築士	建築図面を読み取り、埋設物・配管等のアドバイスをを行う。施工図面を描く	<ul style="list-style-type: none"> ・1級建築士 	<ul style="list-style-type: none"> ・（1級建築士）
7	法律家	土地の権利関係、書類上の判断。訴訟対策	<ul style="list-style-type: none"> ・弁護士 ・行政書士 	
8	保険アドバイザー、資金アドバイザー	財産や怪我などの保険対応。雨庭保険（住宅の保険安くなる等の開発）。環境住宅認定、資金集め等	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイナンシャルプランナー ・保険資格 ・財源補助金申請得意な人 	
9	地域の歴史／景観／ランドスケープ	地域のランドスケープ・地形・景観・歴史の専門家。フィールドワーク実施	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土史の専門家 ・地域の地形、水系の専門家 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土史家 ・地形の専門家
10	広報アドバイザー	SNS発信、ターゲット選定、窓口業務	<ul style="list-style-type: none"> ・広報としての5年以上の実績 	

表 4-8 専門性の分類と候補者 (2/2)

番号	専門性	内容	要件・資格等	候補者 (案)
11	生物多様性アドバイザー (全体)	杉並区の自然資本の現状を踏まえて、生物多様性や生態系とのつながりの観点から、雨庭やグリーンインフラの整備に対してアドバイスすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 杉並区内での自然再生、環境教育、公園づくり等の中心的な役割を果たした実績が5件以上 参考資格：1級ビオトープ計画管理士、一級ビオトープ施工管理士 	<ul style="list-style-type: none"> (風致) (すぎなみ環境ネットワーク)
12	生物多様性スペシャリスト (植物)	杉並区の自然資本の中で特に植物に対して、深い知識を持ち、雨庭やグリーンインフラの整備に対してアドバイスすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 杉並区内での該当分野に関する認知度 中間支援組織事務局からの推薦 参考資格：樹木医、生物分類技能検定 	<ul style="list-style-type: none"> (箱根植木)
13	生物多様性スペシャリスト (昆虫)	杉並区の自然資本の中で特に昆虫に対して、深い知識を持ち、雨庭やグリーンインフラの整備に対してアドバイスすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 杉並区内での該当分野に関する認知度 中間支援組織事務局からの推薦 生物分類技能検定 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の専門家
14	生物多様性スペシャリスト (鳥類)	杉並区の自然資本の中で特に鳥類に対して、深い知識を持ち、雨庭やグリーンインフラの整備に対してアドバイスすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 杉並区内での該当分野に関する認知度 中間支援組織事務局からの推薦 生物分類技能検定 	<ul style="list-style-type: none"> (江戸川区、杉並生物多様性地域戦略メンバー)
15	生物多様性スペシャリスト (魚類)	杉並区の自然資本の中で特に魚類、水生生物に対して、深い知識を持ち、雨庭やグリーンインフラの整備に対してアドバイスすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 杉並区内での該当分野に関する認知度 中間支援組織事務局からの推薦 生物分類技能検定 	<ul style="list-style-type: none"> (風致) (すぎなみ環境ネットワーク)
16	多自然川づくりアドバイザー	河川空間や水辺空間において、自然の営為を踏まえた護岸、河床、植生、エコトーン等についてアドバイスすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 多自然川づくりの実績が4件以上 参考資格：技術士 (河川) 	<ul style="list-style-type: none"> (熊本県立大学) (大正大学)

4-4.4 専門家派遣のステップ

区内における専門家との協働・派遣の推進方法に関して、中間支援組織候補団体の一般社団法人風致の意見を踏まえた上で、事務局サイドからの視点で専門家と関わるプロセスを検討し、3つのステップと図 4-31 に整理した。

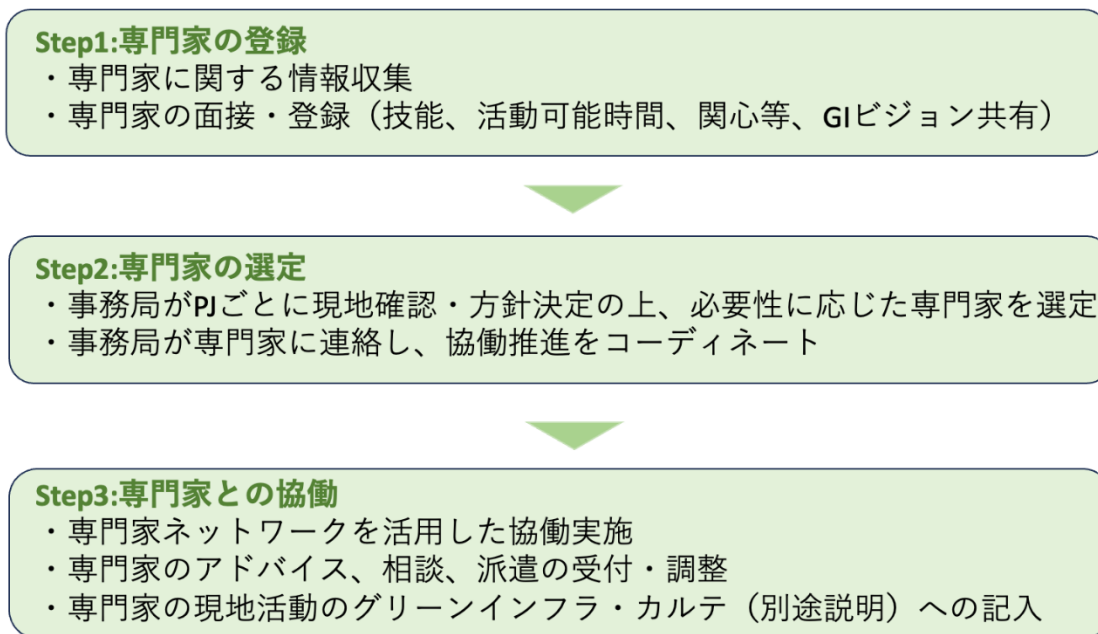


図 4-31 専門家協働・派遣のステップ

4-4.5 専門家派遣の試行企画

専門家の派遣について、2025年12月6日に実施した体験の場の創出としてのグリーンインフラ維持管理ワークショップ時に参加者から要望された専門性に基づき、試行企画を検討した。専門家として求められた専門性は、表4-8のカテゴリー4.「土中環境、生物生息環境アドバイザー」であり、その候補者である坂田昌子氏を派遣する企画内容とした。

本企画は契約終了後の日程で開催を予定している。

(1) 派遣する専門家の情報

坂田昌子氏プロフィール：

明治大学文学部史学科卒業。環境NGO 度十の会代表、一般社団法人コモンフォレスト・ジャパン理事、生物多様性ローカルアソシエーション代表、生物多様性ネイチャーガイド、古書げんせん館店主、八王子古本まつり実行委員長等々。

高尾山の自然環境保全を中心に、生物多様性を守り伝えるためネイチャーガイド、ツリーハウス作り、生物多様性をテーマにしたイベントやワークショップ、勉強会を多数主催。現在は東京都の高尾山にコミュニティスペースと生物多様性情報の発信基地を兼ね備えた高尾ツリーダムカフェをセルフビルドで建築中。また生態系を読み解きながら行う伝統的手法による環境改善ワークショップを全国各地で開催。生物多様性の保全に尽力し、日本各地を駆け回りつつ、生物多様性条約COPや地球サミットなど国際会議にも継続的に参加。ローカルにしっかり足を据えながらグローバルな視点で動く環境活動家。

公式ホームページ：<https://sakatamasako.com/>

(2) 専門家派遣の企画内容

表 4-9 専門家派遣の企画内容

日 程	2026年3月16日(月)
場 所	柏の宮公園
ターゲット	一般社団法人風致、GIAS 有志
目 的	区内における生物多様性に配慮したグリーンインフラ計画・施工の指導者を育成する。
概 要	柏の宮公園で施工、維持管理を行ったグリーンインフラについて現地を共に視察しながら、管理方法についてアドバイスをいただく。また、有志からのグリーンインフラに関する質問に対して質疑応答を行う。今後の専門家としての協働の可能性についても意見交換を行う。
企画・コーディネーター	GIAS 参加者、株式会社ハビタ
謝 金	有志によるカンパを行い、2万円程度を想定。

謝金に関する区の既存の制度として「杉並区職員研修講師謝礼支払い基準」が定められており、大学教員は1時間あたり15,300～20,400万円の謝金が出るが、市民だと4,100円である。小学校への市民派遣は2千円程度と、所属によりかなり開きがある。外部から専門家を招聘する際にどの程度の水準を用意するかは検討する必要がある。少なくとも通常の市民レベルより高い大学教員に近いレベルの謝金が必要になってくることも考えられる。

4-4.6 グリーンインフラ・カルテの検討

専門家が地域のグリーンインフラに関与する際に、中間支援組織としての事務局、多様な市民、他の専門家等のマルチステークホルダーでグリーンインフラの施工やメンテナンスを行うことが想定される。その際に、計画段階から統一した観点で一貫性を持ちグリーンインフラのモニタリング、維持管理が行われるための情報共有ツールとして「グリーンインフラ・カルテ」の作成が有効と考えられる。

「グリーンインフラ・カルテ」について、A.計画およびB.維持管理に必要な確認事項を検討・整理して示す。

A.グリーンインフラ・カルテ計画編

- ・ヒアリングシート（クライアントの要望等）
- ・場所の概要（位置、地形、雨水、建築・施設物、現地写真）
- ・現場測定データ（浸透能、土の硬さ、雨庭底面状況）
- ・計画の目的・目標、デザインの方向性
- ・専門家、協力者候補案

以下にグリーンインフラ・カルテ A.計画編のイメージを示す。

雨庭カルテ（計画編）

Record：一社 風致

依頼先：

担当者：

住 所：

ヒアリング日：

●ヒアリングシート（クライアントの要望等）

●現場測定データ（浸透能、土の硬さ、雨庭底面状況）

●場所の概要（位置、地形、雨水、施設、写真）

●計画の目的・目標、デザインの方向性→専門家、協力者選定

図 4-32 グリーン・インフラカルテ A. 計画編のイメージ

B.グリーンインフラ・カルテ維持管理編

グリーンインフラ・カルテ維持管理編について、必要と考えられる項目を整理し、以下の表 4-10 に、カルテのイメージを図 4-33 に示す。

表 4-10 グリーンインフラカルテ維持管理編の項目

番号	確認項目（大）	確認項目（中）	確認事項	実施メンテナンス
1	表面の状況	・水の流出痕跡	導水路、周辺に表流水が流れた痕跡、微地形の変化があるか	導水する微地形の形成
2		・堆積物	導水路、雨庭に堆積物があるかどうか	導水路や浸透部に堆積した土壌、落ち葉、ゴミなどの撤去
3		・表面の硬さ	踏圧等で表面が施工箇所以外と同等程度に固まっているかどうか	表面をほぐす、点穴の形成
4		・浸透部の状況	浸透部が泥や異物で目詰まりしているかどうか	浸透部の目詰まりを可能な範囲で撤去
5	植生の状況	・植生の維持	植え付けした植生が維持されているかどうか	新規植生の追加の検討
6		・植生の根の発達	植え付けした植生の根が発達しているかどうか	
7		・植物の侵入	植え付けした植生以外にどのような植物が侵入し、どれぐらい繁茂しているか。外来種等が含まれていないか	外来種や問題となる植物の撤去
8	利用生物の状況		昆虫、鳥類、水生生物等で雨庭を利用する出現種があるか	
9	浸透能の状況		簡易ダブルリング式等で表面の浸透能を測定する	
10	サイン等の状況		サイン等の付属施設が破損、劣化していないか	劣化したサインの交換、破損箇所の修繕

202X年X月X日（天候）確認地点／確認者名

現場写真

確認項目：
1.表面の状況

現場写真

現場写真

図 4-33 グリーンインフラカルテ維持管理編のイメージ

4-4.7 専門家派遣制度を横展開するにあたってのポイント

専門家派遣制度を横展開するためのポイントや課題としては、第一に、求められる専門性は概ね一般性があると考えられるもの、どの専門性がより必要とされるかは、地域、自治体の特徴によって違いがあると考えられるので、その地域で推進すべきグリーンインフラの方向性、ビジョンをしっかりと定義した上で、どのような専門性が必要かを検討する必要がある。

第二に、専門家を招聘、派遣するために必要な謝金やその財源については検討が不十分であることが課題である。専門家は非学術分野の市民であっても、専門性によっては、いわゆる大学教員クラスなみの有識者としての謝金や待遇が必要なこともあり、地域における専門性のニーズによって、謝金の段階を整理する必要がある。また、その財源をどのように確保するかも検討が必要である。

第三に、中間支援組織の持つ専門性と、実践者・プレイヤーとしての専門性を分ける必要がある。中間支援組織は行政では行いにくい、市民間のコーディネートや行政に関することやGIの専門的な情報の翻訳機能等の機能を持つ。この中間支援の専門性とグリーンインフラの各分野における計画や施工、生態系の知識などのいわば実践者・プレイヤーとしての専門性は区別する必要がある。グリーンインフラを推進するための要素技術としての実践プレイヤーの持つ専門性と、市民協働を推進する専門性を分けることで、行政から見て政策推進のどの段階で必要とされるサービスかが区分されるからであり、その区分によって委託や謝金などの経済的な裏付けも変化することが考えられるからである。

専門家派遣の効果としては、GIの実践現場ごとに多岐にわたる専門分野の知識や技術が必要となる場面に柔軟に対応していくことができることである。また、講習会の講師なども依頼をして、地域の人材育成を実施していく際にも有効である。

中間支援組織の既存のネットワーク、今後の人脈づくりにより円滑な技術的な支援を実現していく。

4-5. MAP 作成・公開

雨庭などの GI の事例をマップ上にプロットして情報提供を行うため、事例マップを作成した。また、地域の水の特徴を直感的に理解する手がかりを提供するため、地形や過去の浸水実績などの地図情報を合わせて表示することとした。この地図情報は、雨庭の整備箇所の選定の際の活用も意識して作成を行った。図 4-34 に事例 MAP の検討事項を示す。

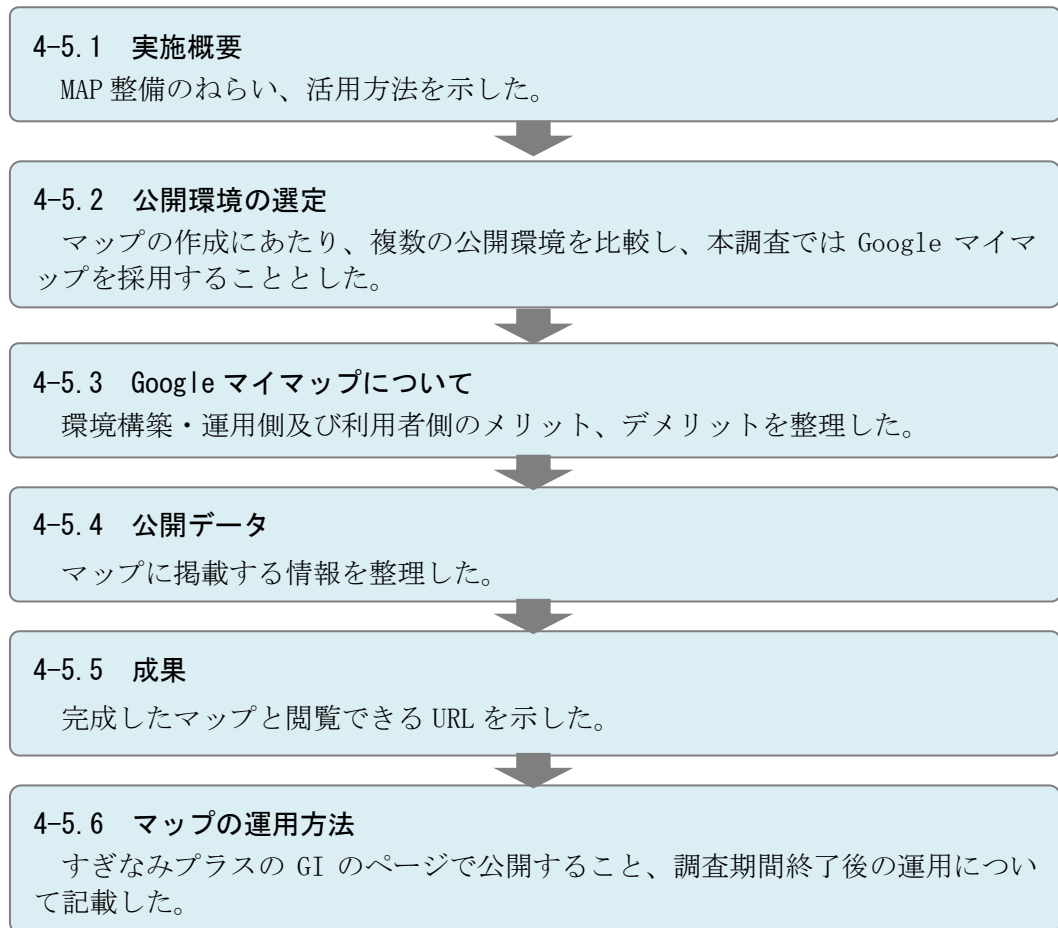


図 4-34 事例 MAP の検討

4-5.1 実施概要

Google マイマップを活用して杉並区の地形や河川、流域界等の背景情報の上に、浸水実績や浸水想定区域図を表示することで、その地域で水の集まりやすい場所や広がりやすい方向など、地域の水の特性を直感的に理解する手がかりを提供する。また、実際に設置されたグリーンインフラの事例を表現することで被害軽減につなげるための取り組みを区民に発信するとともに、設置を検討した際に参考に掲載されている事例を確認することができる。

MAP の活用方法

- ①GI の広がりを事例数で見える化する
- ②雨庭づくりを実施しようとしたときに参考になる事例を確認できる
- ③雨水の流れや地形から雨庭の適地を検討できる
自分の家がどのような場所にあるのかを確認できる

MAP 公開アドレス

<https://www.google.com/maps/d/edit?mid=15Htorx4Dy9QViTwt0eKo1Nth5PaLd3Q&usp=sharing>

4-5.2 公開環境の選定

公開環境の選定にあたっては、「ArcGIS Online」「Google マイマップ」「QGIS Cloud」「自社構築」を検討した。

選定については「初期構築の容易さ（サーバ等の準備有無、導入期間、構築に関する情報量の多寡）」「運用負荷の軽減（更新作業の難易度、管理者負担）」「閲覧の容易さ（利用者負担の軽減）」を重視した。

表 4-11 公開環境の比較

項目	Google マイマップ	ArcGIS Online	QGIS Cloud	自社構築
初期構築	○	△	△	×
運用負荷	○	△	△	×
閲覧	○	○	○	○
費用	○	△	○	×

選定の結果、「Google マイマップ」を使用することとした。

4-5.3 Google マイマップについて

Google マイマップを使用することによる「環境構築・運用側」及び「利用者側」それぞれにおけるメリットとデメリットは以下の通り。

【環境構築・運用側】

■メリット

- ・自前で地図サーバやタイル配信基盤を用意する必要が無く、Google 側の環境を利用することができる。
- ・アカウントとブラウザがあれば、即日運用を開始することができる。
- ・レイヤの色分け、アイコン、表示/非表示などのスタイル設定が GUI で容易にできる。
- ・GIS データを KML/KMZ 形式にすれば容易に取り込むことができる。
- ・運用負荷と障害対応不可などの可用性確保を自組織で抱えにくい。
- ・端末要件として Google マップが動くブラウザという前提に寄せられるため、構築時の負荷が大幅に軽減できる。
- ・機能が制限されている為、専門知識が少なくても構築が容易にできる。
- ・非公開/URL 共有（限定公開）/公開の設定ができるため、環境構築中の閲覧制限ができる。

■デメリット

- ・マイマップ上に格納できるレイヤ数や1レイヤ当たりの要素数に制限がある。
- ・マイマップにデータを取り込む際、5MB 以内にする必要がある（KML の場合）
- ・デザインの差別的な差別化をすることが難しい。
- ・Google 側のサービス仕様変更（UI/機能変更・提供方針等）の影響を受ける。
- ・高度な GIS 処理ができない。

【利用者側】

■メリット

- ・ブラウザで URL を開くだけで閲覧が可能（専用ソフトが不要）
- ・Google マップと同じ操作で閲覧が可能

■デメリット

- ・特になし

4-5.4 公開データ

(1) グリーンインフラ事例（公共施設）

杉並区の公共施設敷地内に設置されたグリーンインフラに関する情報を紹介したもの。参考情報として現地の写真等も見られるように添付した。



(2) グリーンインフラ事例（個人）

個人宅に設置されたグリーンインフラの紹介を検討した。

個人情報に配慮する必要があり、マップ上での公開は未実施とした。各丁目ごとの事例数を色分け表示することで、杉並区内での取り組み状況の見える化は可能である。

(3) 浸水想定区域図

杉並区で公開されている浸水想定区域図。想定される浸水深ごとに色分け表示したもの。

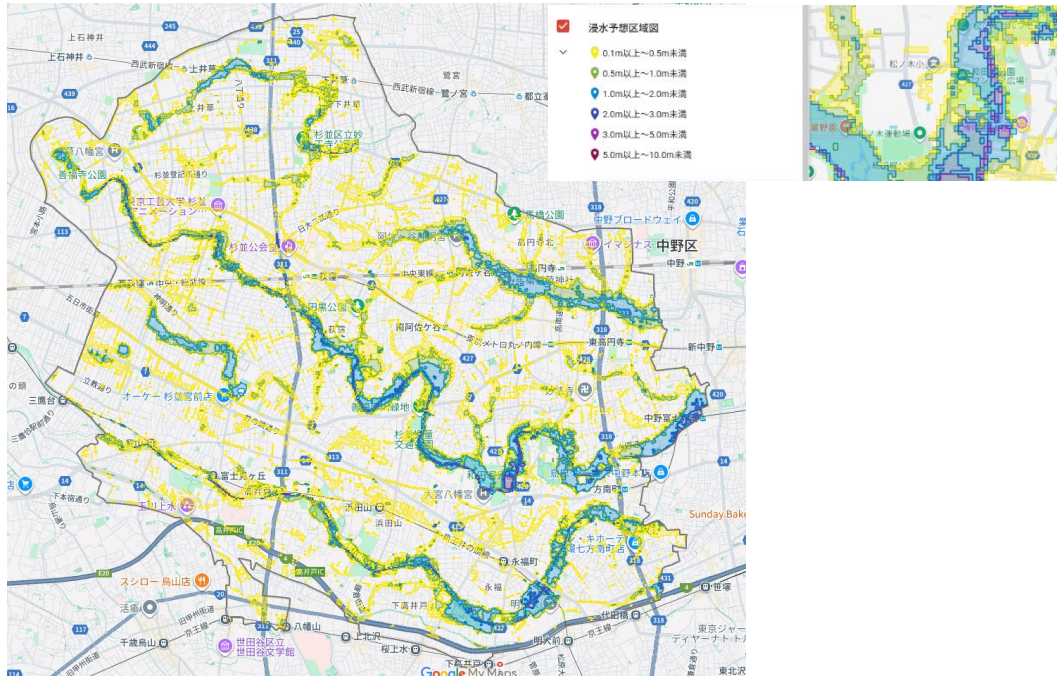


図 4-36 浸水想定区域図の掲載

(4) 浸水被害箇所

昭和 56 年以降に発生した大雨により浸水被害を実際に受けた場所を表示したもの。

被害実績の形状が複数重なっている箇所は頻繁に浸水被害を受けやすい地域であり、対策をする必要があると言える。

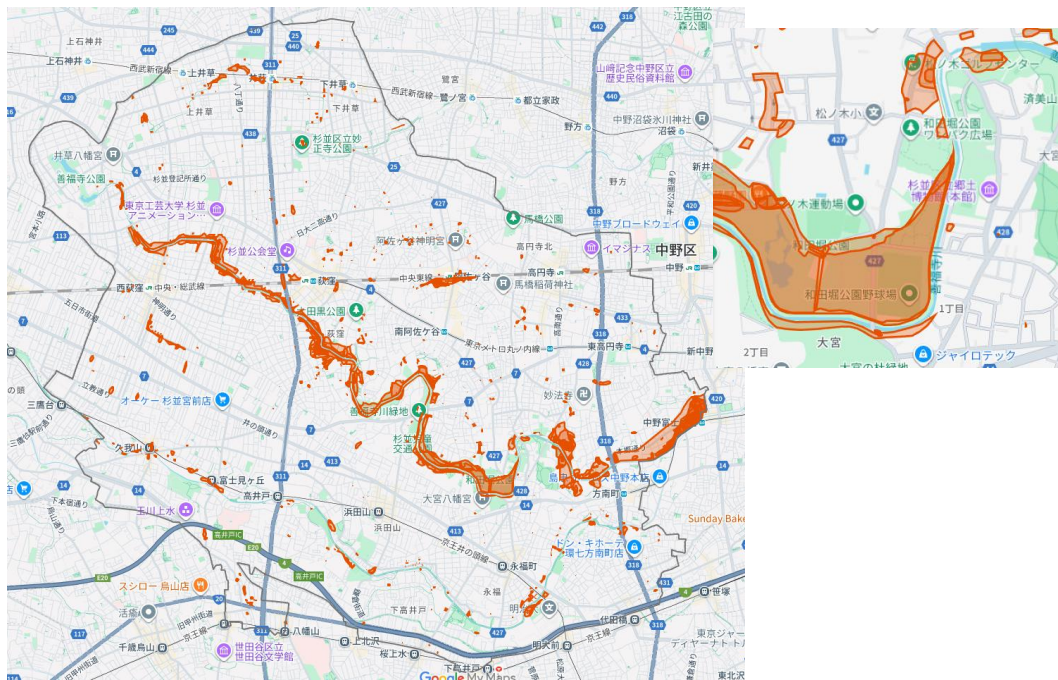


図 4-37 浸水被害箇所の掲載

(5) 流域界

雨が降った際に雨水が地形に沿って流れ、最終的に同じ流出点（同じ川や地点）へ集まる範囲を表現したもの。標高段彩と一緒に表現することで、より分かりやすくなる。

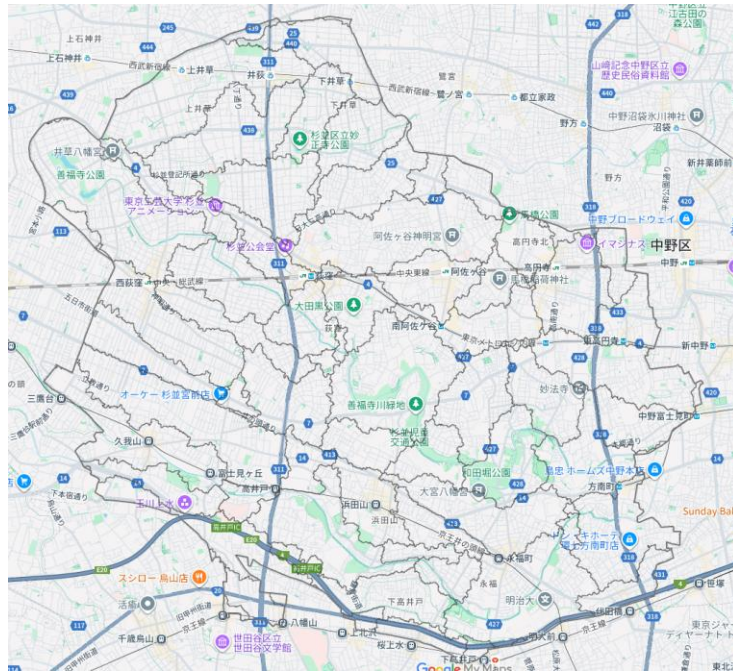


図 4-38 流域界の掲載

(6) 河川

杉並区及びその周辺の河川を表現したもの。

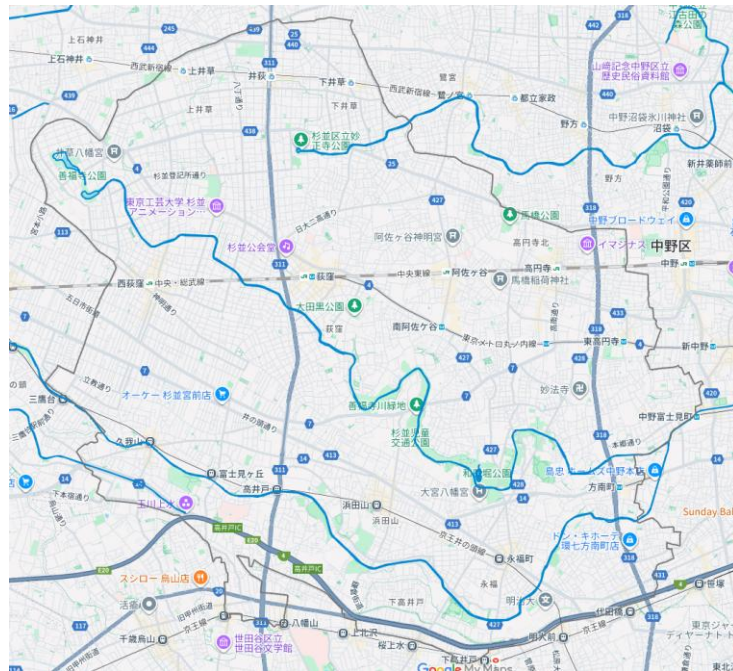


図 4-39 河川の流路のラインの掲載

(7) 標高段彩

標高データを基に、色分け表示して地形的特徴を表現したもの。「台地上の平坦部」、「河川周辺の低地」、「それらの間にある傾斜地」で構成されていることが見て取れる。

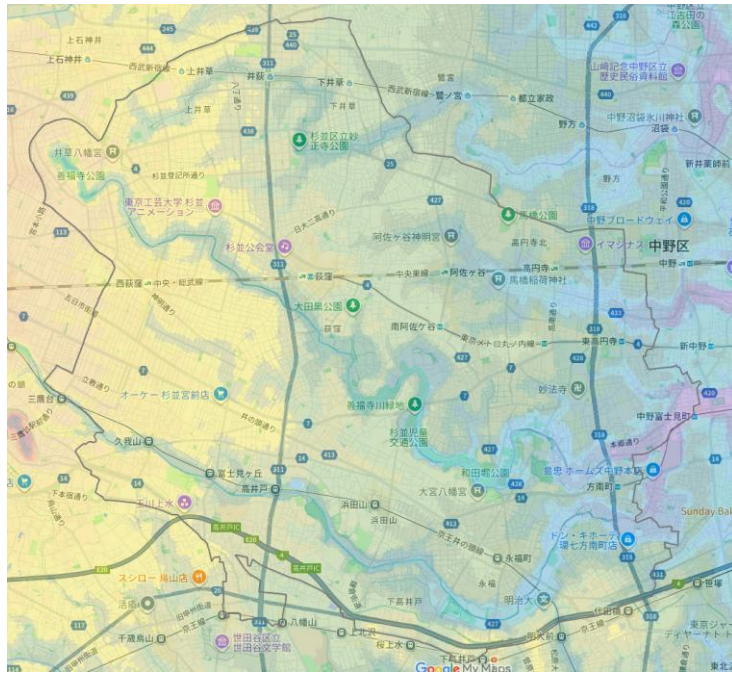


図 4-40 標高段彩の掲載

4-5.5 成果

標高段彩の上に、河川、流域界、浸水被害実績、グリーンインフラ事例を表現したもの。雨水の流れや地形から雨庭の適地を検討する際の資料として活用することができる。



公開アドレス <https://www.google.com/maps/d/edit?mid=15Htorx4Dy9QViTwt0eKo1Nth5PaLd3Q&usp=sharing>

図 4-41 完成したマップ

4-5.6 マップの運用方法

業務期間内は、すぎなみプラスにて公開する。その後は以下を予定。

- ①すぎなみプラスをそのまま残して公開をしていく。
- ②区役所の HP に MAP のリンクを掲載して公開する。
- ③中間支援組織が動き出したら、中間支援組織が管理する GI のサイトにも掲載する。

本調査期間終了後には、マップの所有者は杉並区となる。

なお、マップの活用は事例の追加更新をタイミングよく実施して活用していく必要がある。このため、中間支援組織にてマップの運用を行い更新頻度を上げる。後述する登録制度と連動させ、登録の都度 1 週間に 1 回は更新するように運用していく。

4-6. 認証制度の作成

当初、雨庭の普及などを目的とし整備された雨庭に対して認証を行う制度の作成を想定していたが、現時点の GI や雨庭の認知度を踏まえ、認証制度が現時点で必要であるかを議論し、登録制度として運用を開始することとした。検討項目を図 4-42 示す。

4-6.1 認証制度について

現状を踏まえ、認証制度ではなく登録制度として開始する方針を示した。

4-6.2 登録制度『あめにわのわ』（仮）の検討

登録制度の概要、登録方法を検討し、運用にあたっての課題を整理した。

図 4-42 認証制度の検討

4-6.1 認証制度について

現時点では、事例も少なく認証の基準を作りにくいため、登録制度とする。

グリーンインフラを普及するために雨庭などを整備している人に「GI(グリーンインフラ)ステッカー」を配布し、地域へ貢献していると実感できる仕組みとする。

4-6.2 登録制度『あめにわのわ』（仮）の検討

グリーンインフラの整備箇所（雨庭）の登録と、人材の登録の 2 種類で構成する登録制度とする。名称は、雨庭が広がっていくこと、人の繋がりも輪になって広がっていくことを願い仮称であるが『あめにわのわ』と設定した。

(1) 登録制度の概要

雨庭によるエコロジカルネットワークの形成と同時に、登録者どうしの繋がり「人のネットワーク」を形成する。登録制度の仕組みは、制度の運用、信頼性確保の観点から杉並区とともに体制をつくれることを目指す。

「雨庭」の登録

- ・整備した雨庭を登録できる制度
- ・事例マップとして 4-5 で整備したマップに追加して示したいが、個人宅の庭をプロットすると個人情報公開することになるため、個人の雨庭は地区ごとに雨庭の数が示されることを基本とする。
- ・公共の場に整備された雨庭は、MAP に位置情報や整備内容の詳細を合わせて事例情報として掲載する。
- ・登録の更新確認を行う。2 年に 1 回（仮）頻度は未定。
引っ越し、家の売却などで消失するケースを想定して更新制とする。

「ひと」の登録

- ・登録者間での情報交換、勉強会の参加などができるようにする。
- ・庭がないがやる気がある人を対象とした、「ひと」の部門を設ける。

(2) GI ステッカー

登録者には GI ステッカーを配布する仕組みとする。

ステッカーには「なみすけ」を用いて雨庭のランクに応じてステッカーが変わるようにする。最高ランクはプレミアム感を持たせることとする。

- ・ SNS でもアピールできるマークを用意する。
- ・ 事例マップにも、ステッカー（なみすけ）を示す。

事例マップに掲載することで、エコロジカルネットワークの形成を可視化する。

※事例掲載の可否は、個々に確認をする。



出典：杉並区ホームページ <https://www.city.suginami.tokyo.jp/s033/10619.html>

図 4-43 杉並区のキャラクター

(3) 登録方法

登録方法、手順を図 4-44 に示すように検討した。

申請時にチェックリスト（表 4-12）を用いて雨庭を自己チェックして該当数に応じてランクをつけて、ランクに応じた GI ステッカーを配布する。ランクは、3 段階として、レベル 1 はチェックリストの該当数が 1～3 個、レベル 2 は 4～7 個、レベル 3 は 7 個以上として仮に設定する。

ひとの登録は、活動をしている人に対してステッカーを配布する。グリーンインフラの勉強会や講習を受講して意欲のある人を対象とする。

申請は WEB 上にフォームを用意して、そこから入力することで登録できるようにする。調査機関内であればすぎなみプラスの今回立ち上げたページに掲載することになるが、今後は未定である。中間支援組織の HP など登録受付を行うなどを、信頼性の確保などを考慮しながら決定する必要がある。

◆登録方法

①【申請者】登録申請フォームから申し込み

- ・申請者情報 氏名、連絡先
- ・申請内容 事例マップの掲載に必要な情報を網羅する
 名称、分類（雨庭、ビオトープ、そのほか）、所在地、写真、
 何を実施しているのかを説明するコメント、チェックリスト（申請者がチェックする）

中間支援組織のHPなどに登録フォームを設ける

②【風致】チェックリストの確認

⇒現地確認の必要性を判断 ⇒必要なければ④登録へ

丁寧に対応して実績をつくり信頼を得る

③【風致】現地確認

⇒実施内容を確認 ⇒技術的な指導などが必要 ⇒アドバイス、専門家派遣などを実施し、再確認する。
 ⇒ // 必要なし ⇒④登録へ

④【風致】登録

⇒登録リストへ追加
 ネットワーク：メーリングリスト、会員のみ入れるLINEグループのようなものをつくる？

⑤事例マップへ掲載の可否を確認

⇒掲載する場合は事例マップへ追加

図 4-44 登録方法・手順

表 4-12 雨庭版：申請時のチェック項目案

1	雨水タンクを設置している
2	雨水を植物・生物の生育に活用している（プランターでも OK）
3	雨水を浸透させている（プランターでも OK）
4	生き物の棲みをつくっている（プランターでも OK）
5	実際に生き物が生息している（プランターでも OK）
6	水質浄化の機能がある
7	人々の憩いの場となっている
8	樹木などがあり夏場涼しく感じる
9	自然な景観を形成している
10	管理をする人、または活動をしている人がいる
11	地域活性に活用できている
12	エコロジカルネットワークを意識してつくっている
13	ある程度の規模を持って水辺の環境を創出、再生している
14	屋敷林や畑など、広い面積の雨水浸透エリアを維持管理している
15	〔更新時のみ〕メンテナンスをして上記の申請時の機能が維持されている

(4) 課題

登録方法・手順までは検討しているが、主体となる運営組織は未決定である。登録制度の意図を踏まえると、中間支援組織が運営し、GIに関係する地域のネットワークを構築していくことが望ましい。

登録制度の存在を情報発信することで、雨庭の存在や GI の考えを区民に周知していく役割を果たす。また、雨庭にランクを設けて、ランクに応じてプレミアム感のある GI ステッカーを配布する仕組みとすることで、ステッカーが欲しいという動機からも GI に興味を持ってもらえるようにするほか、配布する GI ステッカーを玄関などに貼ることで、地域の人の目に止まりやすいものとする。これらにより、雨庭を広く伝えることに寄与する仕組みとする。

さらには、登録者へ維持管理を行うことの重要性や、雨庭の手入れ方法の情報発信、交流を図る場をつくることで、一度作って終わりではなく、雨庭を愉しみながら機能を維持していくことを可能とする。

なお、将来的には認証制度を目指して技術面などの情報を収集しながら、杉並区での雨庭の整備実績を増やしていく必要がある。

4-7. 体験の場の提供

グリーンインフラを体験して理解をしてもらえる場として、善福寺川発見（10/19）と柏の宮公園で開催したあおぞらワークショップ（12/6）を企画、開催した。

体験の場に関する検討項目を図 4-45 に示した。

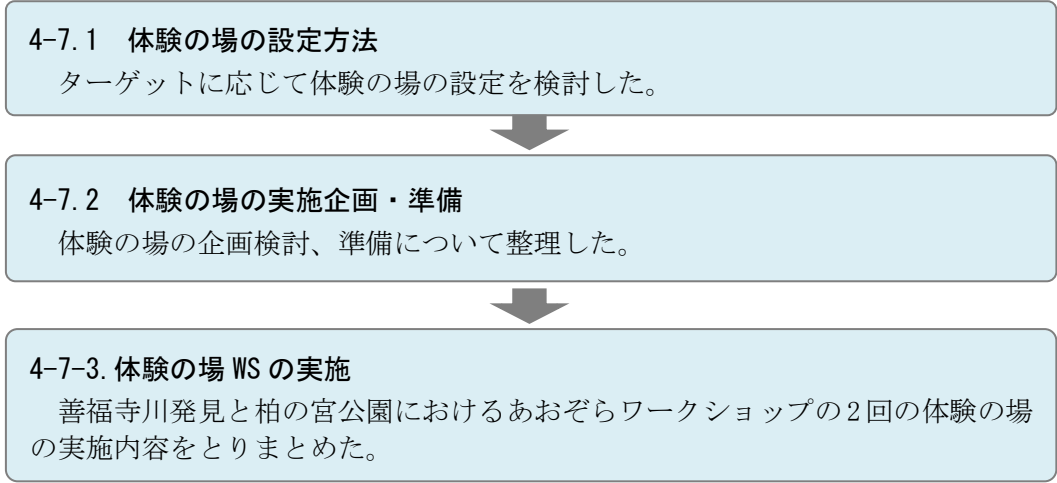


図 4-45 体験の場の提供の検討



図 4-46 リアル相談窓口を開設したイベント

4-7.1 体験の場の設定方法

多くの区民にグリーンインフラを知ってもらう機会を設けることを前提に、体験の場の設定方法を検討した。

体験の場の設定方法

- ・誰でも参加できる公共空間である公園にて開催する。
 - ・学校や相談窓口をとおして雨庭整備の現場ができた場合には、適宜体験の場として企画が可能かを相談しながら進める。
- <開催箇所とターゲットの関係>
- ・公園：
公園利用者（日頃の利用者層による 柏の宮公園の場合は小学校低学年ぐらいまでの親子づれ、散歩利用者）
 - ・保育園等・学校：
保育園生・小・中・高校生と学校の先生
保護者や地域の方の参加も可能であれば公開開催も検討
年齢に合わせた学習と体験を企画検討して、運営する
 - ・民間施設：
企業の社員向け、誰もが利用できる施設であれば公開の体験の場の企画を検討
 - ・公園以外の公共空間：
道路わきの空き地など 開催箇所周辺の区民を対象とする。
地元のキーマンや団体を探し、地元主催の企画としていく

4-7.2 体験の場の実施企画・準備

(1) 善福寺川発見

善福寺川公園にて、浸透実験、パネル展示、リアル相談窓口を行う善福寺川発見のイベントを企画した。

浸透実験は、初めに豪雨の危険性が高まっていることや地面に雨水が浸透することで流出量が低減できることを解説し、その後に公園内の特徴が異なる3か所において浸透実験を行うものとした。事前申し込みと当日受付にて参加できるものとした。

(2) グリーンインフラあおぞらワークショップ

体験の場として「グリーンインフラあおぞらワークショップ」を企画した。実施内容は雨庭のメンテナンスと浸透実験、パネル展示とした。チラシを図4-7.1、用意した備品を表4-13に示す。



図 4-47 あおぞらワークショップ・フライヤー

表 4-13 必要備品・材料

＜雨庭メンテナンス体験＞	＜浸透実験＞ 4セット
1.カケヤ 2本	1.リング
2.テミ 10個	2.ゴムハンマー
3.ケンスコ 10丁	3.板
4.ダブスコ 2つ (柏の宮公園で借りる)	5.ものさし (アルミ)
5.平ぐわ 6本	6.ダブルクリップ
6.軍手	7.ペットボトル・水
7.バーク堆肥 3体	8.クリップボード
8.落ち葉・伐採した枝など (柏の宮公園)	9.調査票 (10枚+予備)
	10.筆記具

4-7.3 体験の場 WS の実施

(1) 善福寺川発見

表 4-14 開催概要

日時	令和 7 年（2025 年）10 月 19 日（日）10:30～15:00
場所	善福寺公園
主催	善福寺川を里川にカエル会
共催	杉並区都市整備部管理課
協力	「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点、 一般社団法人風致、株式会社建設技術研究所
内容	①浸透実験 ②川しらべ体験（雨天等の理由で中止） ③パネル展示 ④クイズ



あまみずの浸透実験：実験前に少しお勉強



みんなで水の浸み込みを観察中



杉並区役所のグリーンインフラのパネル展



生き物のクイズ

図 4-48 開催状況

令和 7 年 10 月 19 日に『善福寺川発見 with みんなで「知ろう」グリーンインフラ』を善福寺川公園にて開催した。

雨だったが、あまみずの浸透実験ツアーには 5 組の親子が参加した。また、公園の利用者の方が足を止めて展示を見て行かれる方がいた。



図 4-49 テントでの受付・クイズコーナー

グリーンインフラを知っていますか？Yes/NOのアンケートでは知っているYES:7名、知らないNO:2名という結果だった。このイベントに興味を持って、訪れていただいた方が多かったと考えられる。

浸透実験は、A:人が歩いている場所、B:大きな木の下、C:草などの植物が生えている場所の3か所で水の浸み込みやすさの違いを観察した。この実験では少しの地面の違いで浸透の速さが違うことを目でみて体感してもらうことができた。

なお、対面での相談窓口を設置したが、雨天のため公園利用者やイベントテントへ立ち寄る人が少なく、残念ながら相談窓口の利用者はいなかった。

相談はなかったが、パネル展示に足をとめた公園利用者からの質問を表 4-15 に示した。

表 4-15 参加者からの質問 (Q・A)

Q 質問	A 回答
合流式下水道とはなにか？	雨水が下水道に流れ込むもの。下水道管を流れる水の量が多くなった際に、下水道管から河川に雨水と下水が排水される仕組み。
雨庭とはなにか？	雨庭とは、雨水を地面に浸透させる機能を高く整備した場所、庭。また、生き物の生息場となり、生物の多様性、エコロジカルネットワークの形成にも寄与する。

(2) グリーンインフラあおぞらワークショップ

体験の場として「グリーンインフラあおぞらワークショップ」を開催した。開催概要を表 4-16 に、開催状況を図 4-50 に示す。

また、パネル展示へ立ち寄った方からの質問を表 4-17 に整理した。

表 4-16 開催概要

日時	令和 7 年 (2025 年) 12 月 6 日 (土) 11:00~16:00
場所	柏の宮公園
主催	一般社団法人風致
協力	杉並区都市整備部管理課、株式会社建設技術研究所、株式会社ハビタ
内容	①雨庭メンテナンス体験 (芝生広場脇、遊具広場入口) ②浸透実験 ③パネル展示



受付・説明



浸透実験 (R6 年 12 月整備箇所 5 箇所)



雨庭メンテナンス体験 (芝生広場脇)



雨庭メンテナンス体験 (遊具広場入口)

図 4-50 開催状況

2025年12月6日(土) 11:00~16:00

地域のグリーンインフラの輪を広げよう「体験の場」シリーズ グリーンインフラあおぞらワークショップ

【場所】 杉並区立柏の宮公園

【主催】 一般社団法人 風致

【協力】 杉並区都市整備部管理課・株式会社 建設技術研究所・株式会社 ハビタ

タイムスケジュール

- 10:00 スタッフ集合 設営開始
- 10:50 打ち合わせ
- 11:00 雨庭メンテナンス作業開始
打ち合わせ時に参加希望者が来たためメンテ体験開始
随時タイミングをみて前回設置した雨庭の浸透実験
雨庭メンテ・2箇所(草地広場内通路・遊具の近くの植栽側)
テントにて掲示物を挿しながらの普及活動
- 15:30 撤収開始
- 16:00 反省会・終了

雨庭メンテナンス参加者

GIAS: 2名
来園者
大人: 19名
子ども: 10名
合計 31名

浸透実験参加者

一般参加者: 0名

備考

イベントに訪れた方を交えながら、メンテ後の浸透実験は数回行う事ができた。

テント&展示に立ち寄った来園者

大人: 12名
近隣の住民の人が多く通りかかり、話を聞いてくれることが多かった。
区の取り組みに関心が高い人が多く、説明を真剣に聞いていく人がほとんどであった。
「川しらべ」にも興味のある方が複数名いて、善福力エルの情報を共有した。

来園者の感想とコメント抜粋

- ・グリーンインフラを導入する場合、補助金はあるの？
- ・合流式下水道ということを知った。
- ・善福寺川でむかし遊んでいた。生き物をとっていた(86歳)
- ・地形に興味がある。
- ・区の取り組み(区民の声を聞く活動が増えていますよね)
- ・雨水を浸透させることの取り組みを知らなかった。

【実施状況】

晴れのち曇りの天気であり、気温があがらず、公園への来場者が少なかったが、予想より多くの来園者に参加していただいた。中でも、展示に興味を示す方や遠くから来ている方々に声掛けを行なったところ、関心高く説明を聞いてくれる方も多く色々な質問が出た。小さいお子さん連れの親子組が土遊びをしたい！スコップで土を掘りたい！というところから、雨庭作りに興味を持ってくれるケースが見られた(特にお父さんとお子さんのコンビが多かった)。子どもも最後までちゃんと完成させることができていた。地面に雨水を浸透させるという概念がない人が多い中、川への負担が減らせること、ひいては水害を抑えられること、川の環境保全に役立つことなどの説明を聞きながら興味を示している保護者の様子が印象深かったです。特に大人の方は区の取り組みに関心が高い人が多かった。

【今後の活動として】

官民連携事業として行なったため、都市整備管理課の協力のもと GIAS(昨年メンバー)に呼びかけながらメンテナンス作業を実施することができた。1年前に設置した雨庭は浸透量が少なくなっている箇所もあった為、メンテナンス時期、作業方法には再考が必要。今回の雨庭(通路部分)は、掘削40cmに変更してみたが、その効力を検証しながら今後の活動実施について検討していきたい。



図 4-51 中間支援組織・風致による実施報告

表 4-17 参加者からの質問 (Q・A)

Q 質問	A 回答
グリーンインフラを導入する場合の補助金はありますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杉並区には雨水タンクの設置の補助金がある。 ・ 東京都では、雨庭と整備する事業者に対する補助金もある。
合流式下水道とはなにか？	雨水が下水道に流れ込むもの。下水道管を流れる水の量が多くなった際に、下水道管から河川に雨水と下水が排水される仕組み。
雨庭とはなにか？	雨庭とは、雨水を地面に浸透させる機能を高く整備した場所、庭。また、生き物の生息場となり、生物の多様性、エコロジカルネットワークの形成にも寄与する。
生き物に触れあう体験がしたいが、できる場所はあるか。	月に1回善福寺川にて、生き物をしらべる「川しらべ」実施している。

4-8. 資金確保の仕組みづくり

中間支援の取組を継続的に実施するため、運営の資金確保の仕組みづくりを検討した。資金確保の仕組みについての検討事項を図 4-52 に示した。

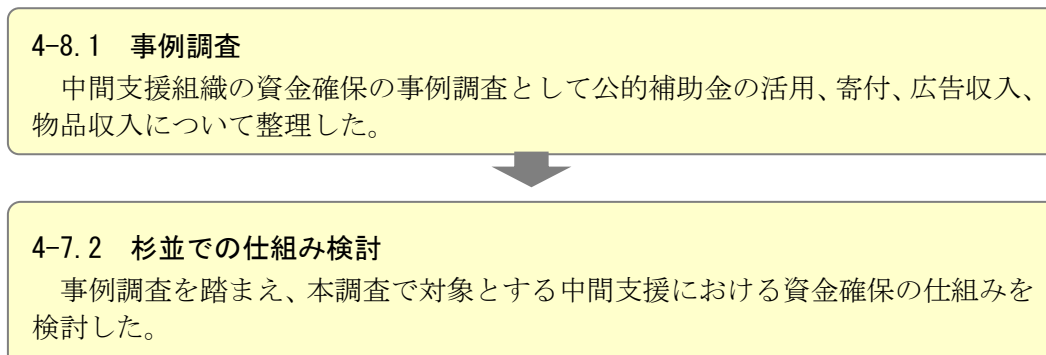


図 4-52 資金確保の仕組みづくりの検討

4-8.1 事例調査

中間支援組織の資金確保の事例調査として公的補助金の活用、寄付、広告収入、物品収入について整理した。

(1) 公的補助金の活用

国や自治体からの公的補助金制度を利用することで、グリーンインフラ整備のための資金を確保する事例を整理した（表 4-18）。

表 4-18 支援制度の例

支援制度名	概要
生態系ネットワークの形成支援制度	生態系ネットワークの形成に寄与する取組に対して支援を行う。
社会資本整備総合交付金事業 防災・安全交付金事業 流域貯留浸透事業	地方公共団体又は地方公共団体の助成を受けて民間企業等が行う貯留浸透施設の設置を推進する
特定都市河川浸水被害対策推進事業	雨水貯留浸透施設の整備等を計画的・集中的に実施することで、早期に治水安全度を向上させ浸水被害を軽減させることを目的とする。
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業	自立・分散型の持続可能な社会の実現を目指す“地域循環共生圏”づくりを行う「活動団体」と、その団体を支援できる「中間支援主体」を支援・創出する。

(2) 多様な収入源

寄付、広報活動による収入、物品販売、体験イベントの開催など、多様な方法で安定した資金調達を行う事例を整理した（表 4-19）。

表 4-19 多様な収入源

支援制度名	概要
活動収入	中間支援を行うことによる支援対象者（又は関係者）からの対価
寄付	活動支援をテーマにしたクラウドファンディング等による収入
広告収入	中間支援組織ホームページや整備箇所への広告掲載等による収入
物品販売	中間支援組織デザインのノベルティなどの頒布による収入

1) 寄付

雨庭の整備のクラウドファンディングの成功事例がある。個々の家における雨庭や中間支援組織が行うイベントや体験の場での雨庭の整備などに活用の可能性がある。

雨庭造成のクラウドファンディングの成功事例あり

○ 雨庭機能を有するテラスの造成にクラウドファンディングを活用して、**55.3万円（達成率111%）**を資金調達。

○ 他の実装と合わせた対象敷地内における流出抑制は、整備前に比べ約50%まで減少する試算。

橘井川テラス（九州大学工学研究院）

目的

雨庭の雨水貯留浸透機能を活かした分散型の水管理による「あまみず社会」の実現を企図して整備。

- 雨水流出による都市型水害の防止、軽減
- 都市景観の向上
- 生物多様性保持
- 河川水質改善
- 「あまみず」を起点としたコミュニティ形成

寄付金の用途

- ・ 駐車場スペース改良工事：228,744円
- ・ テラス材料費：98,496円
- ・ 作業物品費：7,668円
- ・ 残額100,856円を植栽整備に活用

あまみず社会 雨水は利用や浸透まで、一歩も地下へ下り込まない分散型の水管理。季節による有難い社会。





雨水を楽しくためて洪水を防ぐ！あまみず社会プロジェクト

553,000

2018/10/31





出典：Recyclefor ホームページ

図 4-53 寄付の例

2) 広告収入

雨庭に看板をつけて、そこに企業などの広告を掲示することで広告収入を得られる可能性がある。また、公共施設の人の目に付く場所の雨庭を対象にネーミングライツを活用することで定期的な収入の可能性もある。



図 4-54 広告収入の例

3) 物品収入

生物多様性をテーマにしたカードゲームや物品等の頒布の事例がある。同様にグリーンインフラをテーマとしたゲームを開発し、次世代にグリーンインフラの重要性を認知してもらいつつ、収入を得る案の1つになると考える。

また、グリーンインフラの中間支援の活動の認知度が向上した段階で、物品等の頒布による収入の可能性も考えられる。



図 4-55 物品収入の例

4-8.2 杉並での仕組み検討

(1) 方針

中間支援組織の運営資金確保の方針を以下に示す。

- ・スモールスタートで実施。
- ・資金の確保は多様なルートを持つ。
- ・多様なルートの1つとして協働の責任を明確にして、区との連携事業を実施する。

(2) 活動による収入

中間支援の取組みを通じた収入としては、専門家派遣、相談窓口の対応で対価を得るほか、研修会、スタディツアーの企画運営にて参加費を得ることが考えられる。

その他、中間支援組織の初期段階では、杉並区との連携事業による委託費による運営も運営を行うための一つの方法となる。

その他は事例で整理した補助金・助成金の活用、クラウドファンディング、寄付、企業等と連携して製品開発を行い物品販売をすることが考えられる。

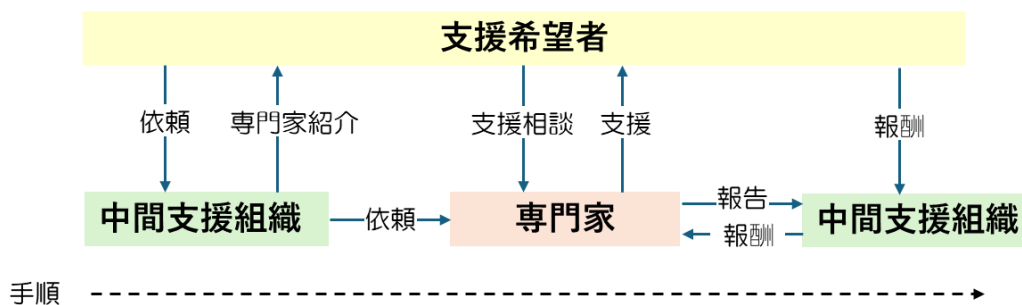


図 4-56 相談窓口の対応・専門家派遣による収入

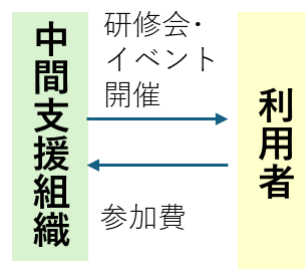


図 4-57 研修会・イベント・スタディツアーの開催による収入

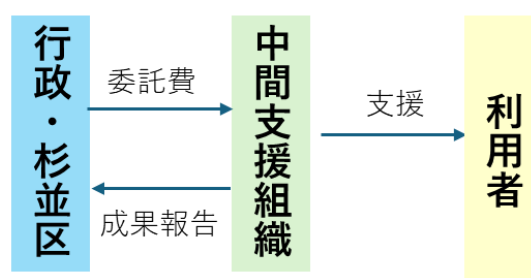


図 4-58 区との連携事業化案

4-9. 中間支援組織による運営の試行

4-9.1 運営の試行

(1) 試行における実施事項

運営の試行として以下を実施した。

- ・すぎなみプラスへの掲載情報のとりまとめ、記事の作成を実施。
- ・相談窓口の対応を杉並区と連携して実施。
- ・体験の場の企画運営を杉並区と連携して実施。

試行による運営を経て、区と民間で連携したほうがよい事項を把握することができた。

①区が入ることで相談窓口の信頼度を確保できた。

②風致が行政と区民の間に入ることで窓口対応では、区民へかみ砕いて GI を説明でき、専門性を持った雨庭のメンテナンスの体験を実施することができた。

(2) 中間支援組織としての役割と成果

今回の活動を通じ、一般社団法人風致は以下の3つの機能を果たしたと考える。

「公・民・学」を繋ぐワンストップ対応：

道路用地（西荻）、小学校、保育園、個人宅、公園と、多岐にわたるフィールドの相談を網羅的に受け止め、適切な行政窓口（土木・教育・公園・都市整備）とのハブ機能を果たしている。

実務的な突破力と翻訳機能：

西荻窪の事例に見られるように、行政側の懸念（安全面や将来の道路整備）に対し、専門用語を翻訳しながら具体的な施工方法や役割分担を提案することで、合意形成を推進した。

「点」から「面」への展開：

雨庭の新規設置（点）に留まらず、和田小での次世代教育や、託児所での樹木管理受託など、地域のみどりの質を維持する「面」のネットワークを構築した。

(3) 課題と提言

今後に向けた課題と提言は以下の3点である。

個人・民間への伴走支援の強化：

個人の熱意を停滞させないよう、初期相談後のフォローアップ体制や、小規模施工に対する具体的なパッケージ（補助金情報やモデルケースの提示）の充実が必要である。

維持管理支援のインセンティブ化：

GI 設置と「みどりの管理」をセットで支援することは、民間施設が GI を導入・継続する際の大きな動機付けとなる。整備から維持管理までをパッケージ化することが有効である。

学校モデルの横展開：

和田小での「座学+製作」の取り組みは、他校でも応用可能な「GI 教育の標準モデル」となり得る。教育委員会等とも連携し、継続的な支援体制の構築を目指す。

4-9.2 試行結果を踏まえた中間支援組織の運営体制の検討

試行結果を踏まえ、中間支援組織の運営体制とビジョン達成に向けたプロセスを検討した。

なお、12月2日にWEB会議にてNPO法人 birth 代表に中間支援組織の立ち上げ等に関するヒアリングを実施し、このヒアリングの結果も参考に検討を行った。

(1) NPO 法人 birth へのヒアリング

1) 目的

NPO 法人 birth は、自然と人、人と人をつなぐことで、人々のライフスタイルに変革を促し、自然と共生できる社会に導くことを理念に、公園の指定管理、エリアマネジメント、地域連携によるイベント、生物多様性に関する調査や緑のコンサルティングなどを行っている。

ヒアリングは、中間支援組織の在り方、行政とのかかわり方、事業展開の経緯などを伺い本調査における中間支援組織の体制構築の検討の参考とすることを目的とした。

2) 結果概要

ヒアリングの結果から、NPO 法人 birth は小さな実績の積み上げから、採算がとれるような事業の受託につながり、今の体制になっていた。また、受賞することも重要な点であり、公園では関わって4年目に応募することになっている考えも伺うことができた。

組織の経営については、財務や会計に詳しい人が必要であり、経営は最初から戦略的に考えて進めていく必要があるなど先をいく中間支援組織の団体から学ぶ点があるヒアリングであった。

<ヒアリングの結果概要>

- ・NPO 法人 birth は、小さな実績の積み上げが、近年の中間支援組織の事業に繋がった。
- ・NPO 法人は組織として、役割分担をして経営する必要がある。
- ・目指す中間支援組織の在り方を定めた方がよい。

(2) 中間支援組織の運営体制の検討

試行結果を受けて中間支援組織の運営体制を検討し図 4-59 に示す。

1) 中間支援組織の運営イメージ

- ・中間支援組織（風致）を中心として、各地域の核となる団体や人とネットワークを築く。地域では核となる団体等を中心として活動することで、広範囲でGIの普及を展開する。
- ・中間支援組織は、GIの目指すビジョンを核となる団体・人と共有し、連携を図りGIの推進を図る。
- ・専門家、企業とも連携しながら杉並区が抱える課題をGIにて解決していく。

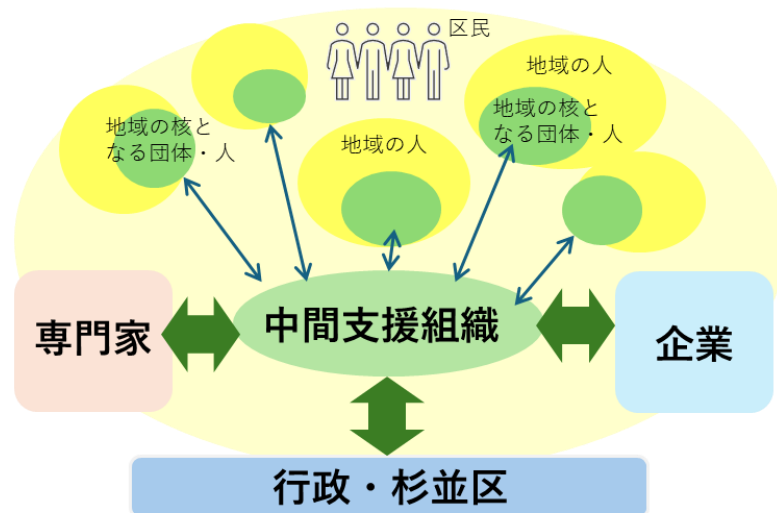


図 4-59 中間支援の運営イメージ

2) 中間支援組織に求められる能力

中間支援組織に求められる能力は、当初想定していた専門性、機動力、人材ネットワーク、地域性に加えて「関係者を目指すビジョンに誘導し束ねる力」を追加する。

「関係者を目指すビジョンに誘導し束ねる力」とは、GIを推進していくために関係する区民、各地域の市民団体、企業、雨庭の整備を担う施工業者、維持管理を担う造園業者など全ての過程に関わる関係者に、杉並区のGIビジョンで設定した生物多様性の保全と創出による社会課題の解決の考え方を伝え、これらの関係者と目標を共有して、区内のGIを展開していく力とする。

なお、調査開始時に設定した求められる能力を以下に示す。

『当初設定した中間支援組織に求められる能力』

- ・**専門性**：雨庭の効果的な整備箇所、整備方法の知識、整備ができる
- ・**機動力**：行政ではすぐに対応できない個別相談の対応ができる
- ・**人材ネットワーク**：GIに関連する行政、市民団体、地域のキーマン、地域外を含めた学識者や専門家等との関係性を築いている
- ・**地域性**：杉並区の歴史、地形、生物などを把握しており、かつての地形などから体験の場の立地特性、GIの展開を考えることができる
また上記と関連するが地域の人とのつながりを持っている

本調査では、求められる能力を有する単独の組織にて中間支援を試行した。

このとき、専門性など別途必要な要素（技術、人手など）は外部との連携で補うものと位置づけている。

今後、複数の団体を束ねる役割を担い、コーディネートを行う際には中立性が求められるため、複数の関係機関で中間支援組織の体制を構成することも考えられる。

3) GI ビジョンを実現するための実施事項

グリーンインフラを杉並区内に展開し

『杉並のGI 雨水がはぐくむ、みずといのちの共生』を実現するための実施事項

グリーンインフラを杉並区内に展開してビジョンを達成するためのプロセスを検討し、各段階における実施主体を杉並区、中間支援のどちらかで示した。

緑の枠の①～⑤は雨庭を広げていくことを念頭においたプロセスであり、薄ピンクのネットワークの形成、人材育成、区への提案は、プロセスとは別に中間支援組織または行政と中間支援組織が連携して日ごろから取り組まなければならない事項である。

また、薄黄色で着色した項目は本調査で検討した項目である。それ以外の項目は、行政との連携した検討または、中間支援における自主事業としての検討が必要となる。



図 4-60 ビジョン達成に向けたプロセス

4-10. 運営調整

情報基盤整備及び中間支援の発掘、資金確保の仕組みづくりの検討の調整し、中間支援組織による運営の試行をサポートした。

杉並区とは対象とするグリーンインフラとは何か、中間支援組織の役割や求められる能力について議論を重ねた。このほか、情報基盤整備、中間支援組織の運営の関係者全員での全体会議を9月から毎月開催して、本調査を遂行した。運営調整の実施状況を表 4-20 に示す。

なお、本調査での実施概要と今後の実施事項を**エラー! 参照元が見つかりません。**に整理した。

表 4-20 全体打合せなどの運営調整の実施 (1/3)

No	日時	活動分類	場所	参加者	内容
1	7/25 15:30~	官民対話	杉並区役所会議室	杉並区 建設技研 風致	<ul style="list-style-type: none"> ・中間支援組織の試行内容と着手時期の協議 ・本調査で扱うグリーンインフラの定義の確認 ・今後の進め方の確認
2	8/8 14:20~	自治体協議	WEB	杉並区 建設技研	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラの定義案、中間支援組織の定義案 ・GI 普及のストーリー（短期）案の協議
3	8/20 10:00~	自治体協議	杉並区役所会議室	杉並区 建設技研 風致 善福カエル	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラの定義、中間支援組織の定義の協議 ・GI 普及のストーリー（短期）案の協議
4	8/20 13:00~	体験の場 の下見	イマジナス	杉並区 建設技研 風致 善福カエル	<ul style="list-style-type: none"> ・GI に関連する実験体験の見学 ・イマジナスの施設見学
5	8/29 14:00~	中間支援組織 打合せ	阿佐ヶ谷地域区 民センター	建設技研 風致	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業での中間支援組織の実施内容の協議 ・杉並区 GI の定義、キャッチフレーズ
6	9/4 11:00~	自治体協議	WEB/対面	杉並区 建設技研 風致	<ul style="list-style-type: none"> ・29日の打合せ内容の杉並区への報告 ・8日全体会議の内容確認
7	9/8 15:00~	全体打合せ	杉並区役所会議室	杉並区、建設技研、 風致、 Groove Gesigns、善福カエル、 東京カートグラフィック、 ハビタ	<ul style="list-style-type: none"> ・杉並区のGI、ビジョン ・各団体の役割、実施事項、スケジュール
8	9/18 14:00~	企画課打合せ	杉並区役所会議室	杉並区（都市整備管理課、 企画課）、建設技研	<ul style="list-style-type: none"> ・すぎなみボイス・すぎなみプラスの本事業での活用についての相談
9	9/18 15:00~	打合せ	杉並区役所会議室	杉並区（都市整備管理課）、建	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の設置について：窓口の機能や使い方、

				設技術研究所、 風致	WEB の窓口をすぎなみプラスを活用することの確認
--	--	--	--	---------------	---------------------------

表 4-20 全体打合せなどの運営調整の実施 (2/3)

No	日時	活動分類	場所	参加者	内容
10	9/26 10:00~	打合せ	WEB	杉並区（都市整備管理課、企画課）、建設技研、風致 Groove Gesigns、善福カエル	・すぎなみプラスを活用した相談窓口の設置について 記載内容、機能、スケジュールの相談
11	9/29 13:00~	打合せ	WEB	建設技研、風致、東京カートグラフィック	・事例マップ：掲載情報、使用する WEB 公開のマップについて確認
12	10/6 15:00~	打合せ	WEB/対面	杉並区、建設技研、風致、Groove Gesigns、善福カエル、東京カートグラフィック、ハビタ	・検討状況の確認・共有
13	10/8 10:00~	現地確認	猿田彦神社	杉並区、建設技研、風致 (東京都)	・体験の場の候補地の確認
14	10/17 夕方	窓口開設	—	杉並区、建設技研、風致、Groove Gesigns	・窓口開設 運用開始予定
15	10/19 10:00~	体験の場・窓口	善福寺川公園	杉並区、建設技研、風致、善福カエル	・GI の紹介、水の浸透実験、川の体験など
16	10/23 14:30~	ヒアリング	済美小学校	建設技研、風致	・小学校への GI に関連する課題のヒアリング
17	10/27 17:30~	打合せ	WEB	建設技研、風致、善福カエル	・体験の場の企画相談
18	11/10 15:00~	打合せ	WEB/対面	杉並区、建設技研、風致、Groove Gesigns、善福カエル、東京カートグラフィック、ハビタ	・検討状況の確認・共有
19	11/26 18:00~	打合せ	WEB	建設技研、風致、善福カエル、ハビタ	・専門家派遣について
20	12/1 18:00~	打合せ	WEB	建設技研、風致、善福カエル	・認証制度について
21	12/2 13:00~	意見交換	WEB	杉並区、建設技研、風致	・birth 佐藤様 と中間支援組織の立ち上げ、仕事内容について意見交換

22	12/2 18:00～	打合せ	WEB	杉並区、建設技 研、風致、善福 カエル	・資金調達について
----	----------------	-----	-----	---------------------------	-----------

表 4-20 全体打合せなどの運営調整の実施 (3/3)

No	日時	活動分類	場所	参加者	内容
23	12/6 11:00～	体験の場	柏の宮公園	杉並区、建設技 研、風致、善福 カエル	浸透実験、雨庭メンテナンス
24	12/8 15:00～	打合せ	WEB/対面	杉並区、建設技 研、風致、 Groove Gesigns、善福カ エル、東京カー トグラフィック、ハビタ	・検討状況の確認・共有
25	12/22 13:00～	打合せ	対面	杉並区、建設技 研、風致	・成果、今後の方向性の打合 せ
26	1/8 15:00～	打合せ	WEB/対面	杉並区、建設技 研、風致、 Groove Gesigns、善福カ エル、東京カー トグラフィック、ハビタ	・検討状況の確認・共有

表 4-21 情報基盤整備に関する実施概要と今後の実施事項

項目	実施概要	今後の実施事項
<p>2.2. 相談窓口の開設 グリーンインフラ用の意見交換・マッチング可能な掲示板、活動共有MAP、相談窓口をまとめて開設・運用し一元管理していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月27日にすぎなみプラスに「地域のグリーンインフラの輪を広げよう」を開設した。 ・記事を投稿してGIを紹介している。 ・個別相談窓口も設けて、相談も件あり。そのうち5件対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談への対応が継続中であり、業務終了後も継続して対応を行う予定である。 ・相談窓口は継続予定だが、本調査終了をもって一旦すぎなみプラスでの募集を停止する。
<p>2.3. 専門家派遣制度の検討 相談窓口への問い合わせに対する技術相談や指導対応のほか、区民向けの指導などを実施する制度を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家の派遣制度を検討するなかで、派遣ではなく専門家との連携と定義することになった。 ・GIに必要な専門知識から、連携する専門家リストを作成中。 ・相談への対応を想定したヒアリングシート、GIの現場を引き継いで行けるカルテを検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者に対する専門家の派遣は相談者とのタイミングもあり、工期外となる予定。 ・ヒアリングシート、現場カルテなどを実際に活用すること、活用を踏まえた改善は今後実施する必要がある。
<p>2.4. MAP作成・公開 ポテシージャルや実施箇所等の情報をMAP化しWebアプリにて閲覧環境を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Googlemapを活用してMAPを制作。 ・基盤情報として、地形、流域界、浸水実績、浸水想定ハザードマップの状況を掲載し、その上にGIの事例を解説付きで表示できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MAPの公開と運用を継続して行っていく。 ・MAPに掲載する事例箇所は、登録制度と連携させて運用を図る。 ※MAPの所有は杉並区、運用は中間支援組織を予定する。
<p>2.5. 認証制度の作成 雨庭認定制度の事例を踏まえ、杉並区版の雨庭認定制度を設立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認証制度を行うには事例数が少なく、杉並区のみでの認証制度では権威も低くなると考え、GIを広げることなどを念頭に登録制度として検討した。 ・登録時にランクをつけて、ランクに応じたたなみすけステッカーを配布する仕組みを検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討した登録制度を運用を開始し、運用しながら制度の改良を図っていく必要がある。 ・ゆくゆくは認証制度を目指すため、他組織や地域における認証制度の運用状況等を把握し、杉並区版の制度を検討できるようにする。
<p>2.6. 体験の場の提供 学校や公園、区の施設を候補として見学可能な雨庭を造成。廃校なども候補として、集える場づくりを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラを体験して理解してもらえらる場として、善福寺川発見（10/19）と青空ワークショップ（12/6）を企画、開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園での体験の場の提供を各地区にて展開し、区内にGIを展開していく必要がある。 ・各地区での展開の他、常時体験の場を提供できる施設や場の確保にむけて、中間支援組織によるフィールドの指定管理の実施を検討、試行する。

4-11. 地方公共団体にとっての有効性

今回対象とした杉並区にとっての本事業の有効性として、各取組の効果と課題を表 4-22 に整理した。

表 4-22 各取組の効果・課題

取組み	効果	課題
相談窓口 の開設	個人・企業・学校からの相談があり、中間支援組織が入ることで区民等へわかりやすい言葉で行政の考え等を伝える翻訳の役割を果たした。 相談内容によっては、行政の窓口対応の負担軽減も果たすことができた。 すぎなみプラスフォロワー数：182人（2026.1.28時点）	本調査後も中間支援組織による窓口の運営を継続的に実施すること。これにより、G I の実践をサポートすることができる。 相談から、現場の整備までが連続している事例もあり、中間支援組織としての相談への対応がどこまでなのか、線引きが必要である。 整備など費用が発生する段階では、公益性を確保しつつ施工ができる業者などへ引き渡していく必要がある。
専門家派遣制度 の検討	相談内容に応じて、必要な専門家を抽出して一覧として整理できた。	相談の進捗から専門家派遣までは実施できていない。 今後実施する際には、中間支援組織と専門家の間での依頼の手続きや、対応内容に応じた妥当な費用の設定を行う必要がある。 また、整備にあたって生物とG I を理解して施工ができる職人の育成も必要である。
MAP 作成・公開	G I の広がり、地理的な条件等を確認することができる事例MAPを制作。区民にG I の事例を伝えることができる。なお、本調査後もMAPの使用が可能である。	継続したマップの運用により、G I の広がりを可視化していく必要がある。 運用は、登録制度と連携していく。
認証制度 の作成	雨庭の登録だけでなく、人の繋がりを築くことができる登録制度の在り方を検討した。	登録制度として検討した。今後運用して実態に合わせて制度を改良していく必要がある。 将来的には、認証制度として運用できるよう、技術面、制度面など全国の他事例を把握しながら検討を進める必要がある。
体験の場 の提供	区民へ区の課題とG I を伝える場を設け、公園来訪者へ伝えることができた。	より広く区内で体験の場を展開して、G I を普及していく必要がある。 このため、各地区の公園等での開催とともに、常時体験の場を提供でき、集える場の整備を行う必要がある。
資金確保の 仕組みづくり	専門家派遣、相談窓口の対応を対価を得て運営することを検討。その他自主事業として研修会、スタディツアーの企画運営で参加費を得る仕組みを検討した。 将来的には、指定管理者制度を活用したG I の拠点の運営の実施も目指す。	多角的に 今後、価格の設定などを行い、対価を得て中間支援の活動を展開するほか、G I 拠点の実現に向け、場所の選定、指定管理者制度の試行的な活用など段階を踏んで実現していく必要がある。 同時に、自主事業に取り組む必要がある。

また、杉並区において GI の普及・展開にあたり中間支援組織が必要な理由を以下のとおり整理した。

杉並区の GI の普及・展開にあたり中間支援が必要な理由

- ・宅地が 7 割である杉並では、豪雨対策を公共のインフラの他に住宅地で対応する必要がある。
- ・区民に豪雨による浸水リスク、合流式下水道の課題の理解を広め、雨庭など雨水の浸透機能をたかめる GI の普及を行う必要がある。
- ・区民に理解を広げるためには、地域とのネットワークをすでにもつ地元の団体が中間に入り、豪雨の課題と GI による対策をわかりやすく区民に伝えていくことが必要になる。



公の目的である治水対策、浸水被害の軽減を達成するために、区民の協力・実践が必要であるため、区と区民や活動団体をつなぐ中間支援が欠かせない

また、今回の運営の試行を踏まえると、グリーンインフラは杉並区内の複数部署を横断する調整が必要となる。複数部署に跨る情報を中間支援組織がとりまとめて、区民に情報を伝える役割を果たしていた。

行政側の有効性としては、区民への問い合わせに対応する時間を短縮することが可能であり、効果的・効率的にグリーンインフラの実装が可能となる。

グリーンインフラのビジョンを各関係者が共有し、なおかつ行政、中間支援組織の日ごろのコミュニケーションが円滑であれば、中間支援の活動もより有効なものになると考えられる。

5章. 今後の進め方

5-1. 今後の事業化にあたっての検討事項・課題

今後の事業化にあたっての課題を、グリーンインフラを広げる、中間支援の活動を継続する、技術の向上と発展、他分野の展開の観点から以下のとおり整理した。

《周知》

- ・ グリーンインフラの認知度の向上、重要性の理解促進
⇒方策：広報・情報発信の機会の増加、グリーンインフラの効果の計測と公開
- ・ 住宅地での認知度向上
⇒方策：家主や不動産関係の企業がインセンティブを感じられる社会的な仕組みづくり（その一つが認証制度）

《継続性》

- ・ GI を学び、広げる人材の育成
- ・ 中間支援組織の運営資金

《GI 技術の向上・発展》

- ・ 専門家や企業との連携（共同研究・開発への取り組み）
例）集合住宅での各戸での GI の導入、浸透能の維持、メンテナンス方法の確立など
- ・ 技術資料・手引きの作成

《他分野への展開》

- ・ 福祉、地域振興、観光などへの展開のため、区の様々な部署との連携

5-2. 今後の事業化に向けたスケジュール

5-2.1 スケジュール

事業化とは、市場で継続的に収益を生み出すサービスとして確立し、世の中に提供していく一連のプロセス全体のことである。

中間支援組織が自立して杉並区内でのグリーンインフラの支援を展開することを目指したスケジュールを検討し、図 5-1 に示した。

なお、将来ビジョンとして目指すべき中間支援組織の姿、中間支援組織の業務内容、財政的な自立について以降に検討結果を示す。

事業化に向けたスケジュールは、フェーズ1の基盤形成期の3か年、フェーズ2の自立移行期の3か年を経て中間支援組織としての将来ビジョンに到達するものとした。

また、フェーズ展開として、フェーズ1、フェーズ2における位置づけと主な事業を表 5-1 に示した。

【フェーズ1：基盤形成期 R7～R9】

モデル事業による実績づくり、中間支援組織の認知度信頼性を高める時期。

区からの委託により中間支援の業務を実施する。

【フェーズ2：自立移行期 R10～R12】

指定管理者制度を活用した拠点の運営と自主事業を合わせて黒字経営を目指す。

【フェーズ3：将来ビジョンの実現 R13】

拠点の管理運営と自主事業

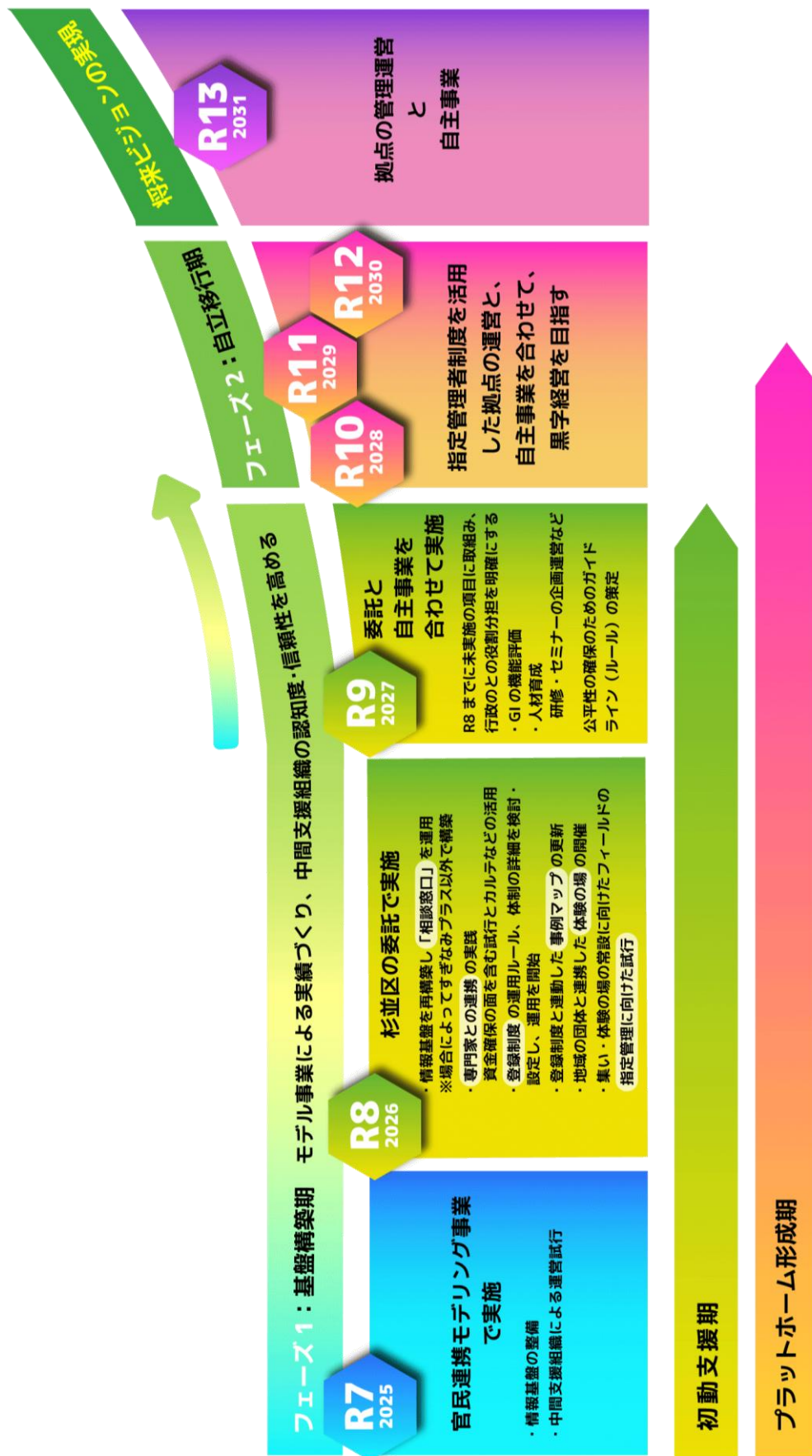


図 5-1 事業化に向けたスケジュール

表 5-1 将来ビジョンに向けたフェーズ展開

フェーズ 1 基盤構築期 R7 年度～R9 年度	位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ GI 普及の土台づくり ・ 行政からの業務委託、補助金・助成金を主軸に中間支援の業務を実施
	主な業務	<p>①相談窓口の運営：相談者の事情に合わせた柔軟な導入支援を行い、実践者を増やす。</p> <p>②登録制度の運用：点在する実践者をつなぎ、活動を見える化する。</p> <p>③環境学習支援： 区の環境学習事業等と連携し、学校教育における GI のカリキュラム化、次世代の担い手育成を支援。</p> <p>④人材育成： GI 実践の担い手となる人物、GI の整備の技術を持つ職人の育成。</p> <p>※フェーズ 2 に向けて、拠点となる場所の選定、企業とのネットワーク形成などを実施。</p>
フェーズ 2 自立移行期 R10 年度～R12 年度	位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財政的な自立を目指す ・ 指定管理者となり活動拠点を運営するとともに、自主事業により中間支援の業務を実施
	主な業務	<p>①拠点の確保と運営：指定管者理制度等を活用して、区内の公園等を管理し、区民が GI の実物に触れられる「見本」や「学びの場」として運営。</p> <p>②自主事業の展開：企業の環境貢献活動（CSR・ESG 対応など）を支援する事業を展開。</p> <p>民有地の GI をまとめて環境価値（生物多様性への貢献度など）を評価・認証する手続きを支援、その維持管理を受託して収益を確保。</p> <p>※フェーズ 1 の業務は継続して実施。</p>

(1) 将来ビジョン

① 目指すべき中間支援組織の姿

目指すべき組織の姿を、「自走」する組織であり、「行政と対等なパートナーとして、ともに公共サービスを担う」組織であること、そのうえで、GIを支える豊富な人材を築くため人材育成を継続し、公平性を担保した運営ができていることと位置付けた。

「自走」する組織

- ・ 目標を達成するために自ら課題を発見し、判断し、行動する。
- ・ 業務委託を超えた収益の多角化

「行政と対等なパートナーとして、ともに公共サービスを担う」組織

- ・ 民設・民営の中間支援組織として、行政への提案を行える関係性・立場であること
- ・ 対等なパートナーシップの実現
- ・ 官民の「ハブ」として機能

自走により行政・企業・NPO等の論理を理解した「中立的なプロデューサー」であること

行政へ：民間のスピード感、技術の導入

民間へ：公共的大義名分、行政リソースへのアクセス提供、仲介機能により官民連携を加速させる※

※本検討における定義

- ・ 公共的大義名分は、個人の利益ではなく、社会時全体の共通の利益に資するものであるという正当な理由、根拠。
- ・ ここで対象とする行政リソースは、水害実績、下水道台帳、下水道流域図、GI整備状況、効果などのデータとする。
- ・ 仲介機能は、人・モノ・お金・情報を必要としている団体、個人へ橋渡しする。行政と企業や区民の間に立ち調整すること。

GIを支える豊富な人材の存在

- ・ 生物やGIの整備の知識や技術をもつ人材を育成し、GIの相談、計画、設計、整備が可能な人材を増やし続けている。

公平性の担保：「プロセスの透明化」「成果の社会還元」

適切なプロセスを設定し、ルールを明文化することで、情報を独占しない仕組みをつくる。

- ・ 情報の公開性の確保
- ・ 公共の利益との合致
- ・ ガイドライン（ルール）の策定
- ・ 行政側が、グリーンインフラのPPPエージェントとしての役割を期待

PPPエージェントの役割を果たすようになると連携から共創のステップへ移行する。

PPP(官民連携)エージェント：

行政と民間企業の橋渡し役となり官民連携事業を円滑に進める専門家

② 中間支援組織の業務内容

中間支援組織の業務内容は、杉並区の GI ビジョンである『杉並の GI 雨水がはぐくむ、みずといのちの共生』を実現するため、「自立した官民連携パートナー」として以下を実施するものとした。

業務内容

- ・雨庭等の GI を単なる雨水処理施設としてではなく、「地域の生物多様性に寄与する社会資本」として普及させることを目指す。
ここでは雨庭を、ビオトープとして生物の生息・生育空間であると定義する。
- ・区内の公園等を活用した活動拠点の確保、民間収益事業の確立により行政への依存度を低減させた「自立運営体制」を構築する。

対象箇所に応じた目標

GI の実践の場を私有地と公共空間の 2 つ分けられ、それぞれに対応した目標を設定した。特に私有地については、当面は、広く普及することを目指し、導入のハードルを下げ、GI の普及に取り組むこととする。なお、当面とは、普及啓発期間として令和 7 年度以降の 3 年を想定する。4 年目からは、GI 導入箇所に応じて生物多様性の機能の付加も並行して進める。

私有地（家庭・事業所）

本来は生物多様性の機能を有すべきだが、導入のハードルを下げ、雨水の貯留・浸透による「治水機能」と身近な緑化による「修景機能」のすそ野を広げる。

公共空間（公園・拠点）

専門的知見に基づき、在来種の活用など「生物多様性の保全機能」を重点的に強化し、地域の自然環境の核を形成する。

③ 財政的な自立

財政的に自立した組織であるため、業務委託を超えた収益の多角化を行う。表 5-2 に示す自主事業と GI 推進拠点の指定管理から収益を得ることとする。

今回の調査を通して既に、大手ハウスメーカーより、集合住宅および戸建住宅へのグリーンインフラ導入や、生物多様性に配慮した緑地管理に関する技術相談・連携の打診があった。企業の「環境価値向上（不動産価値向上）」へのニーズは顕在化しており、専門的知見の提供が収益事業として成立する見込みが高い。

表 5-2 中間支援組織の収益

自主事業	GI 推進拠点の指定管理
<ul style="list-style-type: none">・私有地への GI 導入支援・私有地の GI 維持管理代行・企業向け研修、セミナー、勉強会などの人材育成事業・イベント・物品販売（雨庭整備・維持管理関連製品の開発・商品化）	<ul style="list-style-type: none">・GI ショールーム（見本市）の運営・人材育成フィールドの運営・イベントの企画運営

5-2.2 杉並区におけるグリーンインフラの展開

(1) グリーンインフラの展開

杉並区においてどこにどのように雨庭を増やしてグリーンインフラを展開していくのかをとりまとめた。GI 普及の展開は、公園、学校、道路わきの空き地などの公共空間にて GI である雨庭を整備し、区民に知ってもらう。その後、自分の家でできることを実践できるようにサポートして、雨庭を増やしていく。また、知ってもらうための整備のワークショップ、研修会を専門家とも連携して実施する。この展開を図 5-2 に示した。

なお、この展開を進めるにあたり区役所と区民及び中間支援組織との協働の定義を、以下のように設定した。

区民・中間支援組織との協働の定義

『同じ目標・GI のビジョンを実現するパートナーとして、
お互いのもつ資源を共有・活用しながら活動に取り組んでいく。』

- ・ 目標の共有：目標を共有し、その達成のために様々な主体が参画する。
- ・ パートナー：対等な関係性、お互いを尊重する。
- ・ 資源の共有・活用：それぞれの主体が持つ人材、技術、情報、資金などの資源を提供し、補い合う。

杉並区における雨庭を中心としたグリーンインフラの展開

✓ どこで

杉並区の大部分を占める住宅地にて雨庭を増やしていく

✓ どうやって

- ・ 杉並区の課題と GI の情報発信を行い、区民の興味関心を高める
⇒GI 情報基盤（すぎなみプラス）、事例マップ、登録制度、体験の場（あおぞらワークショップなどイベント）
- ・ 興味を持った人が実践するためのサポート
⇒相談窓口、専門家の派遣、雨庭の管理や評価方法の情報提供

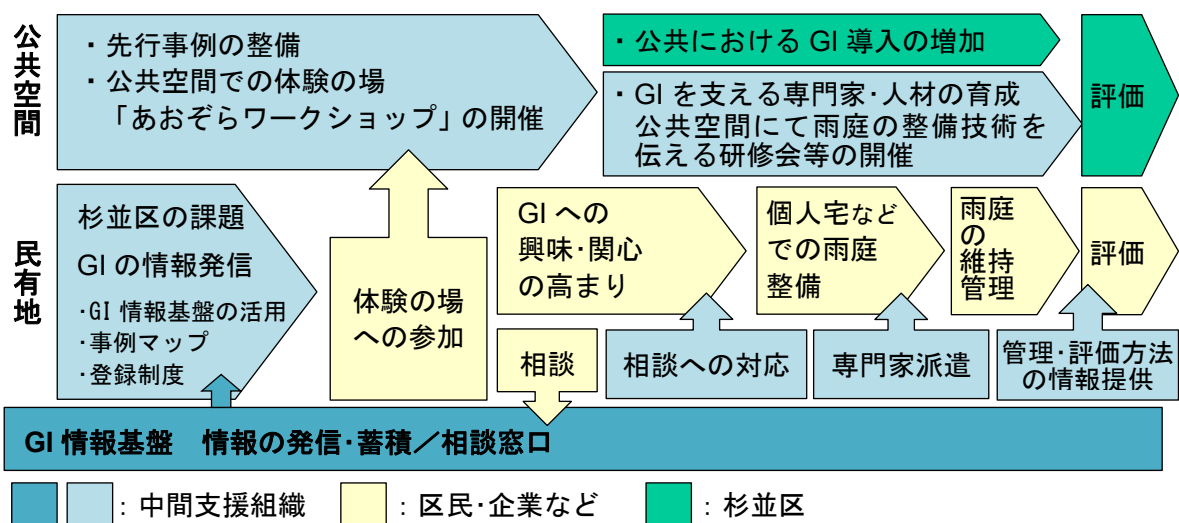


図 5-2 杉並区におけるグリーンインフラの展開

(2) 行政と中間支援組織の役割

行政と中間支援組織の役割分担を、GIのビジョン達成に向けたプロセスに沿った実施事項(図4-60)に基づき検討し、表5-3に整理した。

表 5-3 杉並区と中間支援組織の役割
ビジョン達成に向けたプロセス

段階	自治体	中間支援組織
区民への周知	<ul style="list-style-type: none"> ・区の媒体を用いた広報の実施 ・情報基盤としてのすぎなみプラスの場の提供 ・体験の場の共催と道具などの提供支援 ・指定管理者制度を活用した拠点の創設に向けた調整、検討 ・事例MAPの管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のネットワークによる広報 ・情報基盤の構築・運用(すぎなみプラスの活用) ・体験の場の企画・実施運営 ・指定管理者制度を活用した常設の集い・体験の場の管理・運営 ・事例MAPの運用(評価:GIの普及状況の見える化)
相談サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口対応の連携 ・公共に関する相談内容への対応 ・利害関係者との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の開設・運営(自治体支援の必要性、必要な専門内容な判断し、相談の対応先を仕分け) ・専門家の派遣(連携)
GIの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・公共空間における整備の実施(公共事業) ※公共事業として整備、整備内容は中間支援組織や区民と連携して検討する場合も有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民有地における実施(専門家、施工業者の紹介)のサポート ・公共空間の整備に関する技術的なアドバイス、コーディネート
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・杉並区全体のGI実施による効果の評価・検証点検 ・公共空間におけるGIの効果計測(委託も含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・民有地におけるGIの効果計測(各戸での計測方法の開発、計測実施、機器販売)
維持管理・改良	<ul style="list-style-type: none"> ・公共空間における整備箇所の維持管理、改良の実施(委託も含む) ・GIの他分野への展開(庁内連携・調整) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験の場での維持管理の実施 ・公共空間のGIの維持管理 ・技術面での維持管理方法の確立など

プロセス外の実施事項

実施事項	自治体	中間支援組織
ネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・GIASの活用 ・行政が有する人材、事業者等の紹介・マッチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録制度の運用(事例MAPと連動、登録者への情報発信、参加呼びかけ等) ・各地域に核となる団体・人物探し
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体職員、業務受注者向け研修の企画 ・中間支援組織が企画する研修、講習会等の後援、共催 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業研修、講習会・WSの開催、学校の出前講座などの企画・実施 ・技術資料・手引き作成
区への提案	<ul style="list-style-type: none"> ・提案を確認・判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善提案、課題のフィードバック ・施策の提案

(3) 他の自治体等への展開にあたっての条件や課題

他の自治体等への展開にあたっての条件と課題を検討項目ごとに表 5-4 に整理した。

表 5-4 横展開にあたっての条件や課題 (1)

項目	条件	課題
相談窓口の開設 グリーンインフラ用の意見交換・マッチング可能な掲示板、活動共有 MAP、相談窓口をまとめて開設・運用し一元管理していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援組織が窓口を担う場合には、組織の信頼度が必要になる ⇒自治体名を出して連携していることを示すとよい。杉並区の既存仕組みであるすぎなみプラスを活用し、区と連携していることも示して窓口を開設した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談窓口の存在の周知：自治体が持つ既存の市民への情報発信方法を含め、複数の方法で周知を図る必要がある。 ・ GI の相談といっても、はじめて GI を聞くひとは何を相談してよいのかわからない。GI とは何か、自治体が目指す GI の方向性を伝えることを同時に行う必要がある。
専門家派遣制度の検討 相談窓口への問い合わせに対する技術相談や指導対応のほか、区民向けの指導などを実施する制度を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援組織となる団体が専門家との連携を構築しているとスムーズに運用に移行することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家派遣を、依頼者からの報酬を得て、専門家派遣が実施できるかを試行する必要あり。対応内容に対する金額等を設定する必要がある。
MAP 作成・公開 ポテンシャルや実施箇所等の情報を MAP 化し Web アプリにて閲覧環境を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活用する基盤情報を整理していること。 ・ 地図情報は、国土地理院に利用申請を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Googlemap の場合、レイヤー数の制限があるため、掲載情報を絞り込む必要がある。
認証制度の作成 雨庭認定制度の事例を踏まえ、杉並区版の雨庭認定制度を設立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認証制度の目的、認証組織の権威、認証のための審査条件・技術の整備が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認証にあたり、認証機関の信頼性、認知度が必要。 ・ 自治体の G I の取組みの度合い、技術面の整備に応じて認証制度に移行していく。
体験の場の提供 学校や公園、区の施設を候補として見学可能な雨庭を造成。廃校なども候補として、集える場づくりを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人に参加の機会を提供するために公共の場にて体験の場を行う。このため自治体と協働で行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常時集い・体験できる場の提供が望ましい。公園等のフィールドの指定管理に向けて検討する必要がある。

表 5-4 横展開にあたっての条件や課題 (2)

項目	条件	課題
<p>中間支援組織の発掘 中間支援組織に求められる役割や能力をもとに団体を選定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ GI の知見と地域の将来ビジョンを持ち下記の有する団体 ・ 専門性、機動力、人材ネットワーク、地域性 ・ 関係者を目指すビジョンに誘導し束ねる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体や地域における GI のビジョンや展開の方向性に応じて中間支援組織に求める条件が異なると考えられる。それぞれで必要な条件を整理する必要がある。
<p>運営調整 実施方針①の検討・実施内容、及び中間支援の発掘、資金確保の仕組みづくりの検討の調整し、中間支援組織による運営の試行をサポートしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援組織の立ち上げにあたって、運営の調整役の担当がいると滞りがすくなく進みやすい。 ・ 中間支援組織の構成員が担うこともあると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本調査ではモデリング事業として実施したため、運営調整を担う役割を配置したが、配置できるとは限らない。
<p>資金確保の仕組みづくり 中間支援組織としての活動を行うための資金の仕組みを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援組織が担う役割に応じ資金確保の仕組みが異なると思われる。 ・ 様々なルートで財源を確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政からの委託も財源確保の1つに含むが、自立し、活動を継続的に行えるようになることをめざすことが望ましい。
<p>中間支援組織による運営の試行 中間支援組織が構築した情報基盤の管理・運営を担い、相談窓口、体験の場など試行的に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援組織が担当する実施事項、権限などを明確にする。 ・ 中立性を確保した中間支援の在り方を行政と中間支援組織にて事前に確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援組織の役割、権限を決めるまでに時間を要すると考えられる。